

Red Data Book

レッドデータブックおおいた

～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～

《普及版》

2002
大分県

レッドデータブックおおいた

～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～

《普及版》

2002
大分県

Red Data Book

発刊にあたって

大分県知事 **平松 守彦**



大分県は、雄大な高原が広がるくじゅう連山や、特徴ある原生林が残る祖母・傾山系、さらにはリアス式で変化に富んだ日豊海岸など豊かな自然環境に恵まれており、多様な野生生物が生息・生育しています。

しかしながら、近年の急激な都市化の進展や環境の変化等様々な要因により、この多様な自然環境にも変化が見られ、絶滅が心配される野生生物も見られるようになってきています。

このようなことから、本県では、県内で絶滅のおそれのある野生生物の現状を把握するため、平成12年度に専門書として「レッドデータブックおおいた～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～」を作成しました。

このたび、この大分県版のレッドデータブックを、県民の皆様により親しみやすく、また、利用しやすくするために新たに普及版として本書を発刊いたしました。

本書が、野生生物に関心を持たれている方々をはじめ、多くの県民の皆様を活用され、野生生物の保護の一助となれば幸いです。

終わりに、本書の編纂にあたられた大分県野生生物保護対策検討委員会の委員の方々をはじめ、ご協力いただきました多くの関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

発刊にあたって

I. 大分県自然概要1

大分県自然地域区分図

1. 中津・宇佐・周防灘地域
2. 英彦山・犬ヶ岳地域
3. 日田・津江地域
4. 耶馬溪・玖珠・国東地域
5. 別府湾岸及び後背地域
6. 九重・由布鶴見火山群地域
7. 大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流地域
8. 豊後水道及び後背地域
9. 石灰岩地域

II. 大分県のレッドデータブック23

1. 県版レッドデータブック作成の背景と意義
2. 普及版レッドデータブック作成の概要
3. 普及版の内容
4. 普及版に掲載した種数一覧
5. 大分県野生生物保護対策検討委員会の体制

III. 普及版に掲載した絶滅のおそれのある野生生物

シダ植物33

マツバラ／スギラン／シナミズニラ／カネコシダ／フジシダ／ハマホラシノ
ブ／ヒメウラジロ／オトメクジャク／キドイノモトソウ／カミガモシダ／サカ
ゲイノデ／ニセヨゴレイタチシダ／テツホシダ／イワデンダ／アソシケシダ／
ツクシノキシノブ／デンジソウ／アカウキクサ

種子植物53

ツクシビャクシン／ミズオオバコ／ケカモノハシ／クジュウツリスゲ／タシロ
スゲ／サンカクイ／ビロウ／ツクシヒトツバテンナンショウ／タマボウキ／ハ
マカンゾウ／ウバタケギボウシ／ヒメユリ／エヒメアヤメ／キシマシヤクジ
ョウ／タガネラン／クマガイソウ／ミズチドリ／ソハヤキトンボソウ／ナガラ
ン／ハナガガシ／ヤナギイチゴ／チョクザキミズ／クロフネサイシン／ツチト
リモチ／ミヤマツチトリモチ／オグラセンノウ／オニバス／タンナトリカブト
／フクジュソウ／カザグルマ／ヤマシヤクヤク／オキナグサ／イカリソウ／ヤ
マブキソウ／モウセンゴケ／タコノアシ／ウメバチソウ／ヤシヤビシヤク／ナ
メラダイモンジソウ／センダイソウ／シモツケソウ／レンリソウ／クズモダマ
／ツクシフウロ／ブンゴボダイジュ／コウライトモエソウ／キスミレ／ミヤマ
ガンピ／ヒュウガトウキ／ツクシボウフウ／イワカガミ／ウメガサソウ／ツク
シドウダン／ツクシアケボノツツジ／コケモモ／ミヤマコナスビ／サクラソウ
／アサザ／ムラサキセンブリ／クロバナイヨカズラ／ゲンバイヒルガオ／カイ
ジンドウ／ツクシシオガマ／ヤマトラノオ／マンセンレンブクソウ／サワギキ
ョウ／ヒゴタイ／ブゼンノギク／コウリンギク／ツクシタンポポ

蕨 類125

コアナミズゴケ／クマノゴケ／ミズスギモドキ／イトゴケ／ヒメタチヒラゴケ
／マキハキヌゴケ

哺乳類133

キクガシラコウモリ／ムササビ

鳥 類137

クマタカ／イヌワシ／ヒクイナ／ズグロカモメ／コアジサシ／カラスバト／ア
オバズク／ヨタカ／アカショウビン／サンショウクイ／サンコウチョウ／ホシ
ガラス

爬虫類151

シロマダラ／クサガメ

両生類155

オオサンショウウオ／オオイタサンショウウオ／オオダイガハラサンショウ
ウオ／トノサマガエル

魚 類161

アリアケギバチ／アカザ／カワアナゴ／トビハゼ

昆虫類167

モートンイトトンボ／オオエゾトンボ／ベッコウトンボ／ハッチョウトンボ／
エサキアメンボ／タガメ／ハリサシガメ／ヨドシロヘリハンミョウ／ルイスハ
ンミョウ／ゲンゴロウ／アカマダラセンチコガネ／オオチャイロハナムグリ／
クロマダラタマムシ／ギョウトクテントウ／クロサワヒメコバネカミキリ／ジ
ュウジクロカミキリ／ブロイニングカミキリ／アサカミキリ／カツラネクイハ
ムシ／スジボソヤマキチョウ／ヒメシロチョウ／タイワンツバメシジミ本土亜
種／クロシジミ／クロツバメシジミ／シルビアシジミ本土亜種／キマダラモド
キ／ヒメスズメ／ヒメシロシタバ

クモ類197

ブンゴキムラグモ／ツクネグモ／ホラヒメグモ類／コガネグモ

甲殻類203

ハクセンシオマネキ／アリアケモドキ／カブトガニ／アジアカブトエビ

陸・淡水産貝類209

オナガラムシオイガイ／オンセンミズゴマツボ／ワカウラツボ／オオイタシロ
ギセルガイ

<資 料>

大分県の絶滅のおそれのある選定種一覧215

生物分類群・カテゴリー別選定種217

自然公園・自然環境保全地域233

おわりに

種名索引236

表紙写真：キスミレ／裏表紙写真：アオバズク

I 章

大分県 of 自然概要

Red Data Book

大分県自然地域区分図



1 中津・宇佐・^{すおうなだ}周防灘地域



周防灘の干潟

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 テツホシダ（IA）、マルバオモダカ（IA）、ウミヒルモ（IB）、オニバス（IB）、ツクシナルコ（II）、ガガブタ（II）など。

【動物】 ズグロカモメ（IB）、アオギス（II）、ヤリタナゴ（準）、トビハゼ（準）、ナメクジウオ（IA）、ヘイケガニ（II）など。

●天然記念物

「宇佐神社叢」（国指定）、「三角池の水生・湿地群落」（県指定）



ヤリタナゴ



ガガブタ

本地域は沖積平野で、水田が広がり、穀倉地帯となっている。年平均気温15℃、その周辺地にシイ・カシ類の常緑広葉樹林が茂る。降水量は年間1,600ミリ以下で少なく、多くの灌漑用のため池がつけられている。丘には凝灰角れき岩の岩場がみられ、乾燥環境にある。周防灘は遠浅海岸で、干潮時には沖まで干潟があらわれ、河川の河口は塩湿地となっている所が多い。塩湿地では、ナガミノオニシバ、シオクグ、ハママツナ、フクドなどが群生し、コアマモやウミヒルモの生育地も確認されている。河川湿地やため池では、ヨシ、マコモ、ヒメガマ群落、ヒシ・ガガブタ群落やオニバス群落などがみられ、ため池上辺の湿地では、アシカキ群落やツクシナルコ群落、ジャヤナギ林などが繁茂している。海岸沿いにクロマツの防風林がつけられ、丘陵地の多くはスギ植林やアラカシ二次林となっているが、宇佐神社などでは優れたイチイガシ林が保全されている。岩場や尾根筋ではコナラ林やイブキシモチケ群落もみられる。

2 ひこさん 英彦山・犬ヶ岳地域



犬ヶ岳の稜線

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 オオフジシダ（IA）、ナガホノナツノハナワラビ（IA）、ヒメサジラン（IB）、ミスミソウ（IA）、シシンラン（IA）、ヒロハテンナンショウ（II）、トリガタハンショウヅル（II）、アオバスケ（準）など。

【動物】 ヤマネ（IA）、ムササビ（地域個体群）など。

●天然記念物

「犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地」（国指定）、「ゲンカイツツジ」（県指定）



ヒロハテンナンショウ



オオフジシダ

英彦山・犬ヶ岳地域は大分県の北端にあって、英彦山（1999.6m）から犬ヶ岳（1130.2m）、経読岳（992m）、雁股山（807m）と連なる稜線は福岡県との県境となる。一帯は日田耶馬英彦山国定公園区域となっている。山岳地域の地質は、筑紫溶岩並びに耶馬溪層からなり、平地は河岸段丘と沖積低地からなっている。気候は山地型で冬季の冷え込みが厳しく降雪量も多い。山国川沿いの平地は人類文化圏の水田耕作地となり、山腹はスギ・ヒノキの植林地が広がっていて、尾根筋の一部にコナラ林やアカマツ林がみられる。山系の自然植生は稜線部分にブナ林が残り、ツクシシャクナゲが群生する。尾根ではツガ林が発達している。また、岩場では自生のヒノキ林、溪谷地形のところではシオジ林がみられるが、いずれも面積は狭い。

3 日田・津江地域



津江山地のブナ林



ズミ



オヤニラミ

本地域は大分県の西部にあり、日田盆地とその背後地の標高1,000～1,200mの津江山系の山々を含む。その山系は福岡県、熊本県との県境になっている。日田盆地を流れる日田市三隈川流域は耶馬日田英彦山国定公園、背後地の山地は津江山系県立自然公園区域に指定されている。地質は新生代第三紀の花崗岩類や^{へんきゅう}変朽安山岩、第四紀の^{つくし}筑紫熔岩、耶馬溪溶岩と阿蘇溶岩などからなっている。気候は内陸山地型の気候区で、年降水量3,000ミリを超す県内最多雨地域であることから、スギ植林の適地として早くから植林され、この地域の80～90%はスギ林でおおわれている。自然林は標高1,000mを超える^{がくめき}岳滅鬼山、^{ごぜん}御前岳、^{しやか}釈迦ヶ岳、^{とがみ}渡神岳、^{しゅてんどうじ}酒吞童子山の山頂部のごく一部にブナ林やミズナラ林、谷沿いにモミ林やシオジ林が残っている。日田盆地及び周辺地の平地にはイチイガシ林やコジイ林が点在している。

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 ナカミシシラン（IA）、オオフジシダ（IB）、ヨコグラヒメワラビ（II）、ズミ（IA）、アカササゲ（IA）、アオハコベ（IB）、ヤナギイノコズチ（II）、フシノハアワブキ（II）など。

【動物】 ヤマネ（IA）、アリアケギバチ（II）、オヤニラミ（準）、ブンゴキムラグモ（地域個体群）など。

4 耶馬溪・玖珠・国東地域



深耶馬溪の溪谷



コタニワタリ



キシツツジ

●地域を特徴づける野生生物

【植物】コタニワタリ（IA）、サイゴクホングウシダ（IA）、カミガモシダ（IB）、ナガバヒゼンマユミ（IA）、イワギリソウ（IA）、キシツツジ（IB）、イワシデ（II）、プゼンノギク（準）など。

【動物】オオサンショウウオ（IA）、ブンゴキムラゲモ（地域個体群）など。

●天然記念物

「清田川のレンゲツツジ群落」（県指定）、「キシツツジ」（県指定）、「鹿嵐山のツクシシャクナゲ群落」（県指定）、「野平のミツガシワ自生地」（県指定）、「畳石のオトメクジャク」（県指定）、「高平のイワシデ林」（県指定）
「オオサンショウウオ」（国特別天然記念物）、「オオサンショウウオ生息地」（国指定）

耶馬溪と国東半島には凝灰角れき岩からなる地域が広がり、奇岩秀峰の連なる特徴的な耶馬溪の景観を呈して、本耶馬溪、深耶馬溪、裏耶馬溪、奥耶馬溪、津民耶馬溪、夷耶馬といった名勝地がある。岩場にはアベマキ林、イワシデ林やイブキシモツケ群落、谷沿いにはアラカシ林やホソバタブ林、イワタバコ群落などがみられ、特徴的な景観をつくっている。一方、玖珠地方では筑紫溶岩の上に流れ出た万年山溶岩からなる万年山、大岩扇山、青野山などメーサ（削られた溶岩台地）の地形が特徴的である。気候的には内陸にあって冬の寒さが厳しい地域である。植生は人類文化圏の水田・畑作地域、牧畜用の人工草地を除くと、耶馬溪・国東地域にはアカマツ林、玖珠地域には植栽されたクヌギ林やスギ・ヒノキ林が広がり、岩場の急傾斜地にミズナラ林やコナラ林が残されている。また、高原ではススキ草原が維持された所もある。

5 別府湾岸及び後背地域



別府湾の海岸崖地



カブトガニ

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 サンショウモ（ⅠA）、オトメクジャク（ⅠB）、ミズスギ（Ⅱ）、ミズワラビ（Ⅱ）、ツクシオオガヤツリ（ⅠA）、カザグルマ（ⅠB）、カワラサイコ（ⅠB）、ツクシテンツキ（Ⅱ）など。

【動物】 ニホンザル（準）、アオギス（Ⅱ）、アカオニグモ（準）、ブンゴキムラグモ（地域個体群）、ホラヒメグモ類（地域個体群）、カブトガニ（ⅠB）など。

●天然記念物

「内成・田代のオトメクジャク」（県指定）、「高崎山のサル生息地」（国指定）

本地域は、国東半島の南東部と佐賀関半島に囲まれた別府湾岸及び八坂川、大分川、大野川などの中・下流域。主として沖積地や丘陵地で、年平均気温15℃の等温線が通る常緑広葉樹林帯。年間降水量約1,800ミリ。別府湾岸は北側に砂丘及び隆起による海食崖となり、砂丘にはコウボウムギ群落、崖地にはシイ林やタブ林などの海岸林が茂る。南側の海岸は砂丘が続いていたが、臨海工業地帯となってほとんど消滅してしまった。後背地の低地や丘陵地も人為が強く及び、自然環境のかく乱が著しい。低地や丘陵地にはイチイガシ林、スダジイ林やアラカシ林などが発達していたが、多くはスギやクヌギの植林、マダケ林などにかわり、谷沿いには棚田が開かれている。「鎮守の森」や急傾斜地、溪谷周辺などにわずかな残存自然林をみる。



ミズワラビ

6 九重・由布鶴見火山群地域



九重火山群のミヤマキリシマ群落

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 フジシダ（準）、タニヘゴ（準）、ヌマクロボスゲ（IB）、シコクハタザオ（IB）、クサレダマ（IB）、ツクシビャクシン（II）、クサボケ（準）など。

【動物】 スミスネズミ（II）、カヤネズミ（準）、ニホンイタチ（準）、イヌワシ（IA）、オオジシギ（準）、ブンゴキムラグモ（地域個体群）など。

●天然記念物

「大船山のミヤマキリシマ群落」（国指定）、「九重山のコケモモ群落」（国指定）、「経塚山のミヤマキリシマ自生地」（県指定）、「御嶽権現社の自然林」（県指定）、「久住のツクシボダイジュ」（県指定）、「相狭間のブンゴボダイジュ」（県指定）、「イヌワシ」（国指定）



クサレダマ



オオジシギ

本地域は大分県の中央部の一部と南西部を占める火山地域。九重火山群及び由布・鶴見火山群の標高1,000～1,780mの火山と、すそに広がる標高500～1,200mの火山性高原から成り立っている。このうち自然の優れた地域は阿蘇くじゅう国立公園に編入されている。火山群地域の火山岩類は山陰系火山に属する角閃石安山岩^{かくせんせき}からなり、火山性高原は火砕流堆積物からなっていて、数層からの火山灰層でおおわれている。気候は内陸山地型の気候区で、年降水量は1,800～3,000ミリ。植生は山頂帯の風衝地にはミヤマキリシマ群落、岩角地にコミネカエデ林、山腹にブナ林やミズナラ林、コナラ林やクマシデ林、谷にオヒョウ林が発達している所がみられる。草原との境界にはノリウツギやツクシヤブウツギの低木林、カシワ疎林がみられる。火山性高原はエヒメアヤメ、キスミレなどの大陸系遺存植物を含むススキ草原が広がり、多くは放牧・採草地となっている。また、ヌマガヤ群落やヨシ・スゲ群落などの湿原植生が散在している。近年、高原一帯は植林や人工草地、土地開発などの改変が著しい。

7 大野川上流域, 祖母・傾山地, 北川上流地域



祖母山の尾根

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 オオレンシダ (IA), シイバサトメシダ (IB), ヒメスギラン (II), チョクザキミズ (IA), ソハヤキトンボソウ (IB), キレンゲショウマ (IB), ツクバネウツギ (II), ツクシアケボノツツジ (準) など。

【動物】 ヤマネ (IA), ニホンカモシカ (II), ムササビ (地域個体群), ホシガラス (II), オオダイガハラサンショウウオ (地域個体群), アマゴ (地域個体群), ブンゴキムラゲモ (地域個体群), フウレンホラヒメグモ (地域個体群), ブンゴホラヒメグモ (地域個体群), ソボホラヒメグモ (地域個体群) など。

●天然記念物

「御嶽の原生林」(県指定), 「奥祖母のオオダイガハラサンショウウオ」(県指定), 「祖母山系のイワメ (アマゴ)」(県指定)

この地域は九州東部の代表的河川である大野川水系と北川水系とが、北と南とに流れ、その源流は川上溪谷と藤河内溪谷で代表される。大野川上流域は阿蘇溶岩台地を侵食した丘陵地で、クヌギ林、コナラ林が繁茂し、スギ・ヒノキ人工林と耕作地が広がる。標高800m以上の山岳地域は、秩父古生層や中生代の四万十層群を基盤とする。気候は南海型の気候区に属し、年平均気温は15℃以下、雨量は山岳地域で3,000ミリを超える。古い火山の祖母・傾山系から新百姓山、夏木山、桑原山へと続く稜線は宮崎県との県境で、九州山地の脊梁となり、一帯は祖母傾国定公園に指定され、一部は森林生態系保護地域となっている。ここにはウラジロガシ林、モミ林、ツガ林、ブナ林など西南日本外帯を代表する自然林が発達し、森林の典型的な垂直分布がみられる。また、尾根筋のヒメコマツ林、ハリモミ林とともにケイビラン、ワタナベソウなどのソハヤキ要素の植物がこの地域を特徴づけている。



キレンゲショウマ

8 豊後水道及び後背地域



尺間山から豊後水道及び後背地を望む

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 ハマホラシノブ（IA）、リュウビンタイ（IA）、ハマナツメ（IA）、クズモダマ（IB）、ビャクシン（II）、ビロウ（II）、トサムラサキ（II）、ソナレノギク（II）、ハマカンゾウ（準）、ヤナギイチゴ（準）など。

【動物】 オオイタサンショウウオ（II）、ムラサキオカヤドカリ（IA）、カンダベッコウマイマイ（II）、イカリモンハンミョウ（II）など。

●天然記念物

「堅田郷八幡社のハナガガシ林」（国指定）、「竹野浦のビロウ」（県指定）、「高島のビロウ自生地」（県指定）、「暁嵐の滝岩上植物群落」（県指定）、「蒲江カズラ（クズモダマ）」（県指定）、「沖黒島の自然林」（県指定）、「横島のビャクシン自生地」（県指定）、「八坂神社のハナガガシ林」（県指定）
「佐伯城山のオオイタサンショウウオ」（県指定）



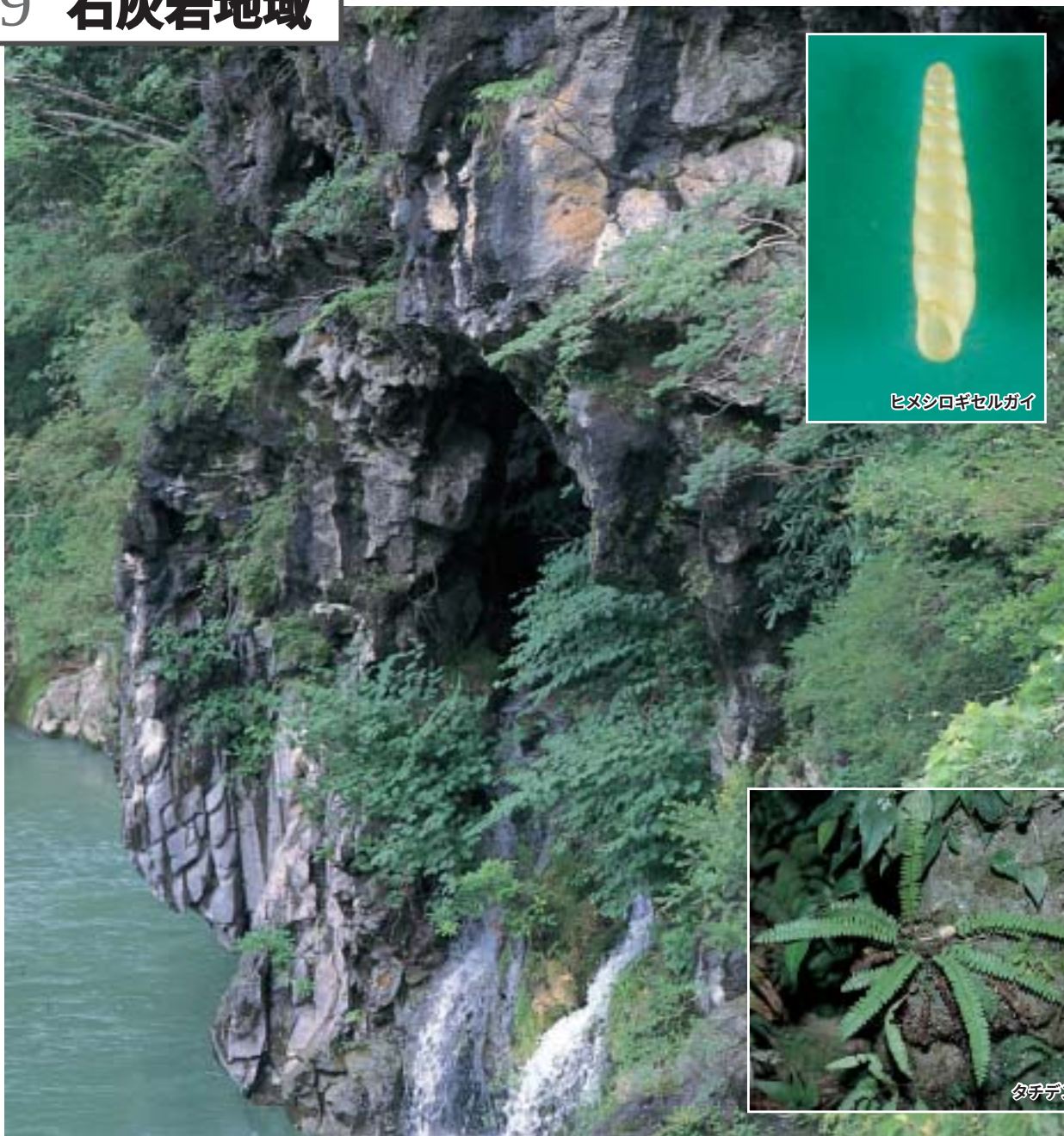
トサムラサキ



イカリモンハンミョウ

この地域は、佐賀関半島から蒲江町宇土崎にいたるリアス式海岸とその後背地で、古生代、中生代の三波川帯、秩父系、四万十帯などを構成する堆積岩・変成岩で特徴づけられる。海岸一帯は日豊海岸国定公園となっている。地域の北部は瀬戸内海型気候区に属し、南部は温暖で夏に雨が多く、年平均降水量は2,000ミリを超え、南海型の気候区に入る。黒潮の影響も大きく、ハカマカズラ・アコウなどの亜熱帯性の植物をみる。植生は佐賀関半島の先端付近から蒲江町仙崎までの岩場にウバメガシ林が繁り、土壌の深い谷部にタブノキ林が、また海岸斜面にタイミンタチバナを低木層とするスダジイ林がある。後背地は丘陵地にコジイ林が、岩場や谷斜面にアラカシ林がみられる。代表的な林や樹木には鶴見町大島のアコウ林、沖黒島のビロウ、佐伯市城八幡社のハナガガシ林、蒲江町王子神社のスダジイ林、宇目町鷹鳥屋のアカガシ林などがあげられる。豊富な常緑樹林にはニホンジカ・ニホンザルなどが多く、黒潮の海にはアオウミガメ・アカウミガメ・タイマイなどが生息する。島にはカワウやオオミズナギドリの営巣地があり、ムラサキオオヤドカリ・カンダベッコウマイマイがいる。また佐伯市城山はオオイタサンショウウオの模式産地である。

9 石灰岩地域



本匠村小半石灰岩地

九州の中央部を東西に横切る臼杵―八代構造線南側の秩父帯（外帯）は、おもに古生代・中生代の堆積岩からなり、その一部に石灰岩の層が介在している。津久見市から野津町、三重町にかけて幅2km、長さ30kmにわたり帯状に分布する石灰岩の層は最も典型的。本匠村、宇目町などにも石灰岩の露頭がみられる。また、地下には鍾乳洞がつくられ、代表的なものとしては狩生、風連や小半などの鍾乳洞がある。この地域の植生はおおむね常緑樹林で、ナンテン、ビワなどを伴うアラカシ林、イヌガヤ林などがみられ、特殊な動植物相の存在が知られている。コケ植物では、この地域を基準標本産地とするヒメタチヒラゴケやコゴメツヤゴケ、シダ植物では、日本でこの地域だけに生育するハウライクジャク、種子植物ではこの地域に特産するタガネランがある。動物では、鍾乳洞などをすみかとするコウモリ類やフウレンホラヒメグモ、カリユウホラヒメグモがみられ、この地域が模式標本産地となっているオナガラムシオイガイやヒメシロギセルガイなどの陸産貝類が生息しており、貴重な動植物種の宝庫となっている。しかし近年、石灰岩の採掘などの影響で絶滅のおそれの高くなった動植物種も少なくない。

●地域を特徴づける野生生物

【植物】 ハウライクジャク（IA）、タチデンド（IA）、エビガラシダ（IB）、キドイノモトソウ（II）、クモノスシダ（II）、タガネラン（IA）、シロバナハンショウヅル（IB）、コミノヒメウツギ（IB）、タチバナ（IB）、オオクサボタン（II）、ヒメタチヒラゴケ（準）、コゴメツヤゴケ（準）など。

【動物】 ユビナガコウモリ（II）、フウレンホラヒメグモ（地域個体群）、カリユウホラヒメグモ（地域個体群）、チョウセンスナガイ（IA）、ヒメシロギセルガイ（IA）、オナガラムシオイガイ（IB）、オオイタシロギセルガイ（IB）など。

●天然記念物

「小半鍾乳洞」（国指定）、風連洞窟（国指定）、狩生鍾乳洞（国指定）

Ⅱ 章

大分県の レッドデータブック

Red Data Book

1. 県版レッドデータブック作成の背景と意義

我が国では、1989年に(財)日本自然保護協会と(財)世界自然保護基金日本委員会により、レッドデータブックの国内版として、維管束植物を対象にした「我が国における保護上重要な植物種の現状」が出版されました。また、1991年には環境庁が動物を対象とした「日本の絶滅のおそれのある野生生物 脊椎動物編及び無脊椎動物編」をそれぞれ刊行しました。その後、動物関係では1997年から2000年にかけて新しいレッドリストが、植物関係では1997年に維管束植物と維管束植物以外のレッドリストが公表されました。そして、2000年には環境庁から維管束植物版のレッドデータブックが発刊され、日本国内における保護すべき動植物が明確になり、野生生物を人為的に絶滅させないことの啓発活動に役立ってきています。

けれども、これらの国内版レッドデータブックは全国的な視野からまとめられているため、必ずしも都道府県の現状に沿っていないところもあり、地域の自然環境の保全に十分に機能しにくいところがみられます。

そのため、地域における適切な野生生物の保護や自然環境の施策推進を図るためには、地域版のレッドデータブックの作成が必要とされ、1995年の神奈川県、兵庫県、広島県のレッドデータブック発刊を皮切りに、全国各地でその作成の取り組みが行われています。

大分県では平成9年7月に「大分県野生生物保護対策検討委員会」を発足させ、県内における重要な自然を総合的に調査・研究してきた実績をもつ「大分県自然環境学術調査会」に5年の期間にわたって、その調査・研究、編集などの作業を委託しました。調査会では「野生生物専門部会」を組織し、その主体的活動を通じて、絶滅の危機に瀕している大分県の野生生物の現状を明らかにし、『レッドデータブックおおいた』を平成13年3月に発刊しました。

2. 普及版レッドデータブック作成の概要

(1) 作成の目的

大分県は、豊かな自然環境に恵まれ、多様な野生生物が生育・生息しており、学術的にも高く評価されています。一方、森林伐採や各種開発に伴う自然環境の改変、移入動植物種による攪乱^{かくらん}、人による採取等により、野生生物の絶滅の

おそれの危険性は深刻度を増してきています。

自然環境を維持，保全する主体は県民であり，自然保護思想の普及啓発は21世紀の重要な課題となっています。

平成13年3月に刊行された「レッドデータブックおおいた」は，県内の野生生物の現状と課題を示したもので，野生生物の保護対策等への取り組みの重要な基礎資料集として，今後ますます重要な役割を担うものと期待されています。

今回の普及版は，「レッドデータブックおおいた」の内容を更に分かりやすく編集し，多くの方々が自然に興味関心を持たれ，野生生物の現状を広く理解していただき，ふるさと大分の野生生物を守っていくために刊行したものです。

(2) 作成の方法と手順

『レッドデータブックおおいた』の年度別作業の手順は，下表の通りです。

年度別作業手順

平成9年度	レッドデータブックフレームの設定 カテゴリー区分の設定（危惧性・減少要因） 文献調査現地調査（生態写真・標本作製等を含む） 「調査状況報告書」	<調査項目等の作成> ①生育・生息の状況 ②生育・生息環境 ③減少の原因等 ④情報不足種の状況把握調査
10年度	野生生物の危惧性カテゴリーによる保護上重要な選定対象種の選定 現地調査（生態写真・標本作製等を含む） 『野生生物目録の作成』（生物分類群ごと）	
11年度	カテゴリー・選定対象種の見直し 現地調査（生態写真・標本作製等を含む） 『大分県版レッドリスト』の作成	
12年度	補足調査（生態写真・標本作製等を含む） 『大分県版レッドデータブック』原稿完了 『レッドデータブックおおいた』発刊	
13年度	『レッドデータブックおおいた』普及版の発行	

3. 普及版の内容

普及版は，県民が親しみやすく分かりやすいように，次のような視点で編集してあります。

・種の掲載順序

種の配列は，カテゴリー別とはせず，分類群ごとに掲載してあります。

・カテゴリー

絶滅のおそれのある大分県の野生生物の評価は，環境庁が1997年に定めたカテゴリー基準を採用しました。本書では大分県と環境庁のカテゴリーを，下の表のような略号を用いています。

環境庁のカテゴリー	普及版に用いた略号
野生絶滅 飼育・栽培下でのみ存続している種	野生絶滅
I A類 ごく近い将来，絶滅の危険性が極めて高い種	IA
I B類 IA類ほどではないが，近い将来絶滅の危険性が高い種	IB
II類 絶滅の危険性が増大している種	II
準絶滅危惧 現時点では絶滅危険度は小さいが，生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	準
情報不足 評価するだけの情報が不足している種	情報不足
絶滅のおそれのある地域個体群 地域的に孤立しており，地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群	地域個体群

（普及版には野生絶滅と情報不足の種は掲載していません）

レッドデータブックとは

絶滅のおそれのある野生生物の種をリストアップし，その生息状況を解説したガイドブック。国際自然保護連合（IUCN）が1996年に初めて作成した。危険信号を意味する赤色の表紙を用いたことから，その名がある。

我が国では環境庁が1991（平成3）年に初めて脊椎動物及び無脊椎動物について日本版レッドデータブックを公表し，その後多くの都道府県において地方版レッドデータブックの作成が行われている。

・解説文

専門用語は、できるだけ用いないようにしました。

大陸系遺存植物：寒冷期に朝鮮半島と西日本とが陸続きになったとき、大陸から分布を広めたエヒメアヤメやヒゴタイなどの植物。現在は、海によって隔離され、日本における分布域が狭く、九州が南限域となっているものが多い。

ソハヤキ要素の生物：日本固有種で、九州（熊襲）、四国（速水瀬戸）、紀伊半島（紀）に分布域をもつソハヤキトンボソウやセンダイソウなどの植物やオオダイガハラサンショウウオなどの動物。襲速紀要素の植物（動物）などと呼ばれている。

植生遷移：田畑や草原などに人手を加えないで放置しておく、やぶになったり林になったりするように、環境に適合して植生（群落）が移り変わっていくこと。

・県内分布

植物の生育地は、大分県の地形や地質、気候などから県内を18地域に分けた下図の野生植物地域区分（荒金正憲；1998）を用いてあります。



動物の生育地は、原則として市町村名で示してあります。

・分布域

国内分布（北海道、本州、四国、九州、沖縄）及び国外分布。九州の分布については県別に記してあります。

・国立・国定公園指定植物

該当する国立・国定公園名を記してあります。

4．普及版に掲載した種数一覧

分類群	カテゴリー	I A	I B	II	準	地域個体群	合 計
植 物							
シ ダ 植 物		6	5	2	5	0	18
種 子 植 物		16	25	18	11	0	70
蘚 類		2	2	0	2	0	6
小 計		24	32	20	18	0	94
動 物							
哺 乳 類		0	0	0	1	1	2
鳥 類		1	4	3	4	0	12
爬 虫 類		1	0	0	0	1	2
両 生 類		1	0	2	0	1	4
魚 類		0	0	2	2	0	4
昆 虫 類		8	11	6	3	0	28
ク モ 類		0	0	0	2	2	4
甲 殻 類		0	1	0	3	0	4
陸・淡水産貝類		1	3	0	0	0	4
小 計		12	19	13	15	5	64
合 計		36	51	33	33	5	158

5. 大分県野生生物保護対策検討委員会の体制

大分県野生生物保護対策検討委員会

顧問	志賀 史光	大分県自然環境学術調査会会長
顧問	川西 博	大分県自然環境学術調査会会員
委員長	荒金 正憲	大分県植物研究会会長（種子植物）
委員長代理	武石 干雄	日本野鳥の会大分県支部長（鳥 類）
事務局長	高岡 芳憲	大分県植物研究会事務局長（シダ植物）
委員	大塚 政雄	大分県植物研究会会員（蕨 類）
委員	菊屋奈良義	大分県野生生物研究センター（哺乳類・爬虫類・クモ類）
委員	佐藤 眞一	大分県生物談話会会長（両生類）
委員	松尾 敏生	日本動物学会会員（魚類・頭索類・甲殻類）
委員	中島 三夫	大分県昆虫同好会会長（昆虫類）
委員	神田 正人	九州貝類談話会理事（陸・淡水産貝類）

レッドデータブック調査員（五十音順、○印は普及版編集委員）

＜シダ植物＞	大城比佐子	荻田 和子	菅原 明美	○高岡 芳憲
	○辻 寛文	三浦 恒美	吉田 元子	
＜種子植物＞	○阿孫 久見	阿部 泰雄	○荒金 正憲	池永 邦夫
	泉 一徳	小代 連枝	○小田 毅	神川 建彦
	木下 義雄	先砥 庸治	佐藤三千代	○生野喜和人
	須股 博信	○瀬戸屋耕二	竹尾 良造	藤内 広三
	中島 昌己	中原 洋子	中山 孝則	羽田野二男
	○真柴 茂彦	安田 彬明		
＜蕨 類＞	○大塚 政雄			
＜哺乳類・爬虫類・クモ類＞	○足立 高行	○菊屋奈良義	桑原 佳子	
	田辺 時男	堤 賢三	野村 英俊	野村 洋子
	平野 憲治	三田井寿一	渡辺 政治	
＜鳥 類＞	足利 慶聖	宇野 久生	郷司 信義	後藤 聡
	財津 博文	志賀 信幸	○島岡 章	高野橋 豊
	○武石 干雄	武石 宣彰	立川 孝之	谷上 和年
	丸野安比古	南 次郎		
＜両 生 類＞	内田 保博	小野 充之	佐藤 眞一	西田 實
	平松 恒彦	○堀江 道廣	渡辺ひろ美	
＜魚類・頭索類・甲殻類＞	阿部 隆行	梅津 幸雄	鳥越善太郎	
	藤沢 信一	○星野 和夫	○松尾 敏生	
＜昆 虫 類＞	○堤内 雄二	○中島 三夫	○羽田 孝吉	○三宅 武
	○宮田 彬			
＜陸・淡水産貝類＞	○神田 正人	浜田 保	室原 誠司	

III 章

普及版に掲載した 絶滅のおそれのある 野生生物

Red Data Book

シダ植物

マツバラシ

Psilotum nudum

マツバラシ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 II



暖地性の常緑シダ植物。日本では、北は石川県、宮城県まで分布するが、全国的に個体数が激減している。植物体は茎だけで、根も葉も未発達。地上部は緑色無毛で高さ10～30cm、松の葉を立てたような形に枝が並んでおり、二又に分枝する。茎には稜があり、断面は三角形。胞子のう群は緑色であるが、熟すと黄色になる。かつては県内に広く分布していたが、道路工事などの開発の影響を受けたり、園芸用に採取されたりして、生育地が年々少なくなっている。

(写真：辻 寛文 文：高岡芳憲)

県内分布 中津・宇佐低地、耶馬溪・国東丘陵地、日田低地・丘陵地、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道域、大野川上流域

分布域 本州（宮城・石川県以西）、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）、沖縄
韓国済州島、中国南部から世界の熱帯・亜熱帯

国立・国定公園指定植物 〔阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾〕

スギラン

Lycopodium cryptomerinum

ヒカゲノカズラ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



日本では、北海道東部から屋久島まで広く分布しているが、暖地ではまれに生える常緑シダ植物。茎は黄緑色。空中湿度の高い自然林の樹幹、まれに岩上に着生する。全長10～30cmで数回分枝し、下垂する。全形が杉の小枝のようにみえることからスギランという。県内の生育地は少なく、自然林の伐採や風水害などにより消滅した生育地が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：高岡芳憲)

県内分布 津江山地、九重火山群、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 北海道東部、本州、四国、九州（福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
韓国済州島、台湾、インド

シナミズニラ

Isoetes sinensis

ミズニラ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB



日本では新潟県と九州に分布する夏緑性の水生シダ植物。ニラのような細長い葉が多数束になって、きれいな池沼の水の中に沈んで生える。長さが15～30cmの円柱状の葉は緑色であるが、基部は白色に近い。本県では、北部の池沼に生育しているが、池沼の改修や水田除草剤、富栄養化による環境変化の影響を受けて生育場所を追われ、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：辻 寛文 文：高岡芳憲)

県内分布 中津・宇佐低地、耶馬溪地区

分布域 本州（新潟）、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎）
中国揚子江流域

カネコシダ

Gleichenia laevis

ウラボシ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB



九州特産の常緑性シダ植物。東九州では、大分県だけに分布している。葉は高さ50～100cm。正月のしめ縄やお飾りに使われるウラボシによく似ているが、葉の裏面は黄緑色で白くなく、やや小形。日当たりのよい丘陵地の斜面に群生する。和名は、発見者金子保平にちなんだものである。砂防ダムの建設や風水害などによって、生育地がかく乱され生育状態が悪化し、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：高岡芳憲)

県内分布 耶馬溪地区

分布域 九州（佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島）

朝鮮半島，中国，インドシナ，フィリピン

国定公園指定植物 [耶馬日田英彦山]

フジシダ

Monachosorum maximowiczii

コバノイシカグマ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



福島県・関東地方以西，四国，九州の自然林内の岩上や地上に群生する暖地性の常緑シダ植物。根茎は小さい塊状で，葉は多数集まって出る。草丈は20～60cm。葉柄は褐色で光沢があり，葉身は単羽状複生で，先端はつる状に長く伸びて芽をつける。尾張富士で発見されたのでフジシダという。県内では生育地が限られており，風水害や自然林の伐採などによる生育環境の悪化が懸念される。

(写真：辻 寛文 文：高岡芳憲)

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地，由布・鶴見火山群，九重火山群，北川上流域

分布域 本州（福島，関東地方以西），四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）

中国，台湾

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，祖母傾]

ハマホラシノブ

Sphenomeris biflora

ホングウシダ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



常緑のシダ植物でホラシノブの海浜型。伊豆以西の本州の太平洋側，四国南部，九州，沖縄の海岸近くに分布する。海岸崖下のやや暗い岸壁の割れ目に群生する。葉柄の長さは7～12cmで，葉身より短く，黄緑色から緑色，基部に褐色の鱗片をつける。県内では1980年に，「豊後水道域」の島で生育が初めて確認された。個体数がごく少なく海岸の埋立てや防波堤の工事などで，絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：高岡芳憲)

県内分布 豊後水道域

分布域 本州（関東地方南部・伊豆半島・伊豆諸島・小笠原諸島・紀伊半島），四国南部，九州（長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島），沖縄
中国，台湾，フィリピン

国定公園指定植物 〔日豊海岸〕

ヒメウラジロ

Cheilanthes argentea

ホウライシダ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 II



岩手県・関東地方・和歌山県・中国地方，四国，九州，沖縄の路傍の石垣や岩の間にややまれに生える小形の常緑性シダ植物。葉身は五角形状で長さ，幅ともに5～10cm。葉柄は紫褐色で光沢があり，もろくて折れやすい。葉の表面は深緑色で，裏面は粉白色。県内には広く分布するが，道路工事や吹付け工事などで消滅した生育地が多い。また，人による採取も懸念される。

(写真：辻 寛文 文：高岡芳憲)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地，姫島・国東海岸，玖珠丘陵地・山地，別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域，石灰岩地域，大野川上流域

分布域 本州（岩手，関東中部以西），四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島），沖縄
シベリアからマレーシア

オトメクジャク

Adiantum edgeworthii

ホウライシダ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



日本では大分県だけに生育している常緑性のシダ植物。日当たりのよい水田の畔岸^{あせぎし}の石垣の間や道路の法面^{のりめん}などに生える。葉の長さは10～15cmで、先端部は長く伸びて芽をつけ、それが地面に接して殖える。1940年に日本で初めて安心院町で確認された。生育地は極めて少なく、そのうち2か所は天然記念物として保護されている。農地の基盤整備工事や道路の拡幅工事などで生育範囲が狭くなっている。また、人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：辻 寛文 文：高岡芳憲)

県内分布 耶馬溪地区，別府湾沿岸域

分布域 九州（大分）

中国東北部からフィリピン，インド

キドイノモトソウ

Pteris kidoi

イノモトソウ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



日本では中国・四国地方と九州地方の石灰岩地の岩上や岩のすき間に生える小形の常緑性のシダ植物。葉は胞子をつける胞子葉と光合成をする栄養葉の二形になり、胞子葉の方が大きくなる。イノモトソウによく似ているが、頂羽片は7～20cmになり、側羽片より著しく長いのが特徴。県内では、主に豊後水道後背地の石灰岩地に分布しているため、石灰岩の採掘や道路工事などによる生育地の減少が懸念される。

(写真・文：高岡芳憲)

県内分布 石灰岩地域

分布域 本州（岡山・山口），四国（高知・愛媛），九州（福岡・熊本・大分）

台湾

カミガモシダ

Asplenium oligophlebium

チャセンシダ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



日本固有種の常緑性シダ植物。ヌリトラノオによく似ているが、それより小形で、葉は長さ10～20cm、小羽片の幅が細く、切れ込みが深い。岩上に着生し、葉の先端に無性芽をつけて殖える。京都府や兵庫県では、やや普通に分布しているが、その他の地域での分布はまれである。本県では「国東地区」だけで生育地が確認されており、^{へんきゅうあんざんがん}変巧安山岩（プロピライト）の岩上に比較的多くの個体がみられる。生育地は道路に隣接しているため、拡幅工事などが行われれば消滅してしまう可能性が大きい。

（写真・文：辻 寛文）

県内分布 国東地区

分布域 本州（新潟・岐阜県以西）、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・大分・鹿児島）

サカゲイノデ

Polystichum retroso-paleaceum

オシダ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



本州以北の地域に広く分布する夏緑性の大形シダ植物。九州では1995年に、初めて「耶馬溪地区」で自生が確認された。ツヤナシイノデに似ているが、それより大形で、羽片の数も多い。葉柄には鱗片が密生し、中～下部のものは下向き（逆向き）につくのでサカゲ（逆毛）イノデという。生育地はスギ植林内や林道沿いの狭い範囲で、個体数はそれほど多くない。スギの伐採による環境変化で、絶滅の危険性が高くなっている。

（写真・文：辻 寛文）

県内分布 耶馬溪地区

分布域 北海道、本州、四国、九州（大分）
朝鮮半島

ニセヨゴレイタチシダ

Dryopteris hadanoi

オシダ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 II



中国・四国地方の一部と九州地方にまれに分布する常緑性シダ植物。この種は、イタチシダの仲間で、ソーラス（胞子のう群）をおおう包膜が早く落ちること、葉柄に密生する鱗片が明るい褐色であることなどの特徴をもつ。別府湾沿岸域から宮崎県にかけての沿海地には多くの生育地があり、シイ・カシ類などの常緑樹の林床に生える。生育地の多くが人類文化地やその周辺部であるため、土地開発や森林伐採などの影響を受けやすく、生育地や個体数の減少が懸念される。

（写真・文：辻 寛文）

県内分布 別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵域，豊後水道域，豊後水道後背地域，北川上流域

分布域 本州（山口），四国（高知），九州（長崎・大分・宮崎・鹿児島）

テツホシダ

Thelypteris interrupta

ヒメシダ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



日本では、静岡県以西の沿海地から低地に分布する亜熱帯性のシダ植物。夏緑性で、葉は長さ40～80cm、葉の質はホシダよりやや硬く、厚みがある。本県での生育地は極めてまれで、池沼畔の湿地や温泉水が流れる水溝の周辺に生えている。湿地の遷移進行による個体数の減少や土地造成などですでに消滅した生育地もあり、絶滅の危険性が極めて高い。

（写真・文：辻 寛文）

県内分布 中津・宇佐低地，別府湾沿岸域

分布域 本州（静岡県以西），四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島），沖縄

中国，台湾，東南アジアから世界の熱帯・亜熱帯地域

イワデンダ

Woodsia polystichoides

イワデンダ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



日当たりのよい岩上や石垣などに生える小形の夏緑性シダ植物。北海道から九州にかけて広く分布する。葉は長さ20cm前後、細い披針形^{ひしん}で単羽状。本県での分布は点在しているが、「耶馬溪・国東丘陵地」の凝灰岩地には、比較的多くの生育地がある。道路工事などによって生育地が減少したり、植生遷移の進行によって生育環境が悪化し、生育地の減少が懸念される。

(写真・文：辻 寛文)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、津江山地、九重火山群

分布域 北海道、本州、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
樺太、千島、朝鮮半島、台湾、東アジア

アソシケシダ

Deparia otomasui

イワデンダ科

カテゴリー

大分県 IA
環境庁 IB



九州特産のシダ植物で、熊本・大分・宮崎県のごく限られた地域に分布する。夏緑性で、葉は長さ30～50cm、シケシダ類のなかでは葉質が硬く、表面に光沢がある。他県では人による採取で個体数が激減した生育地がある。本県では数か所で生育地が確認されているが、森林の伐採による林内のかく乱などで個体数が減っており、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：高岡芳憲 文：辻 寛文)

県内分布 玖珠丘陵地・山地、大分川・大野川丘陵地

分布域 九州(熊本・大分・宮崎)

ツクシノキシノブ

Lepisorus tosaensis

ウラボシ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



暖地性の小形常緑シダ植物。溪流沿いの空中湿度が高い林内の樹幹や岩上に着生する。ノキシノブに似ているが、葉の幅が広く、葉がやや込み合っており、葉質が薄い。本県における生育地はまれで、自然状態のよく保たれた空中湿度の高い溪流沿いの常緑樹林内に生えている。森林伐採や林道工事、風水害などによる流失や生育環境の悪化で、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：高岡芳憲 文：辻 寛文)

県内分布 耶馬溪地区、日田低地・丘陵地、津江山地区、豊後水道後背地域、北川上流域
分布域 本州（静岡・紀伊半島）、四国、九州（福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
 中国南部、台湾

デンジソウ

Marsilea quadrifolia

デンジソウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 II



池沼や水田などに生える夏緑性の水生シダ植物。根茎は土中を長くはい、長さ10～20cmの葉をまばらにつける。三角状をした4枚の小葉が「田」の字形に見えることから、この名がつけられた。日本各地に広く分布しているが、除草剤の影響で生育地が激減している。本県でも以前は各地に広く分布していたが、現存する生育地は数か所だけで、個体数も極めて少くなっている。水質汚染、水田の管理放棄、ほ場の基盤整備などで消滅する生育地が多くなっており、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：高岡芳憲 文：辻 寛文)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、別府湾沿岸域
分布域 北海道、本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）、沖縄
 ヨーロッパ、インド北部～東アジア

アカウキクサ

Azolla imbricata

アカウキクサ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



低地の池沼や水田などの水面を浮遊する小形の水生シダ植物。植物体は三角形で、長さ1～1.5cm。秋から冬にかけて植物体が鮮やかな赤色になる。年によって生育状態に消長がみられる。本州地方以西に広く分布しているが、各県における生育地は、近年激減している。県内では、以前は各地に広く分布していたが、現存する生育地は数か所だけになっている。除草剤の使用や池沼の埋立てなどにより、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：高岡芳憲 文：辻 寛文)

県内分布 中津・宇佐低地，別府湾沿岸域，豊後水道後背地域

分布域 本州（東京都以西），四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島），沖縄
朝鮮半島南部，中国，台湾，インド

種子植物

ツクシバクシン

Juniperus chinensis var. *tsukusiensis*

ヒノキ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



火山山頂帯の草原や林縁に生える低木の常緑針葉樹。幹枝は風のため^{ほふく}匍匐して屈曲し、小枝は斜上または上向する。若木には針葉があるが、老成すれば大部分が鱗片^{りんぺん}葉となる。九州特産種。本県で、生育が確認できる所は極めてまれで、「九重火山群」の標高1,300m以上の尾根筋などにわずかに生える。生育地には登山者が多く、損傷されたり、採取されるおそれがあり、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：荒金正憲 文：生野喜和人)

県内分布 九重火山群

分布域 九州（佐賀・長崎・大分・宮崎）

ミズオオバコ

Ottelia alismoides

トチカガミ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



低地や丘陵地の池沼や水溝に生える1年草。葉は柔らかく、オオバコに似た葉を水中に広げ、深い池などでは大きく、浅い溝などでは小さくて細い。花期は8～10月、水中から縦ひだのあるさやのついた花茎を伸ばし、水面上で円形の3枚の花弁を広げ、径15～25mmの淡紅色の花が咲く。かつて水田や溝などに多くみられたが、農薬の影響や土地開発、ほ場整備などでほとんど消滅してしまった。生育環境は悪化しており、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大野川上流域

分布域 本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
朝鮮半島、中国（東北部）、中国、ウスリー、インド、オーストラリア

ケカモノハシ

Ischaemum antheplhoroides

イネ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



海岸の砂丘に生える多年草。草丈30～70cm、^{かん}稈はやや太くて硬く、基部は斜上して枝分かれます。葉の幅は1cm内外、葉の両面や茎の節に毛が多い。花穂は7～9月に出る。花序は2個の太いふさからなるが、ぴったりと合わさって1つの穂のように見える。穂にも毛が密生し、開くとカモのくちばしに似ている。しばしば群生するが、海岸の埋立てや植林、砂浜の流失などで生育環境が変わり、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 周防灘海岸、別府湾沿岸域、豊後水道域

分布域 北海道、本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
朝鮮半島、中国

クジュウツリスゲ

Carex kujuzana

カヤツリグサ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



大分県の特産種とされる。火山性高原の野焼きされる草原や林縁に生える多年草。草丈10～30cm。茎の基部は赤紫色を帯びる。4月下旬に花穂を出し、2～3個の小穂をつり下げる。基準標本産地の「九重火山群」は人工牧野やスギ植林地に変わって生育地は把握されていない。現在、確認されている生育地は少なく、生育範囲も狭い。野焼きの停止による植生遷移や植林などで生育環境の悪化した所が生じ、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 玖珠丘陵地・山地，(九重火山群)，由布・鶴見火山群

分布域 九州(大分)

備考 <リクチュウツリスゲ本州(岩手・宮城・長野県)，朝鮮半島(南部)>
本州(中部)や朝鮮半島に分布するリクチュウツリスゲと同種とする説もある。

タシロスゲ

Carex sociata

カヤツリグサ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



日本では、四国と九州の一部に分布し、本県の生育地也大野川上流域のごく限られた範囲にみられ、個体数も少ない。低地の河岸や湿った林縁に生える多年草で草丈20～40cm。株をつくり群がって生え、茎の下部は繊維状に分解する。葉の幅は3～5mm。花穂は4～5月に出て、5～8個の小穂をつける。河川改修や道路工事で消滅した生育地が生じており、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：小代連枝 文：荒金正憲)

県内分布 大野川上流域

分布域 四国(高知)，九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)，沖縄
台湾

サンカクイ

Scirpus triqueter

カヤツリグサ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



低地の流れの緩やかな泥質の河川や沼池に群生する多年草。高さ50～100cm、茎の断面は三角形。7～10月、茎の上部に柄のある褐色の小穂をつける。茎の小穂のついているところから上に、葉の先のような苞がある。県内広く分布するが、生育地は限られ個体数も少ない。河川改修や湖沼の埋立てにより、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：中山孝則 文：真柴茂彦)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、中津・宇佐低地、別府湾沿岸域、豊後水道域

分布域 北海道、本州、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄

朝鮮半島、中国、中国(東北部)、ウスリー、マレーシア、インド～欧州(南部)

ビロウ

Livistona chinensis var. *subglobosa*

ヤシ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



豊後水道域の海岸断崖や林内、林縁に生える亜熱帯植物。県内生育地のほとんどが天然記念物に指定されている。高さ15mに達し、幹の直径は20～30cm、単木で直立する。幹の上部に長い柄のある掌状の葉を密生する。果実は房状に多数つき、球形で径1.8cm、黒色に熟す。自然発芽した幼株もみられる。植生遷移の進行による環境変化や人による採取で、個体数の減少が懸念される。

(写真・文：真柴茂彦)

県内分布 豊後水道域

分布域 四国、九州(福岡・長崎・大分・宮崎・鹿児島)、沖縄

台湾

ツクシヒトツバテンナンショウ

Arisaema tashiroi

サトイモ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



山地の林内や林縁に生える草丈60cmほどの多年草。小葉が鳥足状になった葉は、名とは違って普通大小2個がつく。5月に白地に明るい緑の縦模様の入った長さ10cm内外の花をつける。筒部の長さに比べ^{ぶつせんほう}仏炎苞と呼ばれる^{けんぶ}苞部は短い。分布は県内のごく一部に限られる九州の特産種。生育地では個体数も極めて少なく、スズダケの密生による環境の変化や人による踏みつけなどで、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 祖母・傾山地

分布域 九州（大分・宮崎・鹿児島）

タマボウキ

Asparagus oligoclonos

ユリ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IA



高さ50～100cmの多年草。アスパラガスの仲間、外形もそれによく似ている。雌雄異株で花期は5～6月。直径1cmくらいの球形の果実は7～8月に赤色に熟れる。大陸系遺存植物で、日本での分布は阿蘇・くじゅう地域の火山性高原に限られる。かつては「九重火山群」の各地でみられたようだが、現在では野焼きが維持されている草原のごく狭い範囲に、わずかな個体が生育している。草地の開発や野焼きの停止による植生遷移の進行、植林などで、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：辻 寛文)

県内分布 九重火山群

分布域 九州（熊本・大分）

朝鮮半島，中国（東北部），アムール，ウスリー，ダフリア

ハマカンゾウ

Hemerocallis fulva var. *littorea*

ユリ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



日当たりのよい海岸の崖地、林縁などに群生する多年草。葉は長さ50～70cm、株より束生して広がり、冬も一部枯れないで残る。花期は7～9月。花茎は50～70cm、先に数個のつぼみをつけ、赤味のある橙色の花が次々と咲く。県内の分布は限られ、おもに海岸の岬や島に生育する。海岸の開発や道路工事、人による踏みつけや採取などで、生育地の減少が懸念される。

(写真・文：真柴茂彦)

県内分布 豊後水道域

分布域 本州（関東地方南西部以西）、九州（大分・宮崎・鹿児島）

国立・国定公園指定植物 [瀬戸内海、日豊海岸]

ウバタケギボウシ

Hosta pulchella

ユリ科

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 IB



山地の尾根筋の岩場に生える草丈30～40cmの多年草。ふちが波打つ葉は広卵形、長さ8cm、幅が4cmほどで、主脈の左右に3本の平行脈がある。葉柄には紫褐色の線状の斑点が目立つ。花期は7月、紫褐色の斑点がある細い花茎の先に紫色の花を数個つける。祖母山の特産種で、基準標本産地は「祖母山」。個体数はごく少なく、生育地は人の踏みつけや採取などで、絶滅の危険性が高い。

(写真：荒金正憲 文：阿孫久見)

県内分布 祖母・傾山地

分布域 九州（大分・宮崎）

ヒメユリ

Lilium concolor var. *partheneion*

ユリ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB



低地や丘陵地の草原に生える多年草。茎は直立し、高さ50～100cm、線形の葉が互生する。花期は6～7月、1～4個の朱赤色の花が上向きに咲く。大陸系遺存植物で、県内の生育地は点在し、繁殖力が弱く、個体数は極めて少ない。草原、湿地の管理放棄や人による採取で消滅した生育地が多く、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：荒金正憲 文：生野喜和人)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大野川上流域

分布域 本州、四国、九州（熊本・大分・宮崎）

朝鮮半島、中国（東北部）

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、祖母傾]

エヒメアヤメ

Iris rossii

アヤメ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



低地から山地の、火山性高原の草原や林縁に生える草丈10～15cmの多年草。大陸系遺存植物で、九州は分布の南限域にあたる。5月ごろ花茎の先に1個、鮮やかな青紫色の花をつける。葉は花時には花茎と同じくらいであるが、後に伸びて30cm内外に達する。古い葉の基部は繊維状になって残る。植林や草地改良、野焼きの停止などによる環境変化で生育地が減少し、人による採取もあって、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：荒金正憲 文：生野喜和人)

県内分布 国東地区、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域

分布域 本州（中部地方西部）、四国、九州（佐賀・大分・宮崎）

朝鮮半島、中国（北部・東北部）

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう、瀬戸内海]

キシマシャクジョウ

Burmannia liukiuensis

ヒナノシャクジョウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IA



丘陵地や低山地の、おもにアカガシ林の腐葉土が堆積した林内に生える。高さ10cmほどの腐生の多年草。葉緑体がないので全体が純白。9月に茎の先に直径5mmほどの白い花を2～3個つける。花は3稜があって、先端はくびれ、淡黄色を帯びる。生育地は県南部のごく一部に限られる。年によって消長が著しく、北川上流域のものは発見後、再確認されていない。生育地の伐採や林内のかく乱により、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 大野川上流域，(北川上流域)

分布域 本州（伊豆：神津島），四国，九州（大分・宮崎・鹿児島），沖縄

タガネラン

Calanthe davidii var. *bungoana*

ラン科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IA



大分県の特産種。石灰岩地の尾根近い林縁や林内にまれにみられる多年草。名前のようにタガネの形の細い葉を株より数本束生する。6月ごろ、50～80cmの花茎を株の中から伸ばし、先に黄緑色の花を穂状に密につける。生育地は極めて限られており、石灰岩の採掘による生育地の消滅や人による採取などで、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：荒金正憲 文：真柴茂彦)

県内分布 豊後水道域

分布域 九州（大分）

クマガイソウ

Cypripedium japonicum

ラン科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 II



丘陵地や低山地の林内に生える多年草。茎は高さ20～40cm。葉は1枚の扇円形で径10～15cm、放射状の葉脈が顕著である。4～5月、茎の頂に1個の大型の花をつけ、袋状の唇弁には紅紫色の網状の脈があって目立つ。かつて生育地は多くあったが、植林地となったり、人に採取されたりして、すでに消滅した所が多く、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：中原洋子 文：小田 毅)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域

分布域 北海道（渡島）、本州、四国、九州（福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
中国

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、祖母傾]

ミズチドリ

Platanthera hologlottis

ラン科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



丘陵地や低山地の湿地に生える多年草。茎は直立して高さ50～90cmになる。葉は線状披針形で下端はさや状に茎を抱いて互生する。6～7月に茎の先に径1cmほどの白い花を穂状につけ、開花するとかすかな香りがある。生育地は限られていて、個体数は少ない。湿地の水環境の変化や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：安田彬明 文：小田 毅)

県内分布 耶馬溪地区、津江山、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、(祖母・傾山地)

分布域 北海道、本州、四国、九州（福岡・熊本・大分・鹿児島）
朝鮮半島、中国（東北部）、南千島、東シベリア

ソハヤキトンボソウ

Platanthera stenoglossa subsp. *hottae*

ラン科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IA



山地の尾根に生える草丈20cmほどの多年草。広だ円形の葉は長さ8cmほどで、茎を抱いて1個だけつく。花期は6月、茎の上辺に、淡黄緑色の花を穂状に10個ほどつける。花の大きさは約15mm。ソハヤキ要素の植物で、基準標本産地は「祖母山」。県内の生育地はごく限られている。個体数は極めて少なく、人による踏みつけや採取などにより、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 祖母・傾山地
分布域 九州（大分・宮崎）

ナゴラン

Sedirea japonica

ラン科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IA



保存のよい森や神社の老木、湿度の高い溪谷などの岩上に着生する多年草。気根は太く、樹皮や岩につく。長さ8～12cm、厚くて長だ円形の葉を3～5枚つける。花期は6～8月、20cmほどの横に伸びた花茎に、薄緑を帯び白色に淡紅色の模様のある花を4～10個つける。花には香りがある。生育地は限られ、個体数も少ない。森林の伐採や人による採取で、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：羽田野二男 文：真柴茂彦)

県内分布 豊後水道後背地域、大野川上流域、北川上流域
分布域 本州（伊豆諸島、京都以西）、四国、九州（佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
朝鮮半島

ハナガガシ

Quercus hondae

ブナ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



よく保存された低地の神社林，谷斜面などに林をつくる常緑の高木。成木には樹高20m，直径50cm前後のものが多い。葉はツクバネガシに似ている。花は5月，黄褐色で10cm前後の穂を下げる。堅果は長さ1.5cm，幅1cmで先端に灰褐色の毛がある。県内の生育地は限られ，個体数も極めて少ない。天然記念物に指定されたものを除けば，生育地が人里近くにあるため，森林伐採などによる消滅の危険性が高い。

(写真：生野喜和人 文：真柴茂彦)

県内分布 別府湾沿岸域，豊後水道域，豊後水道後背地域

分布域 四国，九州（熊本・大分・宮崎・鹿児島）

ヤナギイチゴ

Debregeasia edulis

イラクサ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



海岸の低木林の林縁や林内に生える落葉低木。枝は横に広がる。葉は柳のように細い披針形で，長さ5～15cm，3脈が目立つ。花は前年の枝の落葉したあとに出る1cmほどの柄の先に多数集まってつく。実は黄橙色に熟すと甘い。生育地は林道工事や道路工事で影響を受けやすい所が多く，その改変が懸念される。

(写真・文：真柴茂彦)

県内分布 豊後水道域

分布域 本州（関東地方南部，東海道，近畿地方南部），四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島），沖縄
台湾，中国

チョクザキミズ

Lecanthus peduncularis

イラクサ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IA



中国や台湾、ヒマラヤなどに分布し、日本では1990年に、熊本県に分布していることが分かった。本県でも1991年、大野川上流域で生育地が確認された。滝のしぶきをうける湿った岩場に生える柔らかい多年草で、草丈20～40cm。花期は8～11月、葉のつけ根から3～6cmの花柄を出し、先端に径10～15mmの球形の花序をつける。生育地はごくまれで、個体数も極めて少ない。水害などの自然災害のほか、水路工事や道路工事などの生育地の改変で、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 大野川上流域

分布域 九州（熊本・大分）

中国（中部・南部・西南部）、台湾、ヒマラヤ、ジャワ、フィリピン

クロフネサイシン

Asarum dimidiatum

ウマノスズクサ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



低山地や山地の沢沿いの林縁や林内に生える草丈15cmほどの多年草。葉は全縁の円心形で長さ4～6cm、基部は深い心形となる。4～5月、葉陰にかくれるように地ぎわに短い花柄を出し、先が3裂する扁球形の紫褐色の花を横向きに普通2個つける。雌しべの柱頭は3、雄しべは普通6。県内の生育地は、北西部から南西部にかけての、山地や低山地に点在し、個体数は少ない。林縁の生育地では、植生遷移の進行で生育状態が悪くなった所がみられ、減少や消滅が懸念される。

(写真：辻 寛文 文：阿孫久見)

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・

大野川丘陵地、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 四国、九州（福岡・熊本・大分・宮崎）

ツチトリモチ

Balanophora japonica

ツチトリモチ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



低地や丘陵地のアカマツ林やコジイ林に生える高さ5～12cmの寄生植物。林内のクロキやハイノキなどの根に寄生する。花期は10～11月、根茎から鱗片葉を互生した花茎を出し、その上辺に卵状だ円形の橙赤色の花穂をつける。和名ツチトリモチは根茎をすりつぶして鳥もちを作ることによる。県内では東部・南部地域に偏在し、個体数も少ない。森林伐採や林道開設などによる生育環境の改変で、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：瀬戸屋耕二)

県内分布 豊後水道後背地域，大野川上流域，北川上流域

分布域 本州，四国，九州（長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）

国定公園指定植物 [日豊海岸，祖母傾]

ミヤマツチトリモチ

Balanophora nipponica

ツチトリモチ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



低山地の落葉樹林内に生える寄生植物。ウリハダカエデ，コミネカエデなどが寄主として知られている。寄主の根の先端部分と根茎の接合部分は肥大して木化し，直径10cmほどの木こぶになることがある。1つの根茎に花茎は数個つくが，まれに10個以上つくこともある。7～8月に長だ円形の花穂をつける。色は橙黄色。個体数は極めて少なく，自然林の伐採による生育地の減少が懸念される。

(写真：羽田野二男 文：小田 毅)

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地

分布域 本州（北～中部），九州（長崎・大分・鹿児島）

国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

オグラセンノウ

Lychnis kiusiana

ナデシコ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB



湿地や湿地周辺の草地に生える高さ1mほどの多年草。葉は線状披針形^{ひしん}で長さ5～10cm、両面にまばらに短毛がある。花期は6～7月で、赤味を帯びた紅色の花を咲かす。国内では中国地方の一部と阿蘇・くじゅう地域に分布している。本県で現存する生育地は数か所だけで、個体数も極めて少なく、ほとんどの生育地で個体数が激減、もしくは消滅している。湿地の開発や植生遷移の進行による生育環境の変化や人による採取などで、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：辻 寛文)

県内分布 津江山、九重火山群

分布域 本州（西部）、九州（熊本・大分）
朝鮮半島

オニバス

Euryale ferox

スイレン科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



1年生の水草で、植物体全体に鋭い刺がある。円形で、直径1mを超えるほどの大きな葉を水面に浮かべる。花期は8～9月、水上で開く赤紫色の展開花と、水中で自家受粉して結実する閉鎖花がある。種子は球形で径1cmほど、水底の土中に埋没し、休眠して環境条件のよい年に発芽するため、年ごとの消長が著しい。本県での分布は北部の低地に偏っており、最近、その生育が確認できない所が多くなっている。改修工事や埋立て、水質汚染などにより、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：荒金正憲 文：辻 寛文)

県内分布 中津・宇佐低地、(別府湾沿岸域)

分布域 本州、四国、九州（福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島）
朝鮮半島、インド、中国（東北部）、ウズベキスタン、台湾

タンナトリカブト

Aconitum japonicum subsp. *napiforme*

キンポウゲ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



丘陵地から山地の林縁や林内に生える草丈30～80cmの多年草。9～10月に茎の上部の葉のつけ根に、舞楽の装束の烏冑に似た濃紫色の花をつける。大陸系遺存植物で、日本では西南日本に分布するが、県内ではかなり広い地域に生育し、個体数も少なくない。林縁部の生育地では、植生の遷移により生育環境が変って衰退した所がみられる。植生遷移の進行や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真・文：生野喜和人)

県内分布 中津・宇佐低地、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地

分布域 本州（中国地方）、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
朝鮮半島

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾]

フクジュソウ

Adonis amurensis

キンポウゲ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 II



丘陵地や低山地の谷草原に生える高さ15～30cmの多年草。葉は羽状複葉で互生し、基部の葉は鱗片状のさやとなっている。花は早春の3～4月、新葉とともに径3～4cmの光沢のある黄色の花をつけ、日が当たると上向きに平開する。5月下旬には実を結び、地上部は姿を消す。県内の生育地は点在し、個体数も極めて少ない。草地開発や野焼きの停止による植生遷移、さらには人による採取で生育地が消滅しており、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：阿孫久見 文：瀬戸屋耕二)

県内分布 九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地

分布域 北海道、本州、九州（大分・宮崎・鹿児島）
千島

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

カザグルマ

Clematis patens

キンボウゲ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



林縁に生える落葉性多年生のつる植物。茎は木質化している。葉は小葉3～5枚の羽状複葉。属名はクレマチスで、多くの園芸品種を作りだす母種となっている。5月に径10cmほどの薄い紫色～桃色を帯びた白色又は純白の花を咲かす。県内の生育地は点在していて、個体数も少ない。林縁に生えるため植生遷移の影響を受けやすく、人里近くでは土地開発や人による採取もあって、消滅した生育地が生じ、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：辻 寛文)

県内分布 由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域
分布域 本州，四国，九州（熊本・大分・宮崎）
 朝鮮半島，中国（東北部）

ヤマシャクヤク

Paeonia japonica

キンボウゲ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



低山地や山地の半陰地に生える高さ40～50cmの多年草。葉は互生の2回3出複葉。小葉は倒卵形で長さ10～18cmと大きく、裏面は帯白色。花期は4～5月、茎の先に直径5cmほどのおわん形をした花を上向きに半開する。県内の分布は散在するが、生育地での個体数は極めて少ない。森林伐採や人による採取で消滅した生育地がみられ、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，
 由布・鶴見火山群，祖母・傾山地，北川上流域
分布域 本州，四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，瀬戸内海，耶馬日田英彦山，祖母傾]

オキナグサ

Pulsatilla cernua

キンボウゲ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



丘陵地や低山地の日当たりのよい草原に生える多年草。根は太く、地中深く入る。根葉には長い柄があるが、茎葉は無柄で、全体に白毛が密生している。花期は4～5月、高さ10～20cmの花柄を苞の中から伸ばし、その先に外面が白い毛でおおわれた赤紫色の花を下向きに咲かす。花後、花柱が伸びて3～4cmとなり、灰白色の毛が密生して老人の白髪を連想させる。草原の森林化や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：安田彬明 文：小田 毅)

県内分布 日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域、祖母・傾山地

分布域 本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
韓国（済州島）、中国

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、瀬戸内海、日豊海岸、祖母傾]

イカリソウ

Epimedium grandiflorum

メギ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



低山地の草地や林縁に生える多年草。硬い根茎は多数のひげ根をつける。草丈は20cmほど。葉は腎卵形で縁に刺状の細い毛がある。4～5月に礎形をした白色の花を数個つける。長く四方に突き出た距と呼ばれる部分が、弓形に反っている。生育地が限られていて個体数は少なく、土地の改変や人による採取で、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：小代連枝 文：小田 毅)

県内分布 九重火山群

分布域 北海道、本州、九州（熊本・大分）

ヤマブキソウ

Hylomecon japonica

ケシ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



低山地の谷沿いの林縁や林内に生える柔らかい多年草。高さ30～40cm。根生葉は長い柄がある5～7小葉の奇数羽状複葉。茎葉も2～3個つく。小葉の縁には切れ込みと不ぞろいの鋸歯がある。花期は4～5月、ヤマブキに似た黄色で直径4cmほどの4弁花をつける。葉や茎を切ると黄色い乳液を出す。本県での分布は西に偏って点在し、いずれの生育地も個体数が少ない。森林伐採や植生の遷移に伴う環境変化、大雨による流出などで、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群
分布域 本州、四国、九州（福岡・熊本・大分・宮崎）

モウセンゴケ

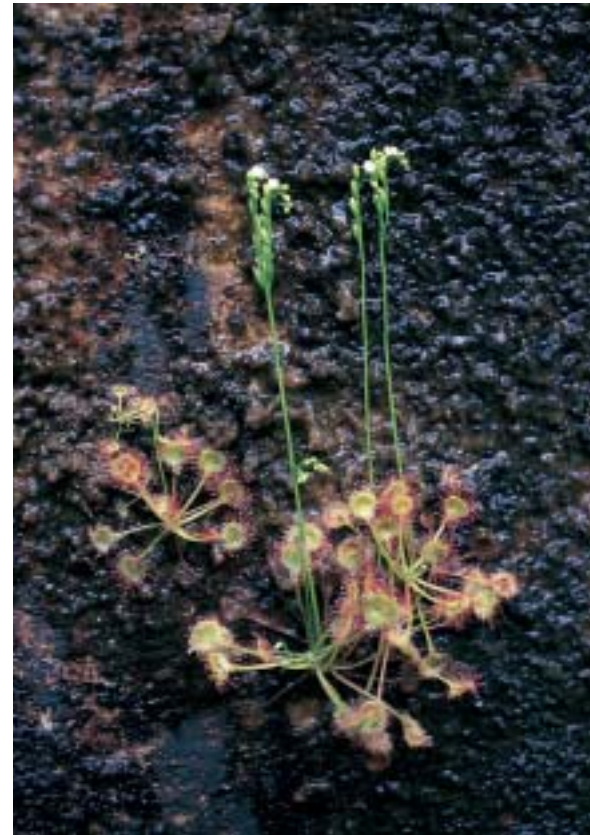
Drosera rotundifolia

モウセンゴケ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



日当たりのよい湿地や湿原に生える多年生の食虫植物。高さ5～10cm。茎はごく短く葉がロゼット状に根生し、葉の表面には粘液を出す腺毛があって、しばしば虫をとらえる。6～8月に花茎を伸ばし、その先に白色の小さな花をつける。北半球の亜寒帯～温帯、日本全国に分布し、県内でも低地から山地まで広く分布するが、個体数は少ない。湿地開発による生育地の消失や水環境の変化による乾燥化で、生育地の消滅や減少が懸念される。

(写真・文：瀬戸屋耕二)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域
分布域 北海道、本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
北半球亜寒帯～温帯
国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾]

タコノアシ

Penthorum chinense

ベンケイソウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



河川や池沼辺、水田などの水湿地に生える多年草。茎の高さは約1m、葉は披針形で長さ10cmほどになる。花期は8～10月、茎の先端部に数本の枝を放射状に出し、多数の花をつける。その様子が、吸盤をつけたタコの足を連想させる。花にはふつう花卉がなく、植物体と同じような色をしてあまり目立たない。県内の生育地は点在し、個体数も少ない。土地造成や河川の改修工事、あるいは洪水などで消失した生育地があり、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：辻 寛文)

県内分布 日田低地・丘陵地、玖珠丘陵地・山地、別府湾沿岸域、豊後水道域、大野川上流域

分布域 本州（関東地方以西）、四国、九州（福岡・佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島）朝鮮半島、中国、中国（東北部）、ウスリー、東シベリア

ウメバチソウ

Parnassia palustris

ユキノシタ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



低地から低山地の日当たりのよい草地に生える草丈10～40cmの多年草。茎につく1枚の葉は無柄で茎を抱く。花期は9～10月、茎の先に梅鉢の紋に似た白い花をつける。日本全土に広く分布し、本県でもほぼ全域に生育地が広がっている。生育地の草原は野焼きの停止などで森林化し、あるいは人工草地へ改変され、人による採取もあって、生育地の減少が懸念される。

(写真・文：生野喜和人)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域

分布域 北海道、本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）北半球温帯～亜寒帯

国立・国定公園指定植物 〔阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山、祖母傾〕

ヤシャビシャク

Ribes ambiguum

ユキノシタ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



おもにブナに着生する高さ80cmほどの落葉低木。葉は短枝に大小3～4個が束生する。形は浅く3～5裂した腎円形で粗い鋸歯があり、長さは3～5cm。表面は濃緑、裏面は帯白色で脈上に毛が多い。4～5月、枝の先に直径1cmほどの緑白色の5弁花を1～2個つける。がくに腺毛^{せんと}が目立つ。花後に粗い毛のある直径1cmほどの実がつく。本県では山地に点在し、個体数も少ない。ブナ林の伐採、強風による着生樹の倒木や枯死などにより、生育地の減少が懸念される。葉の裏に毛のないケナシヤシャビシャクを含む。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 耶馬溪地区、英彦山・犬ヶ岳山地、日田低地・丘陵地、津江山地、九重火山群、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州、四国、九州（福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島）

ナメラダイモンジソウ

Saxifraga fortunei var. *suwoensis*

ユキノシタ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



山地の溪流沿いの岩上に生える多年草。葉は長さ5～20cm、手のひら状に5～7片に中裂する。花期は8～10月、高さ10～30cmの花茎の先に「大」の字の形をした白色の花をまばらにつける。県内には、近縁なダイモンジソウとウチワダイモンジソウが分布しており、これらは、湿った岩場に生えている。いずれも生育地はごく少なく、森林の伐採や河川の改修工事、さらに、人による採取もあって個体数が減少しており、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：辻 寛文)

県内分布 耶馬溪地区、津江山地

分布域 本州（山口）、九州（福岡・佐賀・大分）

センダイソウ

Saxifraga sendaica

ユキノシタ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



溪流沿いや常に水が滴る断崖の陰地に生える高さ40cmほどの多年草。互生の葉は長い柄があって基部は膨らんで茎を抱き、茎の下部にはさや状に苞葉がつく。10月に散房状の花序に白色の細い5弁花をつける。雄しべの橙色の葯が目立つ。ソハヤキ要素の植物で、県内の生育地はごく一部に限られ、個体も極めて少ない。出水時の流出や人による採取で、個体数の減少や消滅が懸念される。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地), 祖母・傾山地

分布域 本州(紀伊半島), 四国, 九州(福岡・長崎・熊本・大分)

シモツケソウ

Filipendula multijuga

バラ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



丘陵地や低山地の湿地や日当たりのよい草地に生える多年草。茎は直立し、高さ30~80cm。葉は複葉で互生し、頂小葉は心円形で掌状に5~7深裂する。葉の先端はとがり、縁には鋸歯と欠刻がある。7~8月に茎の先端部に紅色の花を密生する。糸状の雄しべは多数あって、花弁より長い。植生遷移が進行して森林化すると、生育状態が衰える。花期は人目につきやすく、人による採取も懸念される。

(写真：辻 寛文 文：小田 毅)

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地, 玖珠丘陵地・山地, 九重火山群, 由布・鶴見火山群, 大分川・大野川丘陵地, 大野川上流域

分布域 本州(中部以西), 四国, 九州(福岡・大分・宮崎)

レンリソウ

Lathyrus quinquenervius

マメ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



丘陵地や低山地の草原、湿地に生える多年草。茎は直立し、草丈30～80cm。3稜茎で細い翼がある。小葉は1～3対、葉は長さ2～6cm、幅4～8mmで細長い。花期は5～6月、葉のつけ根から出た柄の先に5～8個の紫花がつく。本県の生育地はごくまれで、個体数も少ない。生育地の土地改変や野焼きの停止による環境変化、人による採取などで、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：竹尾良造 文：荒金正憲)

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群

分布域 本州，九州（佐賀・熊本・大分）

朝鮮半島，中国，中国（東北部），ウスリー，アムール

クズモダマ(カマエカズラ)

Mucuna macrocarpa

マメ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



海岸の崖地や林縁に生える大型の木質つる植物。暖地植物で、本地域が北限となっている。茎は大きく直径20cmほどに達する。蔓は伸び、木々の樹冠をおおって繁茂する。5月中旬、茎から直接30cmほどの花房を下げる。1つの花は小形の玉子ほどの大きさで、多数集まり房になってつり下がる。まれに結実し、15～30cmのさやに数個の円形で平たい豆ができる。崖地の崩壊や植生遷移の進行などによる生育地の環境変化が懸念される。

(写真：荻田和子 文：真柴茂彦)

県内分布 豊後水道域

分布域 九州（大分・鹿児島），沖縄

中国南，東南アジア

ツクシフウロ

Geranium soboliferum var. *kiusianum*

フウロソウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB



高原の湿地に生える多年草。中国（東北部）、朝鮮半島、本州中部に分布するアサマフウロの変種で、茎は高さ50cmほどになる。葉は掌状で5深裂し、裏面全体に細毛がある。8～9月に、花径2～3cmほどの紅紫色の花をつける。しばしば群生するが、生育地の範囲は狭く限られている。近年、生育地の改変が進み、消滅した生育地もあって、絶滅の危険性が極めて高い。

（写真：荒金正憲 文：小田 毅）

県内分布 九重火山群、(祖母・傾山地)

分布域 九州（熊本・大分）

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

ブンゴボダイジュ

Tilia intonsa

シナノキ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



日本では九重火山群のごく狭い範囲に分布する落葉広葉高木。丘陵地の林縁に生え、高さ20mを超える。大分県の特産種ツクシボダイジュに似るが、果実の形状や毛の状態が異なり、苞葉の基部は明らかな柄がある。最も大きい1樹は、県指定天然記念物となって保護されている。周辺に数樹の若木や幼樹があるが、個体数はごく限られている。指定樹以外は伐採されるおそれがあり、絶滅の危険性が極めて高い。

（写真・文：荒金正憲）

県内分布 九重火山群

分布域 九州（大分）

中国（四川省・雲南省）

コウライトモエソウ

Hypericum ascyron var. *longistylum*

オトギリソウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



丘陵地や低山地の草原に生える多年草。全草無毛。茎は直立し、高さ50～100cm。葉は披針形^{ひしんけい}、全縁で無柄。花期は7～8月で、茎の先に径4～6cmの大形の黄花が咲く。花柱は長さ13～18mm（トモエソウは柱頭とともに6～8mm）。大陸系遺存植物^{いそん}で、県内では主として火山地域に産する。生育地は点在し、個体数も少ない。草原の土地開発や植生遷移による環境変化で、絶滅の危険性が高くなっている。母種のトモエソウを含む。

（写真：辻 寛文 文：荒金正憲）

県内分布 玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、(祖母・傾山地)

分布域 九州（熊本・大分・宮崎）

朝鮮半島、中国（東北部）、蒙古、アルタイ、ダフリア

キスミレ

Viora orientalis

スミレ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



日当たりのよい草原や疎林内に生える草丈10cmほどの多年草。大陸系遺存植物で、本県では主として火山性高原に分布し、しばしば群生することがある。根生葉は心形、地上茎があって茎の上方に2～3個の葉がつく。花期は早春の3～4月、黄色の花が咲く。野焼きが停止され、植生が変わって生育が衰えたり、人工牧野などに改変されて消滅する生育地が多くなっている。

（写真：荒金正憲 文：阿孫久見）

県内分布 玖珠丘陵地・山地、九重火山群、別府湾沿岸域、由布・鶴見火山群、大野川上流域

分布域 本州（静岡、山梨、広島）、九州（熊本・大分・宮崎・鹿児島）

朝鮮半島、中国（東北部）、ウスリー

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

ミヤマガンピ

Wikstroemia albiflora

ジンチョウゲ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



低山地や山地の稜線沿いの岩角地に生える高さ1mほどの落葉低木。樹皮は強韌でなかなか切れない。対生の葉は全縁の卵形で長さ2.5cmほどで、先が円くてとがらない。花期は6～7月、枝先に浅く4裂した筒状の長さ1cmほどの白い花をつける。ソハヤキ要素の植物で、本県では西部や南部に点在し、個体数は少ない。自然災害による崩壊や植生遷移などで、生育地の衰退や消滅が懸念される。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 英彦山・犬ヶ岳山地、津江山地、祖母・傾山地、北川上流域
分布域 本州（紀伊半島）、四国、九州（大分・宮崎）

ヒュウガトウキ

Angelica furcijuga

セリ科

カテゴリー

大分県 II
環境庁 II



海岸や沿海地の岩場に生える多年草。分布域は、大分県と宮崎県に限られる。茎は直立し、高さ1.8～2.5m。葉は1～2回3出し。羽状に複生する。花期は7～8月。大形の散形花序は径10～15cm、花梗は15～20個、さらにそれぞれの花梗に小さい花序がつく。果実はへん平で光沢がある。海岸沿いの道路工事や吹き付け工事などの土地改変、さらには人による採取もみられ、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 豊後水道域、豊後水道後背地域
分布域 九州（大分・宮崎）

ツクシボウフウ

Pimpinella thellungiana var. *gustavohegiana*

セリ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB



大分県の特産種。火山性高原の草原に生える多年草で、草丈30～80cm。根葉及び下部の葉は、5～9葉の小葉がついて柄があり、上の葉は小形で無柄。花期は8月、茎の先に大きな散形花序が数個つく。花梗は10～15個、小さな白花を密につける。生育地の草原は、土地開発が進み、植林地や畑地に改変され、野焼きが停止されて植生遷移するなど、多くの要因が重なって生育地、個体数が激減しており、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地

分布域 九州（大分）

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

イワカガミ

Shortia soldanelloides

イワウメ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



主として火山山頂帯の岩場に生える草丈10cmほどの常緑多年草。地下茎は木化し、横にはう。葉は根元から出て長い柄をもち、葉身は丸く、縁に低いぎざぎざがあり、表面につやがある。5月から6月にかけて淡紅色の花をつける。背丈の低い植物のため、生育状態が植生の遷移による環境の変化に影響されやすい。また、登山者の踏みつけや人による採取もあって、生育地の減少が懸念される。

(写真：阿孫久見 文：生野喜和人)

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，祖母・傾山地，北川上流域

分布域 北海道（西部），本州，四国，九州（佐賀・熊本・大分・宮崎・鹿児島）

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう，瀬戸内海，祖母傾]

ウメガサソウ

Chimaphila japonica

イチヤクソウ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



低地から低山地の林内や林縁に生える小さな低木状の常緑多年草。高さ5～10cm。葉は2～4個、鱗状の葉と交互に輪生状につき、革質で少し光沢がある。花期は6～7月、茎頂の長い柄の先に、1（まれに2）個、1cm内外の花を點頭する。小さくて、主として林縁に生えるため、生育地の植生遷移による環境変化の影響を受けやすい。また、人による採取もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。

（写真：竹尾良造 文：荒金正憲）

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、石灰岩地域、大野川上流域、祖母・傾山地

分布域 北海道、本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）樺太、南千島、朝鮮半島、中国、中国（東北部）、ウスリー

ツクシドウダン

Enkianthus campanulatus var. *longilobus*

ツツジ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



低山地や山地の林内に生える落葉低木。花の柄はベニドウダンの2～4mmに対して5～10mmと長く、花も前者の3～8mmに対して10～15mm。ベニドウダンの花弁は先が不規則に細かく裂けるのに対してツクシドウダンは5裂する。分布域は九州に限られ、本県では「九重火山群」や「祖母・傾山地」の山頂帯や尾根の岩場に分布し、その範囲は狭い。低木のため植生遷移の進行による環境変化、人による踏みつけや採取で、生育地の減少が懸念される。

（写真：竹尾良造 文：生野喜和人）

県内分布 九重火山群、祖母・傾山地

分布域 九州（熊本・大分・宮崎）

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾]

ツクシアケボノツツジ

Rhododendron pentaphyllum

ツツジ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 II



山地の尾根の岩場や疎林内に生える落葉低木。毛のある広だ円形の葉は長さ4cmほどで、枝先に5個輪生状につき、葉柄の赤い粗い毛が目立つ。4～5月、葉に先立って直径10cmほどの、淡紅色の大きな花を咲かす。花柄にまばらに腺毛がある。九州の特産種で、本県の分布は南西部に限られ、分布の北限域となっている。自然災害による損傷のほか、人の踏みつけや採取がみられ、生育地の減少が懸念される。

(写真・文：阿孫久見)

県内分布 祖母・傾山地，北川上流域

分布域 九州（大分・宮崎）

コケモモ

Vaccinium vitis-idaea var. *minus*

ツツジ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



火山山頂帯の風衝地に生える高さ10cm前後の常緑の小低木。九州では「九重火山群」の山頂帯だけに分布する。茎は細く、わずかに分枝し、基部は長く地中をほう。葉は革質，上面は深緑色でつやがあり，下面は淡緑色。花は鐘形で白色～淡紅色。実は径6mmくらいで丸く，赤く熟す。山頂帯の生育地は，大雨による侵食で自然崩壊している所があり，また，登山者による踏みつけや採取で，生育環境の悪化や減少が懸念される。

(写真：瀬戸屋耕二 文：生野喜和人)

県内分布 九重火山群

分布域 北海道，本州，四国，九州（大分）

母種ヒロハコケモモは朝鮮半島，千島，樺太～北半球寒帯～高山帯

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

ミヤマコナスビ

Lysimachia tanakae

サクラソウ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



低山地の林内や林縁に生える多年草。ソハヤキ要素の植物で、本県では主として南部や西部に分布している。全体に軟毛があり、茎はつる状に伸びて地面をはい、節から根を出す。葉は卵円形で対生し、葉肉中に黒い腺点^{腺点}がみられる。花期は6～7月、茎の上部の葉のつけ根に2～3cmの花柄を普通2個ずつ出し、直径8～10mmの黄色の花をつける。個体数はかなりみられるが、森林伐採や道路工事による環境変化で、生育地の減少が懸念される。

(写真：小代連枝 文：小田 毅)

県内分布 津江山、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、大分川・大野川丘陵地、豊後水道後背地域、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州（紀伊半島）、四国（一部）、九州（熊本・大分・宮崎）

サクラソウ

Primula sieboldii

サクラソウ科

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 II



丘陵地や低山地の湿地に生える多年草。草丈10～15cm。全体に縮れた毛が多く、葉は長い柄を根元から立て、葉の縁には複雑なぎざぎざがあり、若い葉は多くのしわがある。4月から5月にかけて淡紅色の花が咲く。本県では火山性高原の湿地に点在し、しばしば群生する。開花期は人目につきやすく、人による採取で減少したり、消滅した生育地が多い。また、植林や野焼きの停止などで生育環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：生野喜和人)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 北海道（南部）、本州、四国、九州（熊本・大分・宮崎・鹿児島）

朝鮮半島、中国（東北部）、アムール、ウスリー、ダフリア、ウダ

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

アサザ

Nymphoides peltata

リンドウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



低地の流れの緩やかな泥質の河川や池沼に生える多年草。地下茎があり、茎を伸ばす。葉は円形か、ややだ円形に近く、基部が切れ込む。花期は6～9月、葉のつけ根から花茎を出して数個のつぼみをつけ、1日に1つずつ黄色い花が開く。湖沼開発や水質汚染で生育環境の悪化した所が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：真柴茂彦)

県内分布 中津・宇佐低地，豊後水道後背地域

分布域 本州，四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
朝鮮半島，台湾，中国，旧世界温帯一般

ムラサキセンブリ

Swertia pseudochinensis

リンドウ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



日当たりのよい草地に生える1年草または越年草。センブリに似ているが、茎が暗紫色で、花は青紫色。茎は高さ15～25cmで直立し、上方で枝分かれする。葉はやや密に対生する。花期は、10～11月、茎の頂や葉のつけ根に青紫色の花をつける。県内での生育地は散在するが、個体数は少ない。野焼きの停止や植林などで生育環境が変化し、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：阿孫久見 文：小田 毅)

県内分布 九重火山群，由布・鶴見火山群，別府湾沿岸域，大分川・大野川丘陵地，豊後水道後背地域，大野川上流域，祖母・傾山地

分布域 本州，四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
朝鮮半島，中国（北部・東北部），アムール

国立・国定公園指定植物 〔阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，日豊海岸，祖母傾〕

クロバナイヨカズラ

Cynanchum japonicum var. *puncticulatum*

ガガイモ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



海岸近くの岩上や崖地，草地などに生える多年草。茎の下部は高さ30～80cmほどで直立し，上部はつる状に長く伸びる。花期は5～7月。黄緑色の花をつけるイヨカズラの変種で，暗紫色の花を上部の葉のつけ根にやや密につける。本県では豊後水道域の海岸や島に分布しており，生育範囲が狭く，個体数も少ない。海岸の護岸工事や崖地の崩壊防止工事などで消滅した生育地もあって，絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：辻 寛文)

県内分布 豊後水道域

分布域 本州，四国，九州（福岡・大分・鹿児島），沖縄

グンバイヒルガオ

Ipomoea pes-caprae subsp. *brasiliensis*

ヒルガオ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



広く安定した海岸砂丘に生える多年生のつる植物。種子は海水に運ばれ，砂浜に打ち上げられ発芽する。茎は長く砂をはい，葉は厚く光沢があり軍配形。花期は7～8月，紅紫色の花をつける。暖帯から熱帯にまで分布する植物で寒さに弱い，ここ10年ほど当該地域のごく限られた海岸で越冬を続けている。冬季の寒気による影響を受けるほか，砂浜の減少や波で打ち上げられた漂流物による埋没などもあって，絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：真柴茂彦)

県内分布 （別府湾沿岸域），豊後水道域

分布域 四国（南部），九州（福岡・長崎・熊本・大分・宮崎），沖縄
熱帯一般

カイジンドウ

Ajuga ciliata var. *villosior*

シソ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



丘陵地から低山地のやや乾いた明るい草地に生える多年草。高さ30～40cmで葉は対生。全体に白い毛を密生し、茎はしばしば橙赤色を帯びる。花期は5～6月、茎の上部に青藍色の花が輪状に数段集まってつく。県内では火山性高原の草原に点在し、個体数も少ない。草原の開発や植林、人による採取などで消滅する生育地が多く、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：瀬戸屋耕二)

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地
分布域 北海道，本州，九州（熊本・大分・宮崎・鹿児島）

ツクシシオガマ

Pedicularis refracta

ゴマノハグサ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



丘陵地や低山地の湿った草地に生える多年草。茎は直立して高さ15～40cm，白い毛が密生する。葉は長だ円形で4枚ずつ輪生し，羽状に深裂して裏面に軟毛がある。5月の初めごろ，茎の頂に3～4個の輪生する花を数段つける。花弁の色は紅紫色。九州の特産種で，本県は分布の北限域。生育地の湿地や草地が改変されて，既に消滅した所もあり，その減少や消滅が懸念される。

(写真：三浦恒美 文：小田 毅)

県内分布 耶馬溪地区，英彦山・犬ヶ岳山地，津江山地，玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，大野川上流域，祖母・傾山地
分布域 九州（熊本・大分・宮崎・鹿児島）
国立・国定公園指定植物 〔阿蘇くじゅう，耶馬日田英彦山，祖母傾〕

ヤマトラノオ

Veronica rotunda var. subintegra

ゴマノハグサ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



丘陵地から山地の草原に生える多年草。茎は直立して高さ40～80cm、葉は細い卵形で対生し、ほとんど柄がなく、縁にはとがったぎざぎざがある。花期は7～9月、茎の先端に青紫色の多数の花を総状につける。県内では分布域が狭く、個体数も少ない。植生が遷移して環境が変わり、生育状態の把握できない所が多くなっている。土地改変や野焼きの停止、さらに人による採取もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：辻 寛文 文：生野喜和人)

県内分布 玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 本州、四国、九州（熊本・大分）

朝鮮半島、中国（東北部）、アムール、ウスリー、樺太

マンセンレンブクソウ

Adoxa moschatellina f. japonica

レンブクソウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



溪流沿いや田んぼの畦などに生える草丈15cmほどの小さな多年草。長い柄のある根生葉は2回3出の複葉で、表面は淡緑色、裏面は緑白色。茎にも1対の3出複葉がある。花期は早春の3～4月、茎の先に直径7mmほどの淡黄緑色の花がくっついてつく。大陸系遺存植物で、本県では南西部のごく限られた狭い範囲に分布する。個体数は極めて少なく、水田耕作によるかく乱や生育地の環境変化で、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：小代連枝 文：阿孫久見)

県内分布 大野川上流域

分布域 九州（熊本・大分）

朝鮮半島、中国（東北部）

サワギキョウ

Lobelia sessilifolia

キキョウ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



丘陵地から山地の池沼や湿地に生える多年草。草丈40～90cm。葉は細く先はとがり、斜上して密につく。夏から秋にかけて上部の葉のつけ根から濃紫色で柄のある花を総状につけ、花弁は深く裂けて反り返る。北方寒冷地要素の植物で、県内では北部・西部・中部地域の湿地に散在する。湿地の改変や生育環境の乾燥化、さらには人による採取もあって、生育地の減少や消滅が懸念される。

(写真：阿孫久見 文：生野喜和人)

県内分布 (英彦山・犬ヶ岳山地)、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群

分布域 北海道、本州、四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

台湾、朝鮮半島、中国・中国(東北部)、アムール、ウスリー、東シベリア、樺太、千島

国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、瀬戸内海、耶馬日田英彦山]

ヒゴタイ

Echinops setifer

キク科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



日当たりのよい乾いた草原に生える多年草。大陸系遺存植物で、日本における分布域は狭い。本県では、多くは火山性高原を生育地としている。葉は長さ15～25cm、縁には短い刺があり、葉の裏は綿毛があって真っ白。花期は8～9月。1m内外の花茎を立てて、茎の先にくす玉に似た花序をつくる。球状の花は小さい花の集まりで、その花の下に集まった葉のような総苞も青紫色で目立つ。植林や野焼きの停止などによる生育環境の変化や人による採取で、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 耶馬溪地区、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・

大野川丘陵地、豊後水道域、大野川上流域、祖母・傾山地

分布域 本州(愛知、岡山)、四国、九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

朝鮮半島

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

ブゼンノギク

Heteropappus hispidus subsp. *koidzumianus*

キク科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 II



九州北部地域の特産種。県内での生育地は、県北地方の凝灰角れき岩^{ぎょうかい}の岩場に広く分布する。日当たりのよい岩場や崖地に生える無毛の越年草で、岩上や崖地によく繁茂している。高さ1m内外で、茎は多く分枝する。花期は10～11月、径3.5～4cmの多くの頭花をつける。舌状花は紫色で、冠毛は長さ3～4cm。人里近い岩場では、生育地の土地の改変や人による採取が懸念される。

(写真：生野喜和人 文：荒金正憲)

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地、玖珠丘陵地・山地

分布域 九州（佐賀・大分）

国立公園指定植物 [耶馬日田英彦山]

コウリンギク

Senecio argunensis

キク科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IA



大陸系遺存植物で、日本では大分県だけに分布する。火山性高原の丘陵地や低山地の草原に生える多年草。草丈60～150cm、根茎は木質となる。茎の上部で分枝し、茎頂に径2～2.5cmの多数の頭花をつける。舌状花は濃黄色。生育地はごく限られて点在し、土地開発のため消滅した所も生じている。現存する生育地は極めて狭く、個体数も少ない。一帯は放牧地の周辺地で、しかも道路沿いにあり、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：荒金正憲)

県内分布 玖珠丘陵地・山地、(九重火山群)、(由布・鶴見火山群)

分布域 九州（大分）

朝鮮半島、中国（東北部）、ダフリア

ツクシタンポポ

Taraxacum kiushianum

キク科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



丘陵地から山地の路傍や林縁に生える多年草。葉は茎からロゼット状に広がる。4～5月、花柄を伸ばして1個の頭花をつける。総苞はカンサイタンポポに比べがっちりとして幅広く、外片は内片の2分の1の長さ。花は黄色。生育地は限られ、個体数は極めて少ない。植生遷移による環境の変化や帰化種セイヨウタンポポの侵入で生育地が狭くなり、絶滅の危険性が高くなっている。基準標本産地は「耶馬溪町川原口」。

(写真：荒金正憲 文：真柴茂彦)

県内分布 (耶馬溪地区)、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群
分布域 四国、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

辞 類

コアナミズゴケ

Sphagnum microporum

ミズゴケ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



生育地の多くは、丘陵地や低山地の湿地の凹部や水辺で、湿地植物の株元に生育する。県内の生育地は限られ、生育する範囲も極めて狭い。数年前まで「玖珠丘陵地・山地」の湿地に生育していたが、生育地へ富栄養の水が流入して環境が変化し、消滅したようである。九重火山群の生育地は、湿地の乾燥化により生育状態が悪化しており、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：荒金正憲 文：大塚政雄)

県内分布 (玖珠丘陵地・山地)，九重火山群

分布域 本州，四国，九州

朝鮮，中国

国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

蘚

類

クマノゴケ

Theriotia lorifolia

キセルゴケ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 I



丘陵地や低山地の溪流辺で、しばしば水しぶきがかかる岩上に着生している。本県では生育する量は、それほど多くはないが、生育地はかなり広範囲に分布している。また、本種が生育する谷川の上流は、民家や農耕地などが少ない源流域となっていて、環境の安定している所が多い。谷部の森林の伐採による乾燥化、大雨による土砂の崩壊や流失などの自然災害で、生育状態の悪化が懸念される。

(写真・文：大塚政雄)

県内分布 耶馬溪地区、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州、四国、九州

朝鮮半島、中国、インド、パキスタン

ミズスギモドキ

Aerobryopsis subdivergens

ハイヒモゴケ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



空中湿度が高い丘陵地の渓谷林で、枝や岩から垂れ下がって生えている。本県での生育地は点在しており、生育する量も少ない。生育の様子は生育地により多少異なるが、なかには、垂れ下がる茎の長さが40cmを超えるものもある。葉は茎に対して広く横に展開し、やや光沢があるが、古くなると褐色や黒褐色に変色する。渓谷沿いの森林の伐採による環境の変化や増水による着生木の流失などで、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：大塚政雄)

県内分布 耶馬溪地区、豊後水道後背地域

分布域 本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄

中国、台湾、インドシナ半島

イトゴケ

Barbella pendula

ハイヒモゴケ科

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 掲載なし



丘陵地の空中湿度が高い溪谷で、やや開けた明るい場所の低木の幹や枝に垂れ下がる。茎は糸状で細く、木の枝に淡黄緑色の糸が風に吹かれて絡み付いているように見え、胞子体をつけている。本種は分布域から南方系の種類と考えられる。本県では生育地がまれで、生育している範囲も狭い。森林の伐採などによる生育環境の変化で、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：大塚政雄)

県内分布 耶馬溪地区

分布域 本州（中部地方以西）、四国、九州
中国、北米南部、メキシコ、熱帯アジア

ヒメタチヒラゴケ

Homaliadelphus targionianus var. *rotundatus*

ヒラゴケ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 I



丘陵地の石灰岩が露出した谷沿いに生育している。本種の基準標本産地は大野郡野津町川登。生育地は石灰岩地域に点在している。茎は岩上をはい、葉は約0.8mmの長さで小さく、ほぼ円形で光沢があり、密生する。谷部の森林の伐採や乾燥などの環境変化により、生育状態の悪化が懸念される。

(写真・文：大塚政雄)

県内分布 石灰岩地域

分布域 本州、四国、九州
台湾

マキハキヌゴケ

Pylaisiella subcircinata

ハイゴケ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



低山地の樹幹に着生している。本種は北方系の種類で、県内の生育地は「九重火山群」に限られ、日当たりのよい貯水池の水辺で、ヤナギ類の幹にわずかに着生している。茎は樹幹をはい、葉は黄緑色で光沢があり、先は細く長くとがる。孢子体は直立し、あずき色でつやがあり、目につきやすい。護岸工事や台風による着生木の消失などで、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：大塚政雄)

県内分布 九重火山群

分布域 北海道、本州（中部地方以北）、九州（大分）

朝鮮半島

哺乳類

キクガシラコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum

翼手目 キクガシラコウモリ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



大型のコウモリで、頭胴長は50～75mm、翼を広げると40cmを超える。キクガシラの名前は、鼻の一部が広がって、菊の花に似ていることに由来する。洞窟、トンネル、用水路、廃坑、戦時中の防空壕などに生息し、おもに河川や森林域などで飛翔昆虫を捕食する。防空壕は埋め戻され、石灰洞は掘削され、鍾乳洞は人工照明が取り付けられるなど、生息環境の悪化が進行しており、これまで生息していた洞内でも、個体数が減少している。

(写真・文：足立高行)

県内分布 県内全域の自然洞、人工洞、暗渠

分布域 北海道、本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）、伊豆大島、三宅島、八丈島、佐渡島、対馬、五島列島、屋久島
ヨーロッパ、モロッコからインド北部、中国、朝鮮半島

ムササビ

Petaurista leucogenys

げっし
齧歯目 リス科

カテゴリー

大分県 地域個体群
環境庁 掲載なし



低地から丘陵地の森林に生息し、夜行性で木から木へと滑空移動する。ネコほどの大きさで、尻尾を背中に沿って立てる習性があり、尻尾の先端が頭部に届くこともある。ほとんど樹上で活動し、樹皮や葉、芽、種子などを食べる。生息場所である森林が伐採されて消滅したり、規模が小さくなったりし、子育ての場を利用していた神社の屋根裏が鉄板などで被覆されたため、「群れ」が減少した例もある。いずれも人による干渉で生息可能な場所が急減し、県内全域で個体数が減少している。

(写真：菊屋奈良義 文：足立高行)

県内分布 県内全域

分布域 本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）
中国（甘粛・四川・雲南省）

鳥 類

クマタカ

Spizaetus nipalensis orientalis

タカ目 タカ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB



わが国に生息するものは日本固有亜種。低山から亜高山帯の森林に周年生息し、林内でノウサギやヤマドリ、小鳥類、爬虫類を捕食する。巢は、針葉樹の高木に作る。他のタカ類より翼は幅が広く、後縁部は膨らんでいる。イヌワシと生態が似ているが、クマタカの方がより森林に依存している。生息地である森林の伐採や、スギ、ヒノキへの樹種変換などにより、営巣木となる高木が少なくなり、餌となる動物が減少して生息環境が悪化している。また、剥製や飼育のための捕獲圧も高い。

(写真：林 謙治 文：島岡 章)

県内分布 県内全域の森林部に生息する留鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州の山地の混交林に生息する留鳥。
中国南部、台湾では留鳥。タイ、マレーシアでは越冬。

イヌワシ

Aquila crysaetos japonica

タカ目 タカ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 IB



全国的には、低山から亜高山帯の林に周年生息し、岩棚や大木の高い枝などに営巣する。開けた場所で、ノウサギ、タヌキ、キジ、ヘビなどを捕食する。他のタカ類と異なり、下面が黒く見え、羽ばたきが少ない。県内には、くじゅう山系に1つがいが生息するが、1996年以降は営巣活動がみられなくなっている。大分県は南限域とされていたが、1999年に、宮崎県で1つがいの生息が確認されている。森林の伐採や土地開発などにより、九州、四国、中国地方西部では生息個体数が極めて少なくなり、絶滅の危機に瀕している。

(写真：志賀信幸 文：島岡 章)

県内分布 くじゅう山系に生息する留鳥。

分布域 北海道から九州の低山から高山に生息する留鳥。

朝鮮半島では留鳥。中国東北部では冬鳥。シベリア北部では夏鳥。シベリア南部では留鳥。

ヒクイナ

Porzana fusca erythrothorax

ツル目 クイナ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



平地から低山地の水田、湖沼、川などの湿地に、夏鳥として生息し、草の茂みの中で繁殖する。本県では越冬する個体もある。非繁殖期は単独で、繁殖期にはつがいで生息する。水生の魚類、昆虫類、甲殻類のほか、植物の種子などを食べる。草むらの中で生活していて警戒心が強いので、姿をみつけにくい。早朝の「キョッ、キョッ、キョッ」という金属的な鳴き声は、「クイナのたたく」と詠まれている。近年、河川や水路の改修、コンクリート化により生息環境が悪化し、生息数が減少している。

(写真：志賀信幸 文：島岡 章)

県内分布 平地の湿地に生息する夏鳥。

分布域 亜種ヒクイナは北海道、本州、四国、九州で夏鳥。屋久島以南では冬鳥。

奄美以南では亜種リュウキュウヒクイナが留鳥。

朝鮮半島、中国中部・南部で繁殖。東南アジアで留鳥。

ズグロカモメ

Larus saundersi

チドリ目 カモメ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



海岸、海上に冬鳥として生息し、浅い水辺や干潮の泥質干潟で甲殻類、ゴカイ類などの水生小動物を採餌する。クチバンが黒く、翼の先端に白黒斑があるのが特徴。中国北東部の内陸湖沼で繁殖し、総個体数約5,000羽のうち、九州北部の海岸部に約1,000羽が、県内では杵築以北の海岸に数十羽が越冬する。世界的に絶滅のおそれがあり、採餌場所である泥質干潟が、近年急激に減少しており、生息が危ぶまれている。

(写真：谷上和年 文：島岡 章)

県内分布 杵築湾以北の干潟に飛来する冬鳥。

分布域 九州北部では冬鳥。

中国北部、モンゴルなどで繁殖。中国南部、台湾で越冬。

コアジサシ

Sterna albifrons sinensis

チドリ目 カモメ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



全国的にも、集団繁殖地、繁殖個体数が減少している。海岸部や湖沼の岸、大きな河川に夏鳥として生息し、砂地・砂れき地に集団で営巣して繁殖する。空中にとどまり、水面に急降下して、小魚をとる。黒い頭、白い眉斑、黄色いくちばしと足が特徴である。十数年前までは、大分川、大野川の中州や海岸部の砂れき地で集団繁殖していたが、近年は、河川改修や釣り人の増加、海岸部の埋立て、防波堤工事、自動車の進入などにより、繁殖はほぼゼロに近い状態が続いている。

(写真：志賀信幸 文：島岡 章)

県内分布 大分川、大野川及び海岸部の砂れき地で繁殖する夏鳥であったが、近年は春秋に通過する旅鳥。

分布域 本州、四国、四国、九州、琉球諸島で夏鳥。

朝鮮半島、中国全域、台湾で繁殖。東南アジアで越冬。

カラスバト

Columba janthina janthina

ハト目 ハト科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 準



日本の周辺だけに生息する準固有種。暖流域にある島や海岸部の常緑広葉樹林内に周年生息し、シイやタブ、ツバキなどの実を好んで食べる。キジバトよりも大きく、全身が真っ黒で金属光沢がある。「ウッー、ウッー」と太い声で2声ずつ鳴く。県内では深島、沖黒島など県南の島に周年生息するが、鶴見半島、佐賀関の半島部で確認されたこともある。生息環境が島に限定されているため、確認される個体数が少ない。

(写真：澤岡潤治 文：島岡 章)

県内分布 深島、沖黒島など県南の島に生息する留鳥。

分布域 伊豆諸島と九州周辺、奄美諸島、琉球諸島、隠岐以南の暖流域の島や海岸部に生息する留鳥。朝鮮半島、中国黄海と日本の島に生息する留鳥。

アオバズク

Ninox scutulata japonica

フクロウ目 フクロウ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



低地から丘陵地の常緑広葉樹林と針広混交林に夏鳥として生息し、大きな木の樹洞で繁殖する。薄暮時に飛翔性昆虫や鳥類を捕食する。「ホッホウ、ホッホウ」と2声ずつ鳴く。羽角がないので頭部は丸くみえ、目は金色をしている。市街地でも、社寺林や公園林などのまとまった林と大木があれば営巣することもある。生息地では、繁殖に適した樹洞のある大木が減少しているため、生息数が減少している。

(写真：高野橋豊 文：島岡 章)

県内分布 平地から山地の林に生息する夏鳥。

分布域 亜種アオバズクは北海道、本州、四国、九州で夏鳥。奄美以南は亜種リュウキュウアオバズクが留鳥。朝鮮半島、中国北部・東北部で繁殖。中国中部・南部、台湾、フィリピン、インドシナ半島で越冬。

ヨタカ

Caprimulgus indicus jotaka

ヨタカ目 ヨタカ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



低山から山地の明るい林、農耕地内の残存林などに夏鳥として生息し、薄暮から夜間に、口を開いて飛び回り、昆虫類を捕食する。日中は、木の枝に沿って腹を密着させるように止まって休息する。地上に直接卵を産むが、全身が枯葉模様の保護色であるため、わかりにくい。「キョッキョッキョッ……」とテンポの速い声で、夕暮れから朝方まで鳴くのが特徴。里山では夜行性の身近な鳥であったが、近年鳴き声を聞くことが少なくなった。農薬の空中散布、里山林の減少などの影響で生息数が激減している。

(写真：長谷部和宏 文：島岡 章)

県内分布 全県の平地から山地の疎林に生息する夏鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州で夏鳥。

中国全域、朝鮮半島で繁殖。東南アジアで越冬。

アカショウビン

Halcyo coromanda major

ブッポウソウ目 カワセミ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



平地から山地の溪流沿いなどの、よく茂った湿気のある落葉広葉樹林に、夏鳥として生息し、朽木や斜面に穴を掘って営巣する。薄暗い林で、両生類、爬虫類、甲殻類などを捕食する。全身が赤褐色であるのが特徴。雨が降ると「キョロロロー」と尻下がりの声でよく鳴く。カワセミと同じように、捕らえた餌を枝などにたたきつけ、殺してから丸のみする。道路などの開発により、生息環境が悪化したため、生息数が減少している。

(写真：長谷部和宏 文：島岡 章)

県内分布 全県の平地から山地の溪流に生息する夏鳥。

分布域 亜種アカショウビンは北海道、本州、四国、九州、種子島、屋久島で繁殖する夏鳥。奄美諸島以南には別亜種リュウキュウアカショウビンが留鳥。朝鮮半島、日本、台湾で夏鳥。東南アジアで留鳥。

サンショウクイ

Pericrocotus divaricatus divaricatus

スズメ目 サンショウクイ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



低地から丘陵地の落葉樹林、常緑広葉樹林及びその林縁部の里山を主な生息地とする。樹冠部の枝に止まって昆虫類を空中で捕食する。ほっそりとした胴と長い尾があるため、細長く見える。飛びながら「ヒリヒリン」と鳴く。亜種サンショウクイは県内全域に夏鳥として飛来し、亜種リュウキュウサンショウクイは、羽色や胸部が濃く、県南地域に周年生息する。近年の里山の開発、伐採、樹種変換などで落葉広葉樹林が減少し、生活環境が悪化して、個体数も減少している。

(写真：志賀信幸 文：島岡 章)

県内分布 亜種サンショウクイは全域の里山に生息する夏鳥。亜種リュウキュウサンショウクイは県南で生息する留鳥。

分布域 亜種サンショウクイは本州、四国、九州に生息する夏鳥。亜種リュウキュウサンショウクイは九州中部以南で留鳥。中国東北部、ウスリー、シベリアで繁殖。中国南部、東南アジアで越冬。

サンコウチョウ

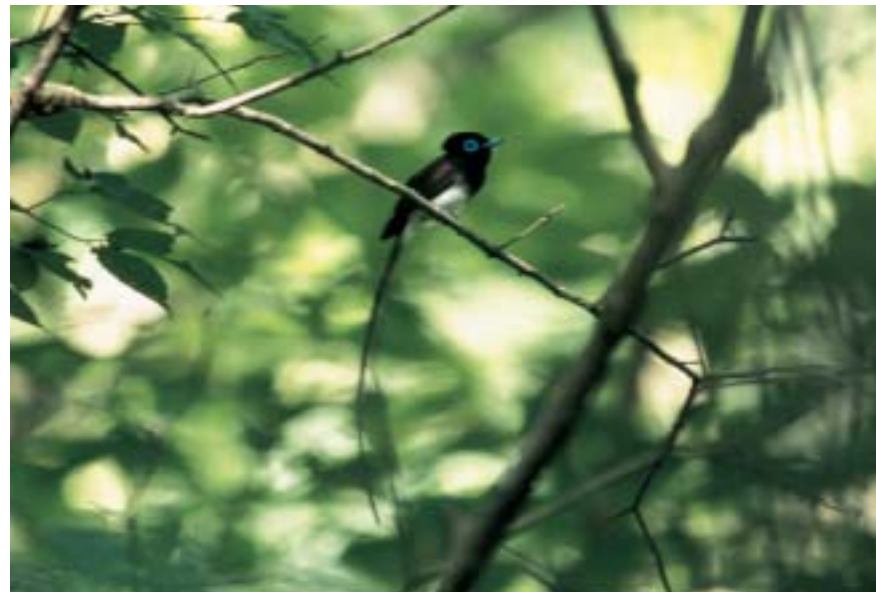
Terpsiphone atrocaudata atrocaudata

スズメ目 カササギビタキ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



日本と台湾だけで繁殖する準固有種。丘陵地から低山地の里山の開けた沢沿いの広葉樹林に夏鳥として生息し、林の中で昆虫を空中で捕食する。頭部は黒色で、眼のまわりとくちばしは鮮やかな青色。雄は20cmもの長い尾を持つ。鳴き声が「ツキヒホシホイホイホイ」と聞こえるため、この名がつけられた。平地の林が減少し、また、林が幼齢化していることなどで生息環境が悪化し、生息数が減少している。

(写真：志賀信幸 文：島岡 章)

県内分布 県内全域の平地林に生息する夏鳥。

分布域 亜種サンコウチョウは本州、四国、九州に夏鳥。奄美諸島以南は別亜種リュウキュウサンコウチョウが常緑広葉樹林に留鳥。台湾で繁殖。中国南部から東南アジア西部で越冬。

ホシガラス

Nucifraga caryocatactes japonica

スズメ目 カラス科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



全国的には、亜高山帯から高山帯に周年生息し、冬は標高のやや低い場所にも移動する。針葉樹やブナなどの種子や昆虫などを食べる。餌を樹木の割れ目などに蓄える習性がある。胸、腹、背に無数の白い斑点があり、飛ぶと下尾筒と尾の先の白が目立つ。にごった声で「ガーガー」と鳴く。九州中央山地と祖母・傾山系は繁殖の南限となっており、個体数は少ない。渡りをしないため、九州地域個体群として生息地が孤立している。

(写真：澤岡潤治 文：島岡 章)

県内分布 祖母傾山系に生息する留鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州(熊本・大分・宮崎)で留鳥。

中国南部・北部・東北部、シベリア、朝鮮半島、台湾に留鳥。

爬虫類

シロマダラ

Dinodon orientalis

トカゲ目 ヘビ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



低地の森林に生息し、トカゲや小さなヘビを捕らえて食べる。全長30～70cm、白と黒のコントラストがよく目立つ。個体数が少なく、夜行性で目立たないこともあり、確認できることは極めて少なく、佐伯市白坪、日田郡天瀬町で新たに確認されたものを加えても、県下で5地域6例にとどまっている。南方系の種で、低地に生息することから、土地開発などによる森林の消失で、絶滅のおそれが極めて高い。

(写真：真柴茂彦 文：足立高行)

県内分布 中津市、宇佐市、天瀬町、大分市、佐伯市

分布域 本州、四国、九州、奥尻島、伊豆大島、佐渡、奄岐、薩摩硫黄島、屋久島

クサガメ

Geoclemys reevesii

カメ目 イシガメ科

カテゴリー

大分県 地域個体群
環境庁 掲載なし



おもに日の当たる浅い池沼に住んでおり、池の中に倒れた木や石の上などで首をのぼし、甲ら干しをする習性がある。近縁種のイシガメと比べ、クサガメは、甲らの縁がなめらかで3本の隆起が走り、後頭部に細かいうろこがあるなどの特徴がある。放棄水田や休耕田の増加によって、池や沼の水環境が変わったり、各種の開発事業によって池や沼が埋立てられたりして、近年、姿をみかけることが少なくなっている。

(写真・文：足立高行)

県内分布 県内全域

分布域 本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）、
岐阜、対馬
朝鮮半島、中国東部、台湾

両生類

オオサンショウウオ

Andrias japonicus

サンショウウオ目 オオサンショウウオ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 準



生息地は二次林の渓流域で、成体はおもに夜間に活動し、サワガニや魚類などを食べる。成体の体長は60cmから1mに達するものがあり、現存する両生類の中では最大である。産卵期は8月下旬から9月上旬で、幼生は翌年の1～5月、溪流のよどみの落葉の中で成長する。生息地である宇佐郡院内町の岡川は、現在日本本土における南限域であるとともに、九州唯一の自然繁殖地である。周辺の森林が伐採されれば、生息環境の悪化により、絶滅の可能性が極めて高い。

(写真：佐藤真一 文：堀江道廣)

県内分布 宇佐郡（院内町）

分布域 本州（中部・近畿・中国地方）、九州（大分）

オオイタサンショウウオ

Hynobius dunni

サンショウウオ目 サンショウウオ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



標高10mから800mの池沼や水田などの止水域に生息する。成体の体長は10～18cm、体色は黄褐色から暗褐色。12月中旬から4月にかけて、水たまりに産卵し、幼生は水生動物を食べたり、共食いをしたりして、8～9月に、変態して陸上で生活する。小型サンショウウオ類の中では分布域が狭く、本県がおもな生息地となっており、本種の標準産地は、佐伯市城山の雄池・雌池とその周辺である。都市部やその周辺では、土地開発や休耕田の増加などにより、消滅する生息地が多くなっている。

(写真：佐藤眞一 文：堀江道廣)

県内分布 宇佐市、宇佐郡、豊後高田市、西国東郡、東国東郡、杵築市、速見郡、別府市、大分市、大分郡、北海部郡、臼杵市、津久見市、佐伯市、南海部郡、竹田市、大野郡、直入郡

分布域 四国（土佐清水市）、九州（熊本・大分・宮崎）

オオダイガハラサンショウウオ

Hynobius boulengeri

サンショウウオ目 サンショウウオ科

カテゴリー

大分県 地域個体群

環境庁 地域個体群



生息地は、祖母・傾山系の標高500～1500mの渓流域。成体の体長は16～20cmで、なす紺色をしている。5月中旬、溪流の石の下面に産卵し、幼生は水生昆虫類の幼虫やヨコエビなどを捕食する。ほとんどの幼生は越冬し、翌年9月ごろまでには変態し、陸上で生活するようになる。ソハヤキ要素の動物。祖母・傾山系のものは、紀伊・四国産より小型の傾向を示し、地域個体群としての特性がみられる。森林伐採による個体数の減少が懸念される。

(写真：佐藤眞一 文：堀江道廣)

県内分布 竹田市、大野郡、南海部郡

分布域 本州（近畿地方）、四国、九州（熊本・大分・宮崎・鹿児島）

トノサマガエル

Rana nigromaculata

カエル目 アカガエル科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



成体の体長は4～9cm、体色は緑白色・褐色などの地色に黒色の模様があり変化に富んでいる。普通、背中中央部に背中線が見られる。水田をおもな繁殖地としていて、4～5月、雌を誘う雄の鳴き合う声（かわず合戦）は、夏の風物詩ともなっていた。オタマジャクシは7月ごろに変態し、その幼体はバッタ類を多量に捕食するので、イネの害虫駆除者として、農薬に勝るほどの役割を果たしていた。近年、「水田の王者」とまでいわれていた本種は、水田の管理放棄、農薬による水質の悪化などで、個体数の激減している所が多くなっている。（写真・文：佐藤眞一）

県内分布 中津市、宇佐市、宇佐郡、豊後高田市、東国東郡、速見郡、大分郡、日田市、日田郡、玖珠郡、竹田市、大野郡、直入郡

分布域 本州（関東地方から仙台平野を除いた地域）、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）韓国、中国

魚 類

アリアケギバチ

Pseudobagrus aurantiacus

ナマズ目 ギギ科

カテゴリー

大分県 II
環境庁 準



雌



雄

九州に生息する日本固有種で、全長約25cm。河川の中流域に生息し、日中は川岸の植物の根の間などで休息し、夜間に水生昆虫や小魚を捕食する。背びれと胸びれに棘^{とげ}があり、刺されると痛い。胸びれの付け根の骨を擦り合わせて「ギュッ、ギュッ」と音を出すことから、ギュギユウという地方名もある。生息環境の変化に弱いため、河川改修などによる生息地の減少や消失が懸念される。

(写真・文：星野和夫)

県内分布 筑後川水系

分布域 九州西部、長崎県壱岐

魚
類

アカザ

Liobagrus reini

ナマズ目 アカザ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 II



日本固有種。全長約10cmで、一見ドジョウのように見えるがナマズの仲間。水の澄んだ河川の上流域から中流域の転石帯に生息する。夜行性で日中は浮き石のすき間に潜み、夜間に行動して水生昆虫を捕食する。体色は赤褐色で、背びれと胸びれに棘があり刺されると痛いことから、アカバチ、アカギユウギユウなどの地方名がある。産卵期は5月ごろ。雄は頭部の肉が盛り上がる。河川工事による流出した土砂などで産卵場所や生息地が埋まり、個体数の減少が危惧される。

(写真・文：星野和夫)

県内分布 山国川、駅館川、桂川、安岐川、大分川、筑後川各水系の本流及び支流
分布域 宮城県・秋田県以南の本州、四国、淡路島、九州

カワアナゴ

Eleotris oxycephala

スズキ目 カワアナゴ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



環境庁が「日本の重要な淡水魚」に指定している全長約30cmのハゼに似た魚。腹びれが吸盤状ではなく左右に分かれているので、ハゼ類と区別するのは容易である。自然度の高い河川の中・下流域から河口や汽水域の砂・泥・れき底などに生息している。日中は岩陰などに潜み、夜間、小魚や甲殻類を捕食する。河川改修工事などで生息地が失われ、個体数が減少している。

(写真：松尾敏生 文：星野和夫)

県内分布 山国川、駅館川、八坂川、冷川、大分川、大野川、白杵川、番匠川の各水系
分布域 栃木県遊水池～種子島
中国

トビハゼ

Periophthalmus modestus

スズキ目 ハゼ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 地域個体群



腹びれが吸盤状に発達した全長約10cmのハゼの仲間。泥質の干潟が広がる河口域や内湾に生息し、発達した左右の胸びれを巧みに使いながら干潟の上をはいずりまわる。動物食性。3～11月の活動期に雄が作った泥の中の巣に雌を導き入れて、産卵する。干拓や埋立て工事により干潟が狭くなり、餌となる小動物の減少により、生息数の減少が懸念される。

(写真：梅津幸雄 文：星野和夫)

県内分布 山国川・駅館川・桂川を中心とした周防灘に注ぐ各河川の河口域、及び八坂川河口域から守江湾周辺

分布域 東京湾～沖縄島
朝鮮半島、中国、台湾

昆虫類

モートンイトトンボ

Mortonagrion selenion

トンボ目 イトトンボ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



小型のイトトンボで，ホタルイなどの草丈の低い植物が繁茂する標高のやや高い湿地帯に生息する。雌は，成熟前は全身が鮮やかなオレンジ色で，成熟するにつれ腹部末端を除いて鮮緑色に変わる。県内では，各生息地とも個体数は少なく，ごく限られた地域に分布するため，湿地の乾燥化や土地開発による，生息地の消滅や減少が懸念される。

（写真・文：羽田孝吉）

県内分布 玖珠町，杵築市，湯布院町，宇目町，佐伯市

分布域 北海道南端，本州，四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）

朝鮮半島，中国北部，沿海州

オオエゾトンボ

Somatochlora viridiaenea atrovirens

トンボ目 エゾトンボ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



胸部が金属緑色に輝くやや大型のトンボ。丘陵地のヨシやガマなどが茂る池沼や湿地に生息する。東北地方以南に分布するが、西南日本では局地的で、県内では、生息地、個体数は非常に少ない。かつて確認された中津市では現在、生息が把握されていない。小さな池や湿地が埋め立てられ、生息地の失われた所が生じ、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：羽田孝吉)

県内分布 (中津市), 山香町

分布域 本州, 四国, 九州 (熊本・大分), 淡路島, 隠岐

ベッコウトンボ

Libellula angelina

トンボ目 トンボ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 I



体色は濃褐色で翅に特異な斑紋をもつ。未熟個体は体色と翅斑がベッコウ色をしている。ヨシやガマなどが繁茂する低地や丘陵地の池沼に生息する。成虫は4月下旬から現れ、6月下旬までみられる。県内では10数か所で生息が確認されているが、池の埋め立てや生活排水の流入による生息地の汚染などで、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：羽田孝吉)

県内分布 中津市, 宇佐市, 豊後高田市, 大分市

分布域 本州 (東北地方南部以南), 四国, 九州 (福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 対馬
朝鮮半島, 中国北部から中部

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea

トンボ目 トンボ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



トンボの仲間では国内最小で、体長20mmほどであるため、一目で他種と区別できる。日当たりのよい丘陵地の湿原や浅い湿地に生息する。成虫は5月上旬から現れ、8月下旬までみられる。地上15cmくらいを飛び、生息域を離れない。県内では、ごく限られた地域に分布する。湿地の開発や土砂の流れ込みによる湿地の陸化で、生息地の減少や消滅が懸念される。

(写真・文：羽田孝吉)

県内分布 安心院町

分布域 本州、四国、九州

エサキアメンボ

Limnoporus esakii

カメムシ目 アメンボ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 準



体長7～11mmで、後胸部が角張らない美しいアメンボ。県内では県北部の農業用水にわずかに生息している。重要な生息条件であるヨシやガマなどの植物の除去や、粗大ゴミの投棄、池沼の改修工事などにより生息地の環境が著しく悪化しており、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：三宅 武 文：中島三夫)

県内分布 中津市、宇佐市

分布域 本州、九州

タガメ

Lethocerus deyrollei

カメムシ目 コオイムシ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 II



体長48～65mm、褐色でわが国カメムシ目最大の昆虫である。県内では、かつて水田地帯のすみずみまで広く分布していた。1962年夏には、大分市羽屋に新設された工場周辺の蛍光灯に、連日、多く飛来し、オート三輪車で捨てに行く光景がみられた。1965年ごろから、BHCやPCB粒剤が水田で多用され、急激に姿を消した。その後、農薬汚染のない山間部で生息が知られていたが、竹田市と荻町を除いては、近年生育の記録がなく、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：三宅 武 文：中島三夫)

県内分布 (日田市), (山香町), (杵築市), (大分市), 竹田市, 荻町

分布域 本州, 四国, 九州, 沖縄

アッサム, 朝鮮半島, 中国, 台湾

ハリサシガメ

Acanthaspis cincticrus

カメムシ目 サシガメ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



黒または黒褐色の地色に淡黄褐色の斑紋がある体長15mm前後のカメムシ。畑地や周辺のネザサやチガヤの生えた里山に生息し、若虫は捕食したアリの死体を背負って歩く。ごく普通にみられていたが、近年、著しく減少した。道路工事やほ場の基盤整備、宅地造成などによる生息環境の変化や生息適地の消滅により、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：中島三夫)

県内分布 日田市, 九重町, 大分市

分布域 本州, 九州

中国

ヨドシロヘリハンミョウ

Cicindela inspecularis

コウチュウ目 ハンミョウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 II



体長9～12mmのハンミョウで、瀬戸内海沿岸地域に生息し、県内では大野川と乙津川の河口に、狭い範囲の生息地がある。夏に、河口付近のヨシなどが生える泥質の水辺に出現する。干潮になると砂泥地に現れ、小昆虫などを捕食する。河川改修工事や周辺の工業用地化による河口付近の環境変化で、生息地の消滅した所があり、絶滅の危機に瀕している。

(写真・文：堤内雄二)

県内分布 大分市、(佐伯市)

分布域 本州(瀬戸内海沿岸)、四国(瀬戸内海沿岸)、九州(大分・鹿児島)、種子島
朝鮮半島、中国、台湾

ルイスハンミョウ

Cicindela lewisi

コウチュウ目 ハンミョウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



体長15～17mmの大型のハンミョウで、県内では大野川と乙津川の河口付近の狭い範囲に生息し、7～8月に出現する。成虫の活動範囲は狭く、ヨシや雑草などが生える砂地に集中する。かつて記録された別府市では生息が確認されず、分布は局地的で、個体数も少ない。河川改修や工業用地化などの環境変化により、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 (別府市)、大分市

分布域 本州(中部以西)、四国、九州
朝鮮半島、済州島、中国北部

ゲンゴロウ

Cybister japonicus

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 準



体長35～40mm、日本では最大のゲンゴロウ。成虫は夏の終わりから出現し、成虫のまま土中で越冬する。ヒルムシロ・オモダカなどの水生植物の生えた池沼や放棄水田、湿地に生息し、魚類や昆虫などを捕食する。県内では、1960年代以降、ほとんど生息が確認できなかったが、1990年代後半からわずかながら生息が確認されている。食物連鎖^{れんさ}の上位であることから、農薬汚染による影響を強く受け、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 九重町、玖珠町

分布域 北海道、本州、四国、九州、屋久島、奄岐
シベリア、朝鮮半島、中国、台湾

アカマダラセンチコガネ

Ochodaeus maculatus maculatus

コウチュウ目 コガネムシ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



体長7～9mm。林床にササ類が混生する山地の森林に生息し、夕刻地上10cmくらいを羽音をたてずに飛ぶ。食性は不明。全国的に分布域は広いが、局地的で、個体数は非常に少なく、県内ではまれにみられる。森林伐採や草地改良など環境の変化により、生息地の消滅や減少が懸念される。

(写真・文：羽田孝吉)

県内分布 九重町、湯布院町、庄内町、宇目町

分布域 本州、四国、九州、対馬、屋久島

オオチャイロハナムグリ

Osmoderma opicum

コウチュウ目 コガネムシ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 準



体長27～28mmで、紫銅色の光沢を有する。木の洞や立枯れの木の中に生息する。腐植土に産卵し、卵から成虫まで2か年を要する。成虫は独特な甘いにおいを発する。県内でも分布域は限られ、森林伐採や林道開発による森林の減少で、生息環境の変化が懸念される。

(写真・文：羽田孝吉)

県内分布 別府市、湯布院町、九重町、庄内町、竹田市

分布域 本州、四国、九州、屋久島

クロマダラタマムシ

Nipponobuprestis querceti

コウチュウ目 タマムシ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



体長18～28mmの中型のタマムシ。平地から低山地の河川周辺でエノキの樹幹の衰弱した所を食べて成虫になり、そのまま越冬する。山香町や別府市での記録はあるが、現在、生息しているかは不明。最近、安心院町で確認された。生息地が限られ、個体数もごく少なく、生息地の環境変化などで、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 安心院町、(別府市)、(山香町)

分布域 本州、四国、九州
中国中部

ギョウトクテントウ

Hyperaspis gyotokui

コウチュウ目 テントウムシ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 掲載なし



まが玉状の黄色い紋をもつ小さなテントウムシ。高原の湿地帯に生息しているが、詳しい生態は不明。国内では福岡県と大分県にだけ分布し、非常にまれな虫である。確認されている県内の生息地は1か所だけで、個体数も極めて少ない。生息地が限られ、植生遷移の進行による環境の変化や湿地の乾燥化により、絶滅の危機に瀕している。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 玖珠町

分布域 九州（福岡・大分）

朝鮮半島

クロサワヒメコバネカミキリ

Epania septemtrionalis

コウチュウ目 カミキリムシ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



体長9～13mmのハチに似た小さなカミキリムシ。自然林内やその周辺に生息し、クリなどの花に飛来する。県内では湯布院町で、クマノミズキの立ち枯れ木に発生していたが、発生木の消滅により、その後の生息は確認されていない。庄内町では、ごく少数の採集記録がある。県内では局地的に分布するが、森林の伐採や道路工事などで環境が悪化し、生息地の減少が懸念される。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 (湯布院町), 庄内町

分布域 本州, 四国, 九州（福岡・大分）

ジュウジクロカミキリ

Clytosemia pulchra

コウチュウ目 カミキリムシ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



体長 5 ～ 6 mm の、背面に十字の模様が目立つ小型のカミキリムシ。春に出現し、クルミ類の枯枝上にみられる。県内では、生息地はごく限られ、個体数も少ない。食草となるオニグルミが伐採されて、生息環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 緒方町

分布域 北海道、本州、四国、九州（熊本・大分・宮崎）

ブロイニングカミキリ

Saperda ohbayashii

コウチュウ目 カミキリムシ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



体長 8 ～ 11 mm のカミキリムシで、九州では大分県にだけ分布する極めてまれな甲虫である。春から夏にみられ、大分県で、溪谷のケヤキの細枝を食草とすることが確認された。生息地は溪谷の狭い範囲であり、森林伐採や自然災害による生息環境の悪化で、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 九重町，緒方町

分布域 北海道、本州、九州（大分）

アサカミキリ

Thyestilla gebleri

コウチュウ目 カミキリムシ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 準



体長10～15mmで、全国的に分布域が狭く、ごくまれなカミキリムシ。九州では大分県にだけ分布する。アザミ・ヨモギ類が生える湿地に生息し、6～7月ごろ出現する。戦前はアサの害虫とされていたが、アサの栽培が禁止されたことや、草原や湿地の減少により、生息地が消失している。県内でも、観光開発や道路整備などによって、生息地が消滅した所が生じ、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：三宅 武 文：堤内雄二)

県内分布 湯布院町、(緒方町)

分布域 本州、四国、九州 (大分)
東アジア

カツラネクイハムシ

Donacia katsurai

コウチュウ目 ハムシ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 情報不足



春から夏にかけて出現し、スゲ類やサヤヌカグサなどが繁茂する湿地の止水域に生息する。全国的に分布は極めて限られており、九州では、大分県にだけ隔離分布する。湿地の開発や乾燥化による生息地の減少や生息環境の悪化で、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真：羽田孝吉 文：堤内雄二)

県内分布 玖珠町

分布域 本州 (兵庫)，九州 (大分)

スジボソヤマキチョウ

Gonepteryx aspasia nipponica

チョウ目 シロチョウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



雄の翅^{はね}の表は濃黄色、雌は淡黄白色のシロチョウで、本州には広く分布するが、九州では生息地は局限され、個体数も極めて少ない。クロウメドキ科の植物を食草とし、山地の溪流沿いや林縁に生息する。6月下旬に発生し、成虫で越冬する。県内では、高地のくじゅう山群と祖母山に限られ、1950年代に採集されている。その後、記録は途絶えたが、1986年に祖母山で採集された。

(写真・文：三宅 武)

県内分布 九重町、久住町、竹田市

分布域 本州、四国、九州（熊本？・大分・宮崎）

ヒメシロチョウ

Leptidea amurensis

チョウ目 シロチョウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 II



翅^{はね}の形が狭長の小型のシロチョウで、九州では阿蘇・くじゅうの火山性高原の草原に生息し、草原上を低く、弱々しく飛ぶ。ツルフジバカマが食草。5月、7月、9月の年3回発生し、蛹^{さなぎ}で越冬する。おもな生息地である久住高原・飯田高原では、観光開発や草地改良などによって、高原のススキ草原が改変されたため、1980年代以降、急激に減少し、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真・文：三宅 武)

県内分布 天瀬町、玖珠町、九重町、久住町、直入町、湯布院町、竹田市

分布域 北海道、本州、九州（熊本・大分）

アムール、朝鮮半島、中国

タイワンツバメシジミ 本土亜種

Everes lacturnus kawaii

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 I



ツバメシジミによく似た小さなシジミチョウ。里山の路傍や伐採地，耕作地などの，食草シバハギの群生地に生息する。年1回，8月下旬から9月に発生する。南方系の遺存種と考えられ，局地的に分布する。県内では，臼杵市と蒲江町を除いて近年の記録がない。生息地が草原や雑木林になって生息環境が悪化し，個体数が激減しており，絶滅の危機に瀕している。

(写真・文：三宅 武)

県内分布 (日田市)，(杵築市)，(佐賀関町)，臼杵市，(野津町)，蒲江町
分布域 本州(和歌山)，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，
 甕島，種子島，屋久島

クロシジミ

Niphanda fusca

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 I



草原疎林や荒地，堤防草地に生息する。県内では広く分布するが，その生息地は局地的である。成虫は6月下旬から発生する。雑木の小枝や葉に産卵し，幼虫はアブラムシやキジラミの分泌液を餌とする。2令以降はクロオオアリに運ばれてアリの巢中で成長する。おもな生息地である由布・鶴見火山やくじゅう山群では，観光開発や宅地開発などで草原が改変され，減少や消滅した生息地もみられ，絶滅の危険性が高い。

(写真・文：三宅 武)

県内分布 前津江村，日田市，天瀬町，本耶馬溪町，耶馬溪町，山香町，九重町，
 別府市，湯布院町，庄内町，大分市，久住町，竹田市，宇目町
分布域 本州，四国，九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)，対馬
 アムール，ウスリー，朝鮮半島，中国

クロツバメシジミ

Tongeia fischeri

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 準



小型のシジミチョウ。県内の生息地は、山間部の比較的明るい岩場や川原などの露岩がある所に限られる。ツメレンゲなどのベンケイソウ科植物を食草とし、4月から11月まで発生する。生息環境が限られるため、分布は点在し、局限される。道路工事や河川改修工事などによる生息環境の悪化や、人による食草の採取で、個体数が激減し、絶滅の危機に瀕している。

(写真・文：三宅 武)

県内分布 山国町, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 中津市, 院内町, 安心院町, 山香町, 玖珠町

分布域 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島), 奄岐, 対馬, シベリア, カラフト, 朝鮮半島, 中国

シルビアシジミ 本土亜種

Zizina otis emelina

チョウ目 シジミチョウ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 I



小型のシジミチョウで、生息地は火山性草原や河川堤防、河川敷の草地。背丈の低いシバ草原に生えるミヤコグサが、確認されている食草。成虫は4月下旬から11月までみられ、斑紋はヤマトシジミに非常によく似ている。全国各地で減少傾向が最も著しいチョウである。県内の生息地は草原開発や河川改修などの影響を強く受け、個体数は減少の一途をたどり、その生息が確認されるのは数か所に限られており、絶滅の危険性が極めて高い。

(写真・文：三宅 武)

県内分布 日田市, 天瀬町, 本耶馬溪町, 中津市, 宇佐市, 玖珠町, 九重町

分布域 本州, 四国, 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 五島, 奄岐, 対馬, 種子島

キマダラモドキ

Kirinia epaminondas

チョウ目 ジャノメチョウ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 準



夏，7月～8月に出現し，山地のカシワ疎林から丘陵地のクヌギ・コナラ二次林に生息する。食草はイネ科，カヤツリグサ科の植物。観光開発や里山環境の変化などで生息地が狭められ，都市近郊の里山では，近年ほとんど生息が確認できず，山地でも個体数が減少しており，種の存続が懸念される。

(写真・文：三宅 武)

県内分布 日田市，前津江村，中津江村，玖珠町，九重町，別府市，湯布院町，庄内町，大分市，久住町，竹田市，臼杵市

分布域 北海道，本州，四国，九州（福岡・熊本・大分・宮崎）
アムール，ウスリー，朝鮮半島，中国東北部

ヒメスズメ

Deilephila askoldensis

チョウ目 スズメガ科

カテゴリー

大分県 準

環境庁 掲載なし



全国的に分布するが，本州中部の高原地帯では局地的にみられる。九州では，くじゅう山や阿蘇のススキ草原を中心に分布し，県内でも生息地は局地的である。成虫は年2回，5～6月と7～8月に出現する。食草はキバナカワラマツバ。草原開発や植生遷移が進行しており，環境変化による生息地の減少が懸念される。

(写真・文：宮田 彬)

県内分布 久住町，庄内町，朝地町，宇目町，竹田市

分布域 北海道，本州，四国，九州（熊本・大分）
朝鮮半島，シベリア南部

ヒメシロシタバ

Catocala napioides

チョウ目 ヤガ科

カテゴリー

大分県 II

環境庁 掲載なし



北海道から本州に分布し、九州ではくじゅう山、鹿児島県粟野岳のカシワ林に少数の記録があるのみ。食草がカシワに限られるところから、分布は局地的。成虫は8～9月に出現する。草原開発によるカシワ林の減少で、生息地の消滅や生息環境の悪化が懸念される。

(写真・文：宮田 彬)

県内分布 久住町，九重町

分布域 北海道，本州，九州（熊本・大分・鹿児島）
朝鮮半島，沿海州

クモ類

ブンゴキムラグモ

Heptathela kikuyai

キムラグモ科

カテゴリー

大分県 地域個体群

環境庁 II



化石時代のクモで、腹部に体節が残っている所からハラフシグモの仲間とされる。丘陵などの斜面に親指の爪ほどの大きさの扉を作って、その中で生活している。夕方、扉を少し持ち上げて、その内側に潜み、餌になる昆虫が近付くのを待ち伏せて捕食する。家族集団を作る傾向があり、狭い場所に群れる。森林の林縁、耕作地の畦、路肩の法面などが、掘削され、埋土され、コンクリート被覆などされて、生息地ごと全滅する事例が多い。

(写真・文：菊屋奈良義)

県内分布 日田市、玖珠町、山国町（一部）、安心院町、山香町、日出町を結ぶ地帯より南側の大分県下

分布域 福岡県八女地方、熊本県北東部、大分県下南部、宮崎県北部

ク
モ
類

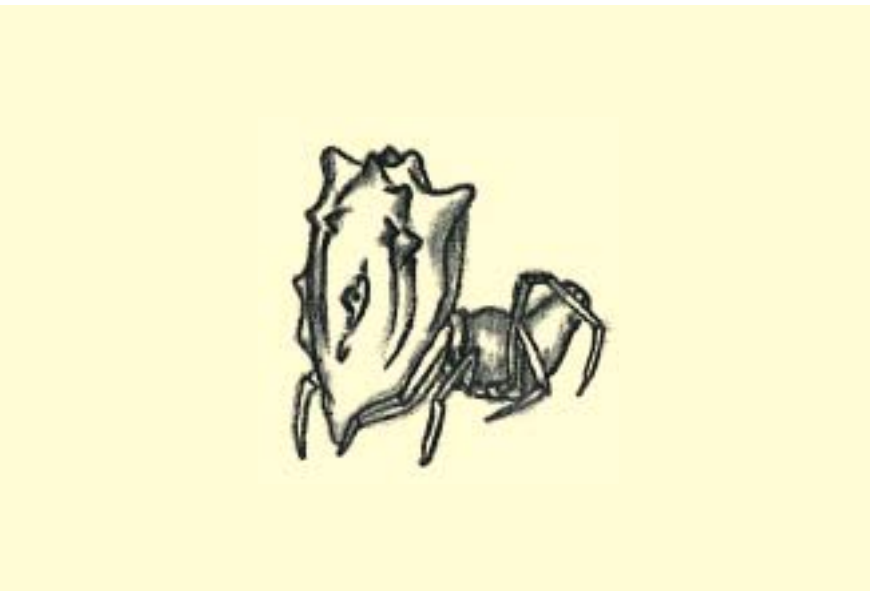
ツクネグモ

Phoroncidia pilula

ヒメグモ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



山地の自然林の林縁や林内の倒木で明るくなった場所などを好んで生息する習性がある。樹木の枝や草木の間に1本の粘り糸を張り、その片側に潜む。自然林の減少や林内の荒廃、林道工事や人工林の増加などで、安定した生息環境を失っており、県内では、1988年ごろから減少傾向が著しい。

(写真・文：菊屋奈良義)

県内分布 ほぼ県内全域
分布域 本州、四国、九州

ホラヒメグモ類

Nesticus spp.

ホラヒメグモ科

カテゴリー

大分県 地域個体群
環境庁 掲載なし



ホラヒメグモ類は名前のとおり、洞穴に生息していて、視力をほとんど失っている小型のクモ。暗い環境にだけ適応したホラヒメグモとなり、系統分類学上、進化と適応を学ぶことのできるクモ類である。県内では、風蓮洞、緒方九十九洞、竹田穴森の穴、佐伯狩生洞、津久見願寺の石灰岩の割れ目などに、それぞれ「独立種」が発見されている。近年、洞窟などが危険環境視されて埋められたり、掘削整地されたりして消滅するおそれの多い所が多く、洞窟類ごとの「群れ」を保全する必要性が強く望まれる。

(写真・文：菊屋奈良義)

県内分布 県下全域の洞窟・暗渠類・掘削壕跡・地下壕などの暗い環境
分布域 ほぼ全国的に分布するが特に九州（大分）

コガネグモ

Argiope amoena

コガネグモ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



甲 殻 類

ク
モ
類

トキワススキ、メダケなどの群生地や水田の周辺部、農家の庭先などに大きな円網を張って、飛来する昆虫類を捕捉する。県内では、ジョウラン、デエラン、デエラなどのほか、タイラグモ、ダイラ、ジョログモなどと呼ばれていた。以前は、子ども達のクモ合戦に利用されていたが、農薬の普及に伴い、都市部や耕作地付近では、ほとんど絶滅。現在ではわずかに山間部の棚田や無農薬栽培の耕作地で、きわめてまれにみられる。

(写真・文：菊屋奈良義)

県内分布 ほぼ県内全域

分 布 域 本州中部以南、四国、九州、南西諸島

ハクセンシオマネキ

Uca lactea

十脚目 スナガニ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 準



紀伊半島以西に生息する甲の幅1～2cmのカニ。雌のハサミは左右とも小さく相称であるのに対して、雄は片方のハサミが白く肥大しており、「白い扇」で潮を招くように見えるため、この名前がある。海岸の潮間帯上部から潮上帯の砂泥、または砂れき中に深さ15～30cmの巣穴^{すおう}をつくり、泥中の有機物や微生物を食べて生活する。県内では、周防灘海岸や国東海岸を中心に、その生息が確認されている。護岸工事や河川改修により生息場所が完全に消失した地域があり、生息環境の悪化が懸念される。

(写真・文：松尾敏生)

県内分布 周防灘海岸，国東海岸，別府湾沿岸，豊後水道域沿岸に注ぐ主要河川，及びその周辺の小河川の河口域

分布域 本州，四国，九州（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島），沖縄
朝鮮半島，台湾，中国

甲
殻
類

アリアケモドキ

Deiratonotus cristatus

十脚目 スナガニ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



雄



雌

国内では、青森県以南に生息する甲長1cm前後のカニ。干潟または河口の泥や石の下に生息している。甲背が横に長い六角形。アリアケモドキ属はこの1種だけ。雄の腹部は朱赤色、雌の腹部は抱卵時には、卵が透けてみえるため淡い柿色をしている。県内では周防灘海岸や別府湾の河口域に生息しているが、河口の水質汚濁や河川改修により生息環境が悪化し、個体数も減少している。

(写真：小野幸代 文：松尾敏生)

県内分布 伊呂波川、寄藻川、駅館川、原川、大野川の各河口及び感潮域。
分布域 本州、四国、九州
韓国、中国

カブトガニ

Tachypleus tridentatus

剣尾目 カブトガニ科

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 I



成体の雌の全長は約60cm、雄は約50cmで、伏せたお^{わん}碗に剣をつけたような形をしている。内湾や河口干潟の砂浜で産卵、幼生は干潟で成長し、成体は沿岸の海底で生活する。脱皮するごとに大きくなり、約10年で成体となる。砂浜や海底をはいながら移動し、砂中の有機物、ゴカイ類や貝類などを餌とする。2億年前から形を変えておらず、「生きた化石」といわれている。干潟や沿岸の埋立て工事で、生息域が狭められ、個体数が減少し、絶滅の危険性が高い。

(写真・文：川原 大)

県内分布 周防灘、別府湾（主に守江湾）
分布域 本州、四国、九州（福岡・佐賀・長崎・大分）
中国、インドシナ、フィリピン、東南アジア海域

アジアカブトエビ

Triops granarius

背甲目 カブトエビ科

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし



日本における分布域は、全国的に散在する。6月中旬に水田に現れる体長2～3cmのオタマジャクシのような姿をした生物。雑食で何でも食べ、成体の寿命は1～1.5月。県内に広く分布しているのは同属のアメリカカブトエビで、アジアカブトエビは県西部の一部で生息が確認されている。生息地が狭く、農薬などによる生息環境の悪化が懸念される。

(写真：松尾敏生 文：平松恒彦)

県内分布 中津市、耶馬溪町、天瀬町

分布域 本州、四国、九州（福岡・大分）

アフリカ、中近東～インド、中国

陸・淡水産貝類

オナガラムシオイガイ

Chamalycaeus takahashii

ムシオイガイ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 I



本県石灰岩地域の特産種で、本匠村^{おなから}小半鍾乳洞で発見された。石灰岩の狭いすき間や礫^{れき}の間、落ち葉の下などに生息する。殻は低い円すい形で、高さ2.5mm、径が4.5mmほどあり、淡い灰白色をしている。この貝の仲間は、殻の表面に虫のような細い管を付けているので、ムシオイガイ（虫負い貝）と呼ばれる。殻口付近のくびれや隆起が顕著なことで、他の種と区別される。人による採取や観光開発などで個体数が減少し、絶滅の危険性が高くなっている。

（写真：増田 修 文：神田正人）

県内分布 臼杵市，野津町，津久見市，本匠村，佐伯市

分布域 九州（大分）

オンセンミズゴマツボ

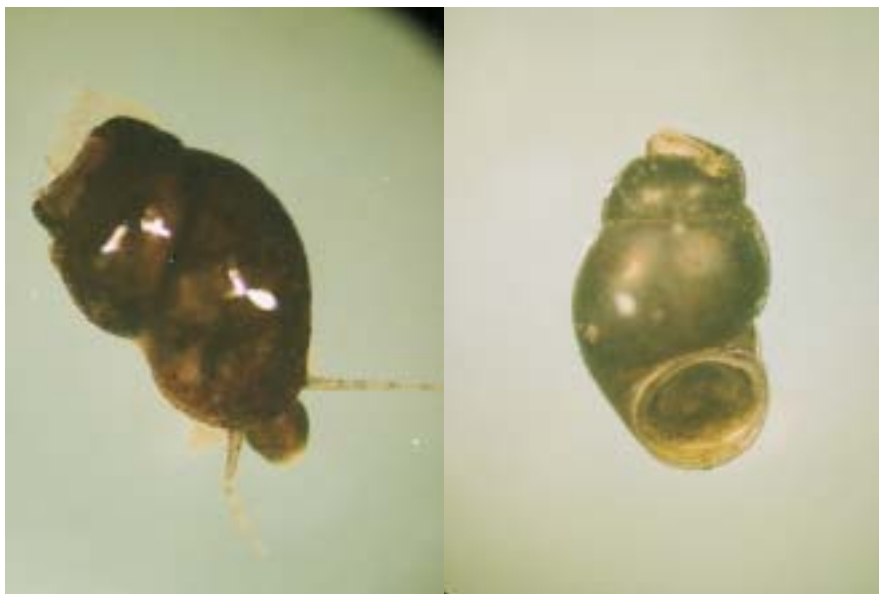
Stenothyra thermaecota

ミズゴマツボ科

カテゴリー

大分県 IA

環境庁 I



県内数か所の温泉地に分布していたが、それらの生息地では、既に絶滅した所が多く、現在、1か所だけが確認されている。殻は高さが4mm、径が2.3mmほどの微小種で、貝の多くは侵食を受けて殻頂部を失っている。湯口から流出する40℃前後の温泉水中に生息しており、この生態は他に例をみない。生息場所が観光地であるために、土地開発などによる生息環境の悪化で、絶滅の危機に瀕している。

(写真：濱田 保 文：神田正人)

県内分布 湯布院町、(九重町)、(別府市)

分布域 九州(大分)

ワカウラツボ

Iravadia (Fairbankia) sakaguchii

ワカウラツボ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 掲載なし



県内では周防灘に流入する河川の汽水域と、別府湾にそそぐ杵築市の河川の汽水域に生息する。近くにヨシ原がある泥地で、半ば埋もれた石の裏面やハサミシャコエビの巣穴などを生息場所とする。殻の大きさは、高さが5mm、径が2.5mmほどあり、赤褐色をしている。特殊な環境に生息しているので、干潟の埋立てや河川の改修などにより生息地が減少し、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：室原誠司 文：神田正人)

県内分布 中津市、宇佐市、豊後高田市、真王町、杵築市

分布域 本州(三河湾、紀伊西部)、瀬戸内海、九州(福岡・佐賀・熊本・大分)

オオイタシロギセルガイ

Neophaedusa masatokandai masatokandai

キセルガイ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 I



大分県南部と宮崎県北部の石灰岩地域だけに分布する特産種。三重町の白谷で発見された。石灰岩の礫の間や落葉の下などに生息する。殻の高さは13.5mm、径は3mmほどあり、乳白色をしている。この貝の仲間はキセルに似ていることからキセルガイと呼ばれる。殻の形や殻口近くの内面にあるひだの様子で、他の種類と区別される。林道の開設やスギ植林などにより生息環境が悪化し、絶滅の危険性が高くなっている。

(写真：増田 修 文：神田正人)

県内分布 三重町，宇目町

分布域 九州（大分・宮崎）

資料編

Red Data Book

大分県の絶滅のおそれのある選定種一覧

カテゴリー (略号) 分類群	野生絶滅 (野生絶滅)	絶滅危惧 Ⅰ A類 (Ⅰ A)	絶滅危惧 Ⅰ B類 (Ⅰ B)	絶滅危惧 Ⅱ類 (Ⅱ)	準絶滅危惧 (準)	情報不足 (情報不足)	絶滅のおそれ ある地域個体群 (地域個体群)	大分県版 R D B 選定種
植 物								
シ ダ 植 物	0	30	20	17	18	17	0	102
種 子 植 物	1	74	159	186	91	95	0	606
蘚 類	0	7	4	4	12	4	0	31
小 計	1	111	183	207	121	116	0	739
動 物								
哺 乳 類	1	1	2	6	8	1	2	21
鳥 類	0	5	12	22	22	15	1	77
爬 虫 類	0	2	2	1	0	1	1	7
両 生 類	0	1	0	2	2	0	1	6
魚 類	0	0	4	4	7	7	1	23
頭 索 類	0	1	0	0	0	0	0	1
昆 虫 類	0	9	21	29	70	36	0	165
ク モ 類	0	1	0	0	12	20	8	41
甲 殻 類	0	1	1	2	3	0	0	7
陸・淡水産貝類	0	10	16	8	12	2	0	48
小 計	1	31	58	74	136	82	14	396
合 計	2	142	241	281	257	198	14	1,135

生物分類群・カテゴリー別 選定種（植 物）

※ 種名の後の（ ）書きは環境庁のカテゴリー（略号）
ブルーの太活字は普及版掲載種

シ ダ 植 物			
絶滅危惧 IA類（30種）		オシダ科	キヨズミオオクジャク ヌカイタチシダ ヌカイタチシダマガイ シイバサトメシダ(II) ハコネシケチシダ コクモウクジャク イワヤシダ
ヒカゲノカズラ科	ヒモラン (IA)	イワデンダ科	ウラボシ科 ホテイシダ ヒメサザラン オシヤグジデンダ
ミズニラ科	シナミズニラ (IB)	アカウキクサ科	アカウキクサ (II)
ハナヤスリ科	ナガホノナツノハナワラビ		
リュウビンタイ科	リュウビンタイ		
ゼンマイ科	シロヤマゼンマイ		
ウラジロ科	カネコシダ (IB)		
コケシノブ科	ツルホラゴケ		
コバノイシカグマ科	オオレンシダ オオフジシダ		
ホングウシダ科	ハマホラシノブ サイゴクホングウシダ		
ホウライシダ科	ホウライクジャク (IB)		
シシラン科	ナカミシシラン		
イノモトソウ科	ヤワラハチジョウシダ		
チャセンシダ科	コタニワタリ ヒノキシダ シモツケヌリトラノオ タチデンダ オトコシダ ツクシオオクジャク ワカナシダ		
オシダ科	テツホシダ ホソバショリマ		
ヒメシダ科	コモチイヌワラビ (IA)		
イワデンダ科	ミドリワラビ ヒトツバシケシダ アソシケシダ (IB) イヨクジャク		
デンジソウ科	デンジソウ (II) サンショウモ (II)		
絶滅危惧 IB類（20種）			
ヒカゲノカズラ科	スギラン (IB)		
ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ		
ホングウシダ科	エダウチホングウシダ		
ホウライシダ科	エビガラシダ オトメクジャク (II)		
イノモトソウ科	ハチジョウシダモドキ アイコハチジョウシダ		
チャセンシダ科	カミガモシダ		
オシダ科	サカゲイノデ		
		オシダ科	キヨズミオオクジャク ヌカイタチシダ ヌカイタチシダマガイ シイバサトメシダ(II) ハコネシケチシダ コクモウクジャク イワヤシダ ホテイシダ ヒメサザラン オシヤグジデンダ アカウキクサ (II)
		絶滅危惧 II類（17種）	
		ヒカゲノカズラ科	ヒメスギラン ミズスギ オオコケシノブ ミズワラビ キドイノモトソウ (II) クモノスシダ トキワシダ
		コケシノブ科	オオコケシノブ ミズワラビ キドイノモトソウ (II) クモノスシダ トキワシダ
		ホウライシダ科	ヌカイタチシダモドキ イワイタチシダ
		イノモトソウ科	ヨコグラヒメワラビ コガネシダ ミヤコイヌワラビ ツクシイヌワラビ フモトシケシダ オニヒカゲワラビ コウラボシ ツクシノキシノブ
		チャセンシダ科	オシダ科 ヒメシダ科 イワデンダ科
		ウラボシ科	ウラボシ科 ツクシノキシノブ
		準絶滅危惧（18種）	
		マツバラン科	マツバラン (II) ヒロハハナヤスリ コケシノブ フジシダ ヒメウラジロ (II) ハコネシダ カラクサシダ オサシダ メヤブソテツ ツルデンダ アイアスカイノデ タニヘゴ ニセヨレイタチシダ (II)
		ハナヤスリ科	マツバラン科 ハナヤスリ科 コケシノブ科 コバノイシカグマ科 ホウライシダ科
		コケシノブ科	マツバラン科 ハナヤスリ科 コケシノブ科 コバノイシカグマ科 ホウライシダ科
		コバノイシカグマ科	マツバラン科 ハナヤスリ科 コケシノブ科 コバノイシカグマ科 ホウライシダ科
		ホウライシダ科	マツバラン科 ハナヤスリ科 コケシノブ科 コバノイシカグマ科 ホウライシダ科
		シシガシラ科	マツバラン科 ハナヤスリ科 コケシノブ科 コバノイシカグマ科 ホウライシダ科
		オシダ科	マツバラン科 ハナヤスリ科 コケシノブ科 コバノイシカグマ科 ホウライシダ科

(準絶滅危惧)	
オンダ科	ナチクジャク
イワデンダ科	イワデンダ
	サトメシダ
	オオヒメワラビモドキ
ウラボシ科	イワヤナギシダ
情報不足 (17種)	
ミズニラ科	オオバシナミズニラ (IB)
ゼンマイ科	ヤシャゼンマイ
イノモトソウ科	ハチジョウシダ
オンダ科	アスカイノデ
	シビカナワラビ (IA)
	ハガクレカナワラビ
	サクライカグマ
	ギフベニシダ
ヒメシダ科	ミヤマワラビ
	ミドリヒメワラビ
イワデンダ科	イヌイワデンダ
	サカバサトメシダ (IB)
	コウライイヌワラビ (IB)
ウラボシ科	クラガリシダ (IB)
	ヌカボシクリハラン
	ヒトツバイワヒトデ
ヒメウラボシ科	オオクボシダ
種子植物	
野生絶滅 (1種)	
バラ科	ツクシカイドウ
絶滅危惧 1A類 (74種)	
オモダカ科	マルバオモダカ (II)
イネ科	ハネガヤ
	コメガヤ
	ミチシバ
カヤツリグサ科	フサスゲ
	オオアゼスゲ
	オニナルコスゲ
	ツクシオオガヤツリ (IB)
	オオイヌノハナヒゲ
	トラノハナヒゲ
ホシクサ科	ゴマシオホシクサ (IB)
ユリ科	タマボウキ (IA)
	キバナノアマナ
	カンザシギボウシ
	ノヒメユリ

種子植物

野生絶滅（1種）

バラ科	ツクシカイドウ
-----	---------

絶滅危惧 IA類（74種）

オモダカ科	マルバオモダカ (II)
イネ科	ハネガヤ コメガヤ ミチシバ フサスゲ オオアゼスゲ オニナルコスゲ ツクシオオガヤツリ (IB) オオイヌノハナヒゲ トラノハナヒゲ ゴマシオホシクサ (IB)
ホシクサ科	タマボウキ (IA)
ユリ科	キバナノアマナ カンザシギボウシ ノヒメユリ

ユリ科	ヒメユリ (IB)
ヒナノシャクジョウ科	キバナノコオニユリ ヒナノシャクジョウ シロシャクジョウ タリシマシャクジョウ (IA)
ラン科	カガネラン (IA) キエビネ (IB) クマガイソウ (II) ツリシュスラン サギソウ (II) ニラバラン ガンゼキラン (IA) ツクシチドリ (IB) ウチョウラン (II) ナゴラン (IA)
イラクサ科	チョクザキミズ (IA)
アカザ科	ヒロハマツツ (II)
ナデシコ科	オガラセンノウ (IB)
キンポウゲ科	ハナカズラ (IB) フクジュソウ (II) アズマイチゲ ミスミソウ (準) トウゴクサバノオ ヒメバйкаモ (IA) コウモリカズラ イワレンゲ (IB) ズミ ゴショイチゴ (IB) チョウセンニワフジ (IA)
ツツラフジ科	レンリソウ
ベンケイソウ科	アカササゲ (IA)
バラ科	ツクシフウロ (IB) オオヤマカタバミ (II) ナガバヒゼンマユミ (IA) ハナマツメ (IB) ブンゴボダイジュ ツクシボダイジュ (IA) タチスミレ (IB) ウバタケニンジン (IB) シラカワボウフウ ツクシボウフウ (IB)
マメ科	オオツルクウジ (IB) ナタオレノキ ミツガシワ チョウジソウ (II) ロクオンソウ (IB) グンバイヒルガオ マルバチシャノキ
フウロソウ科	
カタバミ科	
ニシキギ科	
クロウメモドキ科	
シナノキ科	
スミレ科	
セリ科	
ヤブコウジ科	
モクセイ科	
リンドウ科	
キョウチクトウ科	
ガガイモ科	
ヒルガオ科	
ムラサキ科	

シソ科	ツクバキンモウソウ ケミヤマナミキ (IB) ツクシクガイソウ (IB) シンシラン (IB) イワギリソウ (IB) コタヌキモ ハクサンボク マンセンレンブクソウ ヤツシロソウ (IB) イワギク (II) コウリンギク (IA)
ゴマノハグサ科	
イワタバコ科	
タヌキモ科	
スイカズラ科	
レンブクソウ科	
キキョウ科	
キク科	
絶滅危惧 IB類 (159種)	
ヒルムシロ科	ササバモ オヒルムシロ イトクズモ (II) イトトリゲモ (IB) トリゲモ (IB) シバナ (II) スプタ (II) ウミヒルモ (準) ミズオオバコ クジュウガリヤス タシロノガリヤス (IB) ウンヌケモドキ (II) ヤマトボシガラ ハイキビ オニスゲ ピロウドスゲ クジュウツリスゲ (II) ヌマクロボスゲ ミタケスゲ キシウナキリスゲ (IB) タカネマスクサ ジングウスゲ (II) タシロスゲ ミスミイ (IB) ノグサ シズイ オキノシマテンナンショウ ツクシヒツバテンナンショウ クロホシクサ (IB) ツクシイヌイ ホソバナコバイモ (II) ベニカンゾウ ウバタケギボウシ (IB) ホソバナアマナ ホトトギス
イバラモ科	
ホロムイソウ科	
トチカガミ科	
イネ科	
カヤツリグサ科	
サトイモ科	
ホシクサ科	
イグサ科	
ユリ科	
ユリ科	

アヤメ科
ショウガ科
ラン科
カキツバタ (II)
エヒメアヤメ (IB)
アオノクマタケラン
ヒナラン (IB)
エビネ (II)
ナツエビネ (II)
サルメンエビネ (IB)
ユウシュンラン (II)
ムカデラン (II)
ナギラン (II)
タシロラン (準)
アキザキヤツシロラン
ベニシュスラン
アケボノシュスラン
ムカゴソウ
ムヨウラン
セイタカスズムシソウ
ポウラン (準)
フウラン (II)
ヨウラクラン
ソハヤキトンボソウ (IA)
コバノトンボソウ
トキシソウ (II)
ヤマトキシソウ
オオハクウンラン (IB)
キバナノショウキラン (IB)
ハナガガシ (IB)
アカソ
コケミズ
ツチトリモチ
ツチトリモチ
アオハコベ
オニバス (II)
ヒメコウホネ (II)
ヤマオダマキ
リュウキンカ
カザグルマ (II)
シロバナハンショウヅル
ハイサバノオ
ヤマシャクヤク (II)
ケナンベニバナヤマシャクヤク (IB)
ミヤマカラマツ
ノカラマツ (II)
モミジカラマツ
イカリソウ
コウシュウウヤク
ミヤコジマツツランフジ
ヤマブキソウ
シコクハタザオ

(絶滅危惧 IB類)		シソ科	ナミキソウ	イネ科	ヒロハノドジョウツナギ	ラン科	シュスラン
ベンケイソウ科	チャボツメレンゲ(II)	ナス科	ケナシイヌゴマ		ハイチゴザサ		ミズトンボ (II)
ユキノシタ科	タコノアシ (II)	ゴマノハグサ科	ヤマホオズキ (IB)		ケカモノハシ		ヒメノヤガラ
	ネコノメソウ		ゴマクサ (IB)		カモノハシ		ジガバチソウ
	コミノヒメウツギ		キュウシュウコゴメグサ		ムカゴツツリ		アオフタバラン
	キレンゲショウマ(II)		ホソバママコナ (IB)		チシマカニツリ		ミズチドリ
	ヤブサンザシ		スズメノハコベ (IB)		コオニシバ		ツレサギソウ
	ダイモンジソウ	タヌキモ科	イヌノフグリ (II)	カヤツリグサ科	イトテンツキ (II)		ハシナガヤマサギソウ
	ナメラダイヤモンド		ムラサキミカキグサ (II)		ケタガネソウ		ヤマサギソウ
	センダイソウ (II)		ノタヌキモ		ウマスゲ		クモラン
マンサク科	コウヤミズキ	アカネ科	ナガバジュズネノキ		センダイスゲ		トンボソウ
バラ科	カワラサイコ		ニセナガバジュズネノキ		タイワンスゲ (IB)	ドクダミ科	ショウキラン
	ツチグリ (II)	スイカズラ科	ウスバヒョウタンボク (II)		チュウゼンジスゲ	コショウ科	ハンゲショウ
	ナガホノシロワレモコウ		ヤマヒョウタンボク		キノクニスゲ (II)	ヤナギ科	サダソウ
マメ科	ハカマカズラ	キキョウ科	キキョウ (II)		ヤチカワズスゲ	カバノキ科	イヌコリヤナギ
	クズモダマ	キク科	ヒゴシオン (II)		エゾツリスゲ		ハンノキ
	オオバクサフジ		シオン (II)		アブラシバ		ケハンノキ
フウロソウ科	タチフウロ		イヨアブラギク		ツクシナルコ (II)		イワシデ
ミカン科	タチバナ (II)		ヒゴタイ (IB)		オオヌマハリイ	ブナ科	アベマキ (自生種)
ニシキギ科	ヒゼンマユミ (IB)		アキノハハコグサ (IB)		シオカゼテンツキ	イラクサ科	イヌヤブマオ
ミツバウツギ科	ショウベンノキ		チョウセンスイラン (IB)		ツクシテンツキ (II)		ミヤコミズ (II)
クロウメモドキ科	イソノキ		タカサゴソウ (II)		ミカヅキグサ	ウマノスズクサ科	クロフネサイシン (II)
オトギリソウ科	コウライトモエソウ (IB)		ホソバニガナ (IB)		ミクリガヤ (IB)	ツチトリモチ科	ミヤマツチトリモチ (II)
	トモエソウ		ミヤマアキノノゲシ		コマツカサススキ	タデ科	ヤナギヌカボ (II)
	タカネオトギリ		ヒナヒゴタイ (IA)		ウキヤガラ		スカボタデ (II)
ジンチョウゲ科	キガンピ		タカネコウリンギク (IB)		サンカクイ		フトボノヌカボタデ
アカバナ科	イワアカバナ		カンサイタンポポ	ヤシ科	ビロウ		コギシギシ (II)
	ケナシイワアカバナ		ツクシタンポポ (IB)	サトイモ科	マイヅルテンナンショウ (II)	ヒユ科	ヤナギイノコズチ
	ヒメビシ (II)		ハマグルマ		ヒロハテンナンショウ	ナデシコ科	ワダソウ
ウコギ科	ウラジロウコギ				ツクシクロイヌノヒゲ (II)		ハマツメクサ
セリ科	シラハノダケ	絶滅危惧 II類 (186種)			クジュウイヌノヒゲ	スイレン科	ジュンサイ
	シムラニンジン (IB)	イチイ科	イチイ	イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ		ヒツジグサ
	カノツメソウ	マツ科	ハリモミ	ユリ科	ニッコウコウガイゼキショウ	キンボウゲ科	タンナトリカブト
ツツジ科	レンゲツツジ	ヒノキ科	ヒノキ (自生種)		キキョウラン		ルイヨウショウマ
	ナンゴクミツバツツジ (II)		ビャクシン		キバナチゴユリ		ユキワリイチゲ
	キシツツジ		ツクシビャクシン		ヒメヤブラン		オオクサボタン
	コメツツジ	ミクリ科	ミクリ (準)		ミドリヨウラク		トリガタハンショウヅル
	クサレダマ		ヤマトミクリ (II)		ワニグチソウ		オキナグサ (II)
サクラソウ科	サクラソウ (II)		ナガエミクリ (準)		マルバサンキライ	メギ科	ルイヨウボタン
	アサザ (II)		ヒメミクリ (II)		シロバナエンレイソウ	アブラナ科	ユリワサビ
リンドウ科	アオカモメヅル	ヒルムシロ科	イトモ (II)		キンバイザサ		コイヌガラシ (準)
ガガイモ科	クロバナイヨカズラ	イバラモ科	ホッソモ	ヒガンバナ科	マメヅタラン (II)	ベンケイソウ科	ツシマンネングサ
	ノアサガオ		イバラモ	ラン科	ムギラン (II)	ユキノシタ科	ギンバイソウ
ヒルガオ科	ホタルカズラ	アマモ科	コアマモ (情報不足)		キンラン (II)		ツクシチャルメルソウ (II)
ムラサキ科	カイジンドウ (IB)	オモダカ科	アギナシ (準)		ササバギンラン		コチャルメルソウ
シソ科	ミズネコノオ (II)	トチカガミ科	セキショウモ		セッコク		シラヒゲソウ
	キセワタ (II)	イネ科	ホッスガヤ		ベニカヤラン		ワタナベソウ (II)
	ミヤマナミキ		ヒナザサ		オニノヤガラ		ヤシャビシャク (II)

(絶滅危惧 II類)
ユキノシタ科

バラ科

マメ科

カタバミ科
カエデ科
アワブキ科

ツリフネソウ科
ブドウ科

アオイ科
オトギリソウ科
スミレ科

ミソハギ科

アリノトウグサ科
ウコギ科
セリ科

イチヤクソウ科
ツツジ科

イソマツ科
リンドウ科

ガガイモ科
クマツヅラ科

シソ科

ケナシヤシャビシャク

ウチワダイモンジソウ
クロクモソウ
ツルキジムシロ
クロイチゴ
ミヤマトベラ
サイカチ
イヌハギ (II)
ヒメヨツバハギ
コミヤマカタバミ
ナンゴクミネカエデ
フシノハアワブキ
アオカズラ
エンシュウツリフネ
ウドカズラ
ケサンカクヅル
ハマボウ
ミズオトギリ
サクラスミレ
キスミレ (II)
ホソバシロスマレ
ヒメアギスマレ
ヒカゲスマレ
ミズキカシグサ (IB)
ミズマツバ (II)
フサモ
ミヤマウコギ
ヒュウガトウキ (II)
ハナビゼリ
ミシマサイコ (II)
ミツバグサ
ウメガサソウ
ツクシドウダン
ヨウラクツツジ (IB)
ヒュウガミツバツジ
ハマサジ (II)
ガガブタ (II)
イヌセンブリ (II)
ムラサキセンブリ (II)
シノノメソウ (IB)
タチカモメヅル
トサムラサキ (II)
ショウロウクサギ
タニジャコウソウ
エゾシロネ
ホソバヤマジソ (IB)
ヤマジソ (II)

シソ科
ゴマノハグサ科

ハマウツボ科
タヌキモ科

アカネ科
スイカズラ科
キキョウ科

キク科

準絶滅危惧 (91種)

ヒノキ科
ヒルムシロ科
トチカガミ科
イネ科

カヤツリグサ科

サトイモ科
ユリ科

コナミキ (IB)
キクモ
ツクシシオガマ
ヤマトラノオ
キヨスミウツボ
ホザキノミカキグサ
タヌキモ (II)
キヌタソウ
ツクバネウツギ
ツルギキョウ (II)
サワギキョウ
ヤブヨモギ (II)
ウラギク (II)
ビッチュウアザミ
モリアザミ
ウラジロヤナギアザミ
サツマアザミ (II)
ソナレノギク
ホソバオグルマ (II)
カセンソウ
チョウセンヤマニガナ
ツクシカシワバハグマ
ミヤコアザミ
ヒメヒゴタイ (II)
キクアザミ
キクバヤマボクチ

ネズ
フトヒルムシロ
ヤナギスブタ
ホガエリガヤ
コメススキ
ヌマガヤ
ヒロバスケ
アオバスケ
コウボウムギ
コハリスゲ
クジュウスゲ
アゼスゲ
ヒロウドテンツキ
ナンゴクウラシマソウ
ケイビラン
キスゲ
ハマカンゾウ
ヒュウガギボウシ
オニツルボ
タマガワホトトギス

アヤメ科
ラン科

ヤナギ科
カバノキ科
イラクサ科
ボロボロノキ科
ヤドリギ科
ウマノスズクサ科

アカザ科

ヒユ科
ナデシコ科
スイレン科
メギ科
ケシ科
モウセンゴケ科
ベンケイソウ科

ユキノシタ科

バラ科

フウロソウ科
トウダイグサ科
ニシキギ科
ツリフネソウ科
ジンチョウゲ科

セリ科
イワウメ科
イチヤクソウ科
ツツジ科

ノハナショウブ
シラン (準)
ギンラン
コケイラン
カヤラン
ノヤナギ
ハシバミ
ヤナギイチゴ
ボロボロノキ
オオバヤドリギ
タイリンアオイ
ミヤコアオイ
フタバアオイ
サンヨウアオイ
イソホウキギ
ハママツナ
ハチジョウイノコズチ
フシグロセンノウ
コウホネ
オオバメギ
ナガミノツルキケマン (準)
モウセンゴケ
ツメレンゲ (準)
メノマンネングサ
ウンゼンマンネングサ (II)
アオベンケイ
アワモリショウマ
ツクシネコノメソウ
ウメバチソウ
クサボケ
シモツケソウ
イワキンバイ
コジキイチゴ
イヨフウロ
イワタイゲキ
サワダツ
ハガタツツリフネ
オニシバリ
ミヤマガンビ
シマサクラガンビ
ツクシゼリ
イワカガミ
マルバノイチヤクソウ
ツクシシャクナゲ
ヒカゲツツジ
ミヤマキリシマ
カラムラサキツツジ (II)
ツクシアケボノツツジ (II)

ツツジ科
サクラソウ科
エゴノキ科
リンドウ科
ガガイモ科
シソ科

ゴマノハグサ科
アカネ科

マツムシソウ科
キキョウ科
キク科

情報不足 (95種)

コウヤマキ科
ヒルムシロ科

イバラモ科
トチカガミ科

イネ科

カヤツリグサ科

コケモモ
ミヤマコナスビ
ハクウンボク
センブリ
スズサイコ (II)
スズコウジュ
ミゾコウジュ (準)
カワジサ (準)
ルリミノキ
サツマルリミノキ
ミサオノキ
ヘツカニガキ
マツムシソウ
シデシャジン
アソノコギリソウ (II)
ケショウヨモギ
フクド
ヒロハヤマヨモギ (準)
テバコモミジガサ
イズハハコ (II)
アズリノジギク
ブゼンノギク (II)
オオモミジガサ

コウヤマキ
センニンモ
ミズヒキモ
リュウノヒゲモ (II)
カワツルモ (IB)
サガミトリゲモ (IB)
マルミスブタ (II)
トチカガミ
イシツチコウボウ
イワタケソウ
ヒロウドキビ
タカネノガリヤス
ヒロハノサヤヌカグサ
コササキビ
コジュズスゲ
アズマスゲ
ハタバスゲ
ノゲヌカスゲ
サドスゲ
ムギガラガヤツリ
ノハラテンツキ (II)
ツクシアブラガヤ (IB)
カガシラ (IB)

(情報不足)

カヤツリグサ科
サトイモ科
ホシクサ科
ミズアオイ科
ジャクブ科
ユリ科
アヤメ科
ラン科

ヤナギ科
イラクサ科

ジャクダン科
タデ科
アカザ科
ナデシコ科

キンポウゲ科

バラ科

アマ科
ヒメハギ科
ブドウ科
シナノキ科
オトギリソウ科

ノボタン科
アリノトウグサ科
セリ科

ミカワシシユガヤ (IB)
シコヒロハデンソウ (IB)
イヌノヒゲ
ミズアオイ (II)
ナベワリ
チャボゼキシウ
ヒメジャガ (準)
クリシマエビネ (IA)
トケンラン (IB)
カシノキラン (II)
ハルザキツシロラン (II)
ギボウシラン
フガクズムシソウ (IB)
ミヤマフタバラン
ムカゴサイシン (IA)
マイサギソウ
キノチドリ
オオヤマサギソウ
ヒトツボクロ
イイヌマムカゴ (IB)
コウライヤナギ
タイワントリアシ (II)
タチゲヒカゲミズ (IB)
ツクバネ
サイコクヌカボ (IB)
シチメンソウ (II)
ヒメハマナデシコ
タチハコベ (II)
コウライブシ (IA)
キクザキイチリンソウ
タマカラマツ (IB)
オオウラジロノキ
ミヤマウラジロイチゴ
イワガサ
マツバニンジン
ヒナノカンザシ
シラガブドウ (II)
ケナシシナノキ
アゼオトギリ (IB)
クモイオトギリ
ヒメノボタン (IB)
タチモ (準)
オニノダケ
ツクシトウキ (IB)
イヌトウキ
ドクゼリ
フキヤミツバ

セリ科
サクラソウ科
リンドウ科
ガガイモ科
ハナシノブ科
ムラサキ科

シソ科

ゴマノハグサ科

ハマウツボ科
タヌキモ科
アカネ科
キク科

サワゼリ (ヌマゼリ) (IB)
オニコンスビ (IB)
ヒメシロアサザ (II)
マルバカモメヅル
ハナシノブ (IA)
ムラサキ (IB)
ジャコウソウ
ミズトラノオ (II)
マネキグサ (II)
ヒメキセウタ (IB)
シロネ
マルバノサワトウガラシ (IB)
シソバウリクサ
ヒロバトラノオ
ホソバヒメトラノオ
オオホソバヒメトラノオ
ナンゴククガイソウ
ハマウツボ
ミカワタヌキモ (IB)
ハナムグラ (IB)
カワラハハコ
アソヨモギ
モミジタマブキ
ミヤマヤブタバコ
オオバヨメナ

蘇 類

絶滅危惧 IA類 (7種)

ミズゴケ科
オオツボゴケ科
ハイヒモゴケ科
トラノオゴケ科
シノブゴケ科
ヤナギゴケ科
ハイゴケ科
コアナミズゴケ
フガゴケ (I)
ヒロハシノブイトゴケ (I)
ケサガリゴケ (I)
ヌマシノブゴケ
アオモリカギハイゴケ (I)
マキハキヌゴケ

絶滅危惧 IB類 (4種)

ハイヒモゴケ科
ミズスギモドキ
イトゴケ
トサヒラゴケ
コキジノオゴケ (I)

絶滅危惧 II類 (4種)

ホゴケ科
イトヒバゴケ科
ホゴケ
ツルゴケ

イタチゴケ科
ハイヒモゴケ科

準絶滅危惧 (12種)

ミズゴケ科
キセルゴケ科
ギボウシゴケ科
タチヒダゴケ科
ムジナゴケ科

ヒラゴケ科

リスゴケ
ハイヒモゴケ

オオミズゴケ (I)
クマノゴケ (準)
ヤマトハクチョウゴケ (準)
イブキキンモウゴケ (II)
マツムラゴケ (準)
オオノコギリゴケ
ヒメタチヒラゴケ (I)

ヒラゴケ科

ヤナギゴケ科
ツヤゴケ科
ハイゴケ科

情報不足 (4種)

コシッポゴケ科
チョウチンゴケ科
ハイヒモゴケ科
クジャクゴケ科
セイナンヒラゴケ (準)
キブリハネゴケ (I)
ヤリノホゴケ
コゴメツヤゴケ
トガリイチイゴケ
コキヌシッポゴケ (I)
タチチョウチンゴケ (I)
ツクシタスキゴケ
フチナシクジャクゴケ (I)

生物分類群・カテゴリー別 選定種（動 物）

※ 種名の後の（ ）書きは環境庁のカテゴリー（略号）
ブルーの太活字は普及版掲載種

哺乳類

野生絶滅（1種）
クマ科 ツキノワグマ（地域個体群）

絶滅危惧 IA類（1種）
ヤマネ科 ヤマネ（準）

絶滅危惧 IB類（2種）
モグラ科 ヒメヒミズ
ヒナコウモリ科 ノレンコウモリ（IB）

絶滅危惧 II類（6種）
トガリネズミ科 カワネズミ
ヒナコウモリ科 モモジロコウモリ
ヤマコウモリ（II）
ユビナガコウモリ
ネズミ科 スミスネズミ
ウシ科 ニホンカモシカ

準絶滅危惧（8種）
トガリネズミ科 ジネズミ（サイゴクジネズミ）
キクガシラコウモリ科 **キクガシラコウモリ**
コキクガシラコウモリ
オナガザル科 ニホンザル（ホンダザル）
ネズミ科 ハタネズミ
カヤネズミ
イタチ科 ニホンアナグマ
ニホンイタチ

情報不足（1種）
リス科 ニホンモモンガ

地域個体群（2種）
リス科 **ムササビ**
シカ科 ニホンジカ（キュウシュウジカ）

鳥類

絶滅危惧 IA類（5種）
サギ科 カラシラサギ（情報不足）
アカツクシガモ（情報不足）

カモ科 アカハジロ（情報不足）
コウライアイサ（情報不足）
タカ科 **イヌワシ**（IB）

絶滅危惧 IB類（12種）
サギ科 ヨシゴイ
トキ科 ヘラサギ（情報不足）
タカ科 ツクシガモ（IB）
クマタカ（IB）
チュウヒ（II）
ウズラ（情報不足）
シギ科 シバリアオオハシギ（情報不足）
セイタカシギ科 セイタカシギ（IB）
カモメ科 **ズグロカモメ**（II）
コアシサシ（II）
ヨタカ
ヨタカ科 ヤイロチョウ（IB）

絶滅危惧 II類（22種）
カモ科 コクガン（II）
オシドリ
トモエガモ（II）
タカ科 オオタカ（II）
ツミ
ハヤブサ科 ハヤブサ（II）
クイナ科 オオバン
シギ科 アカアシシギ（II）
ホウロクシギ（II）
ツバメチドリ科 ツバメチドリ（II）
カッコウ科 ジュウイチ
フクロウ科 コミミズク
コノハズク
フクロウ **アカショウビン**
ブッポウソウ科 ブッポウソウ（II）
サンショウクイ科 **サンショウクイ**（II）
ツグミ科 コマドリ
コルリ
ウグイス科 コヨシキリ
メボソムシクイ
カラス科 **ホシガラス**

カワセミ科
ツバメチドリ科
カッコウ科
フクロウ科
カワセミ科
ブッポウソウ科
サンショウクイ科
ツグミ科
ウグイス科
カラス科

準絶滅危惧（22種）
サギ科 ミゾゴイ（準）

サギ科
タカ科
キジ科
クイナ科
タマシギ科
チドリ科
シギ科
ハト科
フクロウ科
アマツバメ科
モズ科
イワヒバリ科
ツグミ科
ヒタキ科
カササギビタキ科
ホオジロ科
チュウサギ（準）
クロサギ
ミサゴ（準）
ハチクマ（準）
ハイタカ（準）
サシバ
ヤマドリ
ヒクイナ
タマシギ
コチドリ
シロチドリ
オオジシギ（準）
カラスバト（準）
アオバズク
アマツバメ
アカモズ（準）
カヤクグリ
クロツグミ
キビタキ
サンコウチョウ
ホオアカ

情報不足（15種）
サギ科
トキ科
カモ科
ツル科
シギ科
ウミスズメ科
フクロウ科
モズ科
キバシリ科
ホオジロ科
サンカノゴイ（IB）
クロツラヘラサギ（IA）
マガン（準）
ヒシクイ（II）
ナベヅル（II）
マナヅル（II）
ヘラシギ（IB）
カラフトアオアシギ（IA）
コシヤクシギ（IA）
ウミスズメ（IA）
カンムリウミスズメ（II）
オオコノハズク
チゴモズ（II）
キバシリ
コジュリン（II）

地域個体群（1種）
ウ科 カワウ

爬虫類

絶滅危惧 IA類（2種）
ヘビ科 **シロマダラ**
ウミガメ科 タイマイ（I）

絶滅危惧 IB類（2種）
ウミガメ科 アカウミガメ（II）
アオウミガメ（II）

絶滅危惧 II類（1種）
ヘビ科 タカチホヘビ

情報不足（1種）
スッポン科 スッポン（情報不足）

地域個体群（1種）
イシガメ科 **クサガメ**

両生類

絶滅危惧 IA類（1種）
オオサンショウウオ科 **オオサンショウウオ**（準）

絶滅危惧 II類（2種）
サンショウウオ科 **オオイトサンショウウオ**（II）
アカガエル科 **トノサマガエル**

準絶滅危惧（2種）
サンショウウオ科 カスミサンショウウオ
ヒキガエル科 ニホンヒキガエル

地域個体群（1種）
サンショウウオ科 **オオダイガラサンショウウオ**
（地域個体群）

魚類

絶滅危惧 IB類（4種）
ヤツメウナギ科 スナヤツメ（II）
カジカ科 カジカ
ハゼ科 クボハゼ（IB）
チクゼンハゼ（IB）

絶滅危惧 II類（4種）
コイ科 カゼトゲタナゴ（II）
ギギ科 **アリアケギバチ**（準）
アカザ科 **アカザ**（II）
キス科 アオギス

準絶滅危惧（7種）
コイ科 ヤリタナゴ

(準絶滅危惧)

コイ科
ドジョウ科
ケツギョ科
カワアナゴ科
ハゼ科

カワムツA型
ヤマトシマドジョウ
オヤニラミ (準)
カワアナゴ
トビハゼ (地域個体群)
シロウオ (準)

情報不足 (7種)

コイ科

セボシタピラ (II)
ニッポンバラタナゴ (IA)
降海型イトヨ
ウツセミカジカ (II)
アカメ科
ハゼ科
ネムリミズハゼ (情報不足)
シモフリシマハゼ

地域個体群 (1種)

サケ科
無班型が混在する
アマゴ個体群 (地域個体群)

頭 索 類

絶滅危惧 IA類 (1種)

ナメクジウオ科
ナメクジウオ

昆 虫 類

絶滅危惧 IA類 (9種)

トンボ科
コオイムシ科
ハンミョウ科
テントウムシ科
ハムシ科

シジミチョウ科

ベッコウトンボ (I)
タガメ (II)
ヨドシロヘリハンミョウ (II)
ギョウトクテントウ
カツラネクイハムシ (情報不足)
スゲハムシ
タイワンツバメシジミ
本土亜種 (I)
クロツバメシジミ (準)
シルビアシジミ本土亜種 (I)

絶滅危惧 IB類 (21種)

ヤマトンボ科
エゾトンボ科
エゾトンボ科
アメンボ科
キイロヤマトンボ (II)
ハネビロエゾトンボ
オオエゾトンボ
エサキアメンボ (準)

ナベブタムシ科
マキバサシガメ科
ハンミョウ科
ゲンゴロウ科

クワガタムシ科
タマムシ科
カミキリムシ科

シロチョウ科

シジミチョウ科

タテハチョウ科
ジャノメチョウ科

絶滅危惧 II類 (29種)

イトトンボ科
ムカシヤンマ科
サナエトンボ科
ヤンマ科
トンボ科

イトアメンボ科
コオイムシ科
サシガメ科
ツチカメムシ科
ハンミョウ科

オサムシ科

センチコガネ科
コガネムシ科

カミキリムシ科

コシブトハナバチ科
セセリチョウ科

シジミチョウ科

タテハチョウ科

トゲナベブタムシ
キバネアシブトマキバサシガメ
ルイスハンミョウ (II)
ゲンゴロウ (準)
コガタノゲンゴロウ (I)
オオクワガタ (準)
クロマダラタマムシ
モンクロベニカミキリ
ジュウジクロカミキリ
ブロイニングカミキリ
アサカミキリ (準)
スジボソヤマキチョウ
ヒメシロチョウ (II)
ゴマシジミ
中国地方・九州亜種 (II)
クロシジミ (I)
オオウラギンヒョウモン (I)
クロヒカゲモドキ (II)

モートンイトトンボ
ムカシヤンマ
キイロサナエ
ネアカヨシヤンマ
ハッチョウトンボ
オオキトンボ (II)
イトアメンボ (II)
コオイムシ (準)
ハリサシガメ
シロヘリツチカメムシ (準)
イカリモンハンミョウ (I)
ホソハンミョウ
クロカタビロオサムシ
セアカオサムシ
ウミホソチビゴムシ (準)
ムネアカセンチコガネ
アカマダラセンチコガネ
アカマダラコガネ
ケブカヒラタカミキリ
ヒメビロウドカミキリ
(情報不足)
ルリモンハナバチ
スジグロチャバネセセリ
(準)

ミドリシジミ
ウラムシシジミ
ミスジチョウ
シータテハ

タテハチョウ科
ジャノメチョウ科
ヤガ科

準絶滅危惧 (71種)

アオイトトンボ科
トゲオトンボ科
サナエトンボ科

ヤンマ科
タイコウチ科
マキバサシガメ科
サシガメ科
ツチカメムシ科
カメムシ科
ハンミョウ科
コツブゲンゴロウ科
ゲンゴロウ科

ガムシ科

ハネカクシ科

クワガタムシ科
コガネムシ科

ヒメドロムシ科

タマムシ科
テントウムシ科
カミキリムシ科

カミキリムシ科

オオムラサキ (準)
キマダラモドキ (準)
ヒメシロシタバ

オツネトンボ
トゲオトンボ
ウチワヤンマ
アオサナエ
オオルリボシヤンマ
ヒメミズカマキリ
アシブトマキバサシガメ
オオカモドキサシガメ (準)
ベニツチカメムシ
アカアシクサカメムシ
トウキョウヒメハンミョウ
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ
ヒメケシゲンゴロウ
チャイロチビゲンゴロウ
コクロマメゲンゴロウ
ヒコサンセシゲンゴロウ
テラニシセシゲンゴロウ
サワダマメゲンゴロウ
ツヤヒラタガムシ
マルヒラタガムシ
マルチビガムシ
コガタガムシ
エゾアリガタハネカクシ
シラフハイロハネカクシ
ネプトクワガタ
ゴホンダイコクコガネ
ダイコクコガネ (準)
ヒゲコガネ
オオチャイロハナムグリ (準)
コカブトムシ
クロサワドロムシ
ゴトウミゾドロムシ
アヤムネスジタマムシ
クロスジチャイロテントウ
イガブチヒゲハナカミキリ
ヒメヨツズハナカミキリ
ヒゲブトハナカミキリ
クロサワヒメコバネカミキリ
ヒコサンヒゲナガコバネカミキリ
アカアシオオアオカミキリ
オオアオカミキリ
ヨコヤマトラカミキリ
ヤマトシロオビトラカミキリ

カミキリムシ科

ハムシ科
ミツギリゾウムシ科
セイボウ科

ツリアブ科
ハナアブ科
マダラガ科
セセリチョウ科
シロチョウ科
シジミチョウ科

タテハチョウ科
ジャノメチョウ科
シャクガ科

スズメガ科
ヒトリガ科
ヤガ科

トラガ科

情報不足 (35種)

サシガメ科
ハンミョウ科
ゲンゴロウ科

タマムシ科

カミキリムシ科

マダラゴマフカミキリ
ムネホシシロカミキリ
エゾナガヒゲカミキリ
イッシキモンカミキリ
ホソリંગカミキリ
クロカメノコハムシ
エノキミツギリゾウムシ
ハラアカマルセイボウ
オオセイボウ本土亜種
クロバネツリアブ
ベッコウハナアブ
エサキマダラ
ギンイチモンジセセリ (準)
ツマグロキチョウ (II)
スギタニルリシジミ
九州亜種

ウラクロシジミ
カラスシジミ
ホシミスジ
ウラナミジャノメ (II)
オオツバメエダシャク
キイロミモンエダシャク
ヒメスズメ
キバネモンヒトリ
アカバキヨトウ
ウスイロキヨトウ
スミレモンキリガ
クロシオキシタバ
ツリフネソウトラガ

ビロウドサシガメ
クロバアカサシガメ
カワラハンミョウ (II)
マルガタゲンゴロウ
スジゲンゴロウ (I)
フチトリヒメヒラタタマムシ
サツマウバタマムシ
アオタマムシ
ツメアカナガヒラタタマムシ
トゲウスバカミキリ
ヒラヤマコバハナカミキリ
クロサウヘリグロハナカミキリ
キューシュウヒメコバハナカミキリ
オニホソコバネカミキリ
スネケバヒロコバネカミキリ
キジマトラカミキリ
エゾトラカミキリ

(情報不足)

カミキリムシ科

ゾウムシ科

イラガ科

シジミチョウ科

カレハガ科

スズメガ科

シャチホコガ科

ドクガ科

ヤガ科

カラフトヒゲナガカミキリ
フタモンアラゲカミキリ
タカハシトゲゾウムシ
ベニイラガ
ヒサマツミドリシジミ
ルーマシシジミ (II)
ヒメシジミ
本州九州亜種 (準)
オオルリシジミ (I)
ミヤケカレハ
ヒサゴスズメ
アカシャチホコ
トラサンドクガ
ツマアカキヨトウ
ブンゴキヨトウ
ナカスジキヨトウ
ナマリキシタバ
オニベニシタバ
ヒメウンモンクチバ

クモ類

絶滅危惧 IA類 (1種)

トタテグモ科

キノボリトタテグモ (準)

準絶滅危惧 (12種)

ヒメグモ科

コガネグモ科

ササグモ科

アシダカグモ科

カニグモ科

ハエトリグモ科

ツクネグモ

ツノヒシガタグモ
アカオニグモ
イエオニグモ
チュウガタコガネグモ
コガネグモ
タニマノドヨウグモ
ゲホウグモ
クリチャササグモ
カマスグモ
フノジグモ
オオクマアメロハエトリ

情報不足 (20種)

ヒメグモ科

サラグモ科

ハラダカツクネグモ
オオツリガネヒメグモ
マルサラグモ類
ヨツボシサラグモ類
ヌカグモ類
ゴマグモ類

サラグモ科

センショウグモ科

コガネグモ科

アシナガグモ科

ミズグモ科

ヒトエグモ科

ホウシグモ科

タナグモ科

カニグモ科

ハエトリグモ科

地域個体群 (8種)

キムラグモ科

マシラグモ科

ホラヒメグモ科

サラグモ科

アカムネグモの1種
ナンキングモ類
チビサラグモの1種
(和名未定)
キジロオヒキグモ
ヒカリアシナガグモ
ミズグモ (II)
ヒトエグモの1種
ドウシグモ (情報不足)
ウスイロヤチグモ
ミカドヤチグモ
ヤチグモ類
クロボシカニグモの1種
アリグモの1種

ブンゴキムラグモ (II)

マシラグモ

フウレンホラヒメグモ
ブンゴホラヒメグモ
ソボホラヒメグモ
カリウホラヒメグモ
ホラヒメグモ類
ヤミサラグモ類

甲殻類

絶滅危惧 IA類 (1種)

オカヤドカリ科

ムラサキオカヤドカリ

絶滅危惧 IB類 (1種)

カブトガニ科

カブトガニ (I)

絶滅危惧 II類 (2種)

ヘイケガニ科

スナガニ科

ヘイケガニ

シオマネキ (準)

準絶滅危惧 (3種)

スナガニ科

カブトエビ科

ハクセンシオマネキ (準)
アリアケモドキ
アジアカブトエビ

陸・淡水産貝類

絶滅危惧 IA類 (10種)

ユキスズメガイ科

ミズゴマツボ科

トウガタカワニナ科

スナガイ科

キセルガイ科

ヒナユキスズメガイ

ミヤコドリガイ

オンセンミズゴマツボ (I)

タケノコカワニナ

チョウセンスナガイ

アラナミギセルガイ

ヒメシロギセルガイ (I)

タケノコギセルガイ (I)

カスガコギセルガイ (I)

ナンバンマイマイ科

シコクヒロウドマイマイ (準)

絶滅危惧 IB類 (16種)

アマオブネガイ科

ムシオイガイ科

ワカウラツボ科

カワザンショウガイ科

ドロアワモチ科

オカミミガイ科

ヒロクチカノコガイ

オナガラムシオイガイ (I)

ワカウラツボ

ツブカワザンショウガイ

ヨシダカワザンショウガイ

センベイアワモチ

オカミミガイ

ナラビオカミミガイ

キヌカツギハマシノミガイ

クリイロコミミガイ

ウスコミミガイ

ウブギセルガイ (II)

ナンビギセルガイ (I)

オオイタシロギセルガイ (I)

ハナコギセルガイ (I)

キセルガイ科

オナジマイマイ科

カンダマイマイ (I)

絶滅危惧 II類 (8種)

エゾマメタニシ科

カワザンショウガイ科

ヒラマキガイ科

キセルガイモドキ科

キセルガイ科

ヒメマルマメタニシ (II)

ムシヤドリカワザン

ンショウガイ

クルマヒラマキガイ (II)

ホソキセルガイモドキ (準)

ミヤザギセルガイ (II)

カタギセルガイ

ヒロクチコギセルガイ (II)

ベッコウマイマイ科

カンダベッコウマイマイ (情報不足)

準絶滅危惧 (12種)

ヤマキサゴ科

ゴマガイ科

ミズツボ科

キセルガイ科

ヤマキサゴ

オオウエゴマガイ

ホラアナミジンナ (II)

トサギセルガイ

ピルスブリギセルガイ

カワモトギセルガイ (II)

スギモトギセルガイ (準)

オキモドキセルガイ (準)

キュウシュウナミコギセルガイ

ベッコウマイマイ科

テラマチベッコウマイマイ (準)

ナンバンマイマイ科

オオウスヒロウドマイマイ (II)

イシガイ科

マツカサガイ (準)

情報不足 (2種)

モノアラガイ科

キセルガイ科

ハマダモノアラガイ (I)

ピントノミギセルガイ

自然公園・自然環境保全地域



種 別	公 園
	国 立 公 園
	国 定 公 園
	県 立 自 然 公 園
	自 然 環 境 保 全 地 域 自 然 海 浜 保 全 地 区

おわりに

『レッドデータブックおおいた』～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～は、平成13年3月、大分県から刊行されました。これには、絶滅種、情報不足種を含め、植物739種、動物396種、計1,135種の選定種が掲載され、生物の分類群ごとに、その現状や絶滅のおそれの要因などが解説されています。平成9年7月に、大分県野生生物保護対策検討委員会が発足し、組織的に調査研究が進められ、その現状が明らかにされてきました。その成果をできるだけ利用しやすく編集して刊行したものです。さらに今回、多くの方々にご理解をいただくため、この普及版が発行されました。

本書は、多くの写真を掲載して、さらに分かりやすく編集してあります。大分県の自然と生物とを地域ごとに紹介し、絶滅危惧種について大分県を特に特徴づける選定種158種を厳選して解説してあります。

大分県の豊かな自然に生きてきた多様な野生生物のなかで、長年にわたる私たち人間の生活・生産活動で、絶滅の危険性が高くなったものが多くなってきました。一方で、人と自然、そして野生生物とも共生していくという思潮が広がっていき、各所で希少野生生物の保護対策が講じられ、開発事業においても環境に配慮されるようになり、人々の自然保護活動も高まってまいりました。この普及版も、こうした普及活動や保護活動に一役を担うものと期待しています。

昨今、絶滅の危険性が高い野生生物の生息環境を保全するために、道路のコースが変更されたり、工事方法が改善されたりしています。港湾や河口などの改修では、塩湿地や干潟の生物に対して慎重な配慮がなされるようになってきました。また、様々な自然保護活動も随所に展開されています。あるため池の土手に「この池は希少動植物の生息地です。動植物の採取及びアメリカザリガニ、ブラックバスなどの

持ち込みを禁止します」と、表示されていました。ため池の生態系を守り、絶滅危惧種を保護しようとする訴えです。

このように、大分の自然に育まれてきた、かけがえのない希少な野生生物が、多くの方々のご協力で救われるようになってまいりました。どうか、皆様方も身近な自然のなかで、絶滅の危険性が高い野生生物の現状をご理解いただき、その保護・保全につきましても積極的なご支援を寄せてくださいますようお願いいたします。なお、これらに関する情報やご意見がありましたら、下記あてにご連絡いただければ幸いです。

終わりにになりましたが、『レッドデータブックおおいた』の普及版の発行にご尽力いただいた各位に対し、深甚の謝意を表します。

大分県野生生物保護対策検討委員会委員長

荒 金 正 憲

情報やご意見の提供先

大分県生活環境部生活環境課

〒870-8501 大分市大手町3丁目1-1
Tel. 097-536-1111 Fax. 097-532-7671

和 名 索 引 (植 物)

ア	サ
アカウキクサ……………52	サカゲイノデ……………45
アサザ……………112	サクラソウ……………111
アソシケシダ……………49	サワギキョウ……………120
イカリソウ……………87	サンカクイ……………60
イトゴケ……………130	シナミズニラ……………37
イワカガミ……………105	シモツケソウ……………95
イワデンダ……………48	スギラン……………36
ウバタケギボウシ……………65	センダイソウ……………94
ウメガサソウ……………106	ソハヤキトンボソウ……………72
ウメバチソウ……………91	
エヒメアヤメ……………67	タ
オキナグサ……………86	タガネラン……………69
オグラセンノウ……………80	タコノアシ……………90
オトメクジャク……………42	タシロスゲ……………59
オニバス……………81	タマボウキ……………63
	タンナトリカブト……………82
カ	チョクザキミズ……………76
カイジンドウ……………116	ツクシアケボノツツジ……………108
カザグルマ……………84	ツクシシオガマ……………117
カネコシダ……………38	ツクシタンボボ……………124
カミガモシダ……………44	ツクシドウダン……………107
キスミレ……………101	ツクシノキシノブ……………50
キドイノモトソウ……………43	ツクシヒトツバテンナンショウ……………62
キリシマシャクジョウ……………68	ツクシビャクシン……………55
クジュウツリスゲ……………58	ツクシフウロ……………98
クズモダマ……………97	ツクシボウフウ……………104
クマガイソウ……………70	ツチトリモチ……………78
クマノゴケ……………128	テツホシダ……………47
クロバナイヨカズラ……………114	デンジソウ……………51
クロフネサイシン……………77	トモエソウ……………100
グンバイヒルガオ……………115	
ケカモノハシ……………57	ナ
ケナシヤシャビシャク……………92	ナゴラン……………73
コアナミズゴケ……………127	ナメラダイモンジソウ……………93
コウライトモエソウ……………100	ニセヨゴレイタチシダ……………46
コウリングク……………123	
コケモモ……………109	

和 名 索 引 (動 物)

ア	ハ
アオバズク……………145	ギョウトクテントウ……………182
アカザ……………164	クサガメ……………154
アカショウビン……………147	クマタカ……………139
アカマダラセンチコガネ……………179	クロサワヒメコバネカミキリ……………183
アサカミキリ……………186	クロシジミ……………191
アジアカブトエビ……………208	クロツバメシジミ……………192
アリアケギバチ……………163	クロマダラタマムシ……………181
アリアケモドキ……………206	ゲンゴロウ……………178
イヌワシ……………140	コアジサシ……………143
エサキアメンボ……………173	コガネグモ……………202
オオイタサンショウウオ……………158	サ
オオイタシロギセルガイ……………214	サンコウチョウ……………149
オオエゾトンボ……………170	サンショウクイ……………148
オオサンショウウオ……………157	シルビアシジミ 本土亜種……………193
オオダイガハラサンショウウオ……………159	シロマダラ……………153
オオチャイロハナムグリ……………180	ジュウジクロカミキリ……………184
オナガラムシオイガイ……………211	スジボソヤマキチョウ……………188
オンセンミズゴマツボ……………212	ズグロカモメ……………142
	タ
カ	タイワンツバメシジミ 本土亜種……………190
カツラネクイハムシ……………187	タガメ……………174
カブトガニ……………207	ツクネグモ……………200
カラスバト……………144	トノサマガエル……………160
カワアナゴ……………165	トビハゼ……………166
キクガシラコウモリ……………135	
キマダラモドキ……………194	ハ
	ハクセンシオマネキ……………205
	ハッチョウトンボ……………172
	ハリサシガメ……………175
	ヒクイナ……………141
	ヒメシロシタバ……………196
	ヒメシロチョウ……………189
	ヒメスズメ……………195
	ブロイニングカミキリ……………185
	ブンゴキムラグモ……………199
	ベッコウトンボ……………171
	ホシガラス……………150
	ホラヒメグモ類……………201
	マ
	ムササビ……………136
	モートンイトトンボ……………169
	ヤ
	ヨタカ……………146
	ヨドシロヘリハンミョウ……………176
	ラ
	ルイスハンミョウ……………177
	ワ
	ワカウラツボ……………213

レッドデータブックおおいた

～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～
〈普及版〉

平成14年(2002)年3月1日発行

編 集 大分県自然環境学術調査会野生生物専門部会

発 行 大分県生活環境部生活環境課
〒870-8501
大分市大手町3丁目1番1号

印 刷 佐伯印刷株式会社



この印刷物は
再生紙を使用しています。

Red Data Book